

島田市総合計画後期基本計画最終年度（平成29年度）
めざそう値及び市民意識調査の実績値から見る

「島田市総合計画後期基本計画の評価について」

平成 30 年 11 月
島 田 市

目 次

はじめに	1
1. めざそう値全体の達成率	2
2. 市民意識調査の結果（満足度調査 44 項目）	3
3. 後期基本計画に掲げた重点プロジェクトにおける評価	5
4. 後期基本計画の章ごとの評価 （「めざそう値」と市民意識調査「満足度」の関係）	9
5. めざそう値の実績値に対する個別評価	16
■第1章	17
■第2章	24
■第3章	34
■第4章	40
■第5章	50
■第6章	56
■第7章	65

【はじめに】

島田市総合計画後期基本計画の期間（平成26年度～平成29年度）の満了に伴い、めざそう値及び市民意識調査の実績値から、計画の評価を行いました。

■総合計画計画期間

年度(平成)	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	…
基本構想	(第1次) 島田市総合計画 基本構想									第2次 島田市総合計画			
基本計画	前期基本計画					後期基本計画 (本計画)							
実施計画						■							
						■		■					
							■			■			

●めざそう値

後期基本計画に設定した施策の達成状況を測るための指標です。全部で100項目設定し、行政側の視点からの評価となります。平成24年度の実績値を基準値として、計画最終年度となる平成29年度の目標値を設定しています。

実績値、目標値は基本的に累計により示すこととしていますが、年間数値を用いる場合もあります。

●市民意識調査

市民意識を年に1回調査し、その結果の経年変化等を分析することにより、今後の施策等の立案や施策の評価、総合計画の進捗管理のための基礎資料とするものです。

調査内容には、行政の取組に対する満足度や重要度などが含まれ、市民側の視点からの評価となります。

今回の評価は、後期基本計画策定時に把握した平成25年度実施の市民意識調査と、平成30年度実施の市民意識調査の結果を比較して、後期基本計画期間の市民意識の変化を表しています。

各項目の満足度や重要度は点数で表しています。算出方法につきましては、満足度・重要度を下表のような配分で点数化し、その点数の合計値を、無回答を除いた各設問の回答数で割り、満足度・重要度を得点化しています。

■満足度／重要度の点数化の基準

満足度／重要度	得点	満足度／重要度	得点
満足／重要	5点	不満／重要ではない	-5点
やや満足／やや重要	3点	わからない	0点
やや不満／あまり重要ではない	-3点	無回答	計算対象外

1. めざそう値全体の達成率

後期基本計画最終年度（平成29年度）のめざそう値の実績値から、達成率を算出しました。

$$\text{達成率} = \frac{\text{「平成29年度の実績値」} - \text{「基準値（平成24年度の実績値）」}}{\text{「計画策定時に設定した目標値」} - \text{「基準値（平成24年度の実績値）」}} \times 100$$

算出した達成率は、

80%以上・・・A評価（目標を概ね達成したもの）

50%以上80%未満・・・B評価（一定の成果が得られたもの）

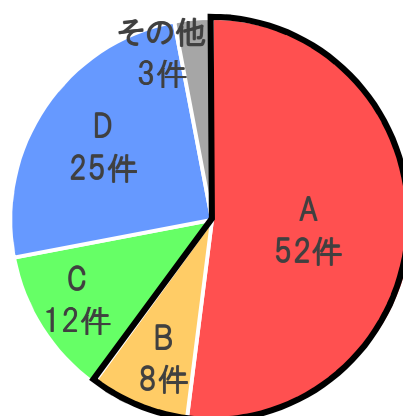
20%以上50%未満・・・C評価（一部の成果しか得られなかったもの）

20%未満・・・D評価（ほとんど成果が得られなかったもの）

の4段階で評価しています。なお、後期基本計画期間中に事業を廃止したなどにより、数値が得られないものについては、「その他」としています。

■めざそう値（100項目）の達成率の割合

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	52	52.0
B評価（50%以上80%未満）	8	8.0
C評価（20%以上50%未満）	12	12.0
D評価（20%未満）	25	25.0
評価できないもの（その他）	3	3.0



島田市総合計画では「人と産業・文化の交流拠点 水と緑の健康都市 島田」を将来像に掲げ、7つの章（大綱）とその配下にある施策の柱に基づくまちづくりを進めてきました。

後期基本計画においては、計画の実施により各施策がどの程度推進できたのかを測るための指標として「めざそう値」を各章における施策の柱ひとつにつき、1～5項目程度設定しています。

めざそう値の達成率の割合をみると、A評価、B評価を合わせると60%となり、一定の成果が得られたと判断されます。成果があまり得られなかったと判断されるC評価、D評価については37%ありますが、社会的要因による影響を受けたもの（人口減少、景気低迷など）や、施策の方針変更に伴い数値が伸びなかったものも含まれていることも影響しています。

上記達成率に基づく評価は、定量的な視点によるもので、数値には現れない定性的な視点から見た成果もあるため、めざそう値の個々の評価として、「5. めざそう値の実績値に対する個別評価」で詳しい内容を記載しています。

なお、めざそう値は各施策において取組の一部を示すに留まるものであり、必ずしもめざそう値の達成状況だけで、施策のすべてを評価できるものではありません。

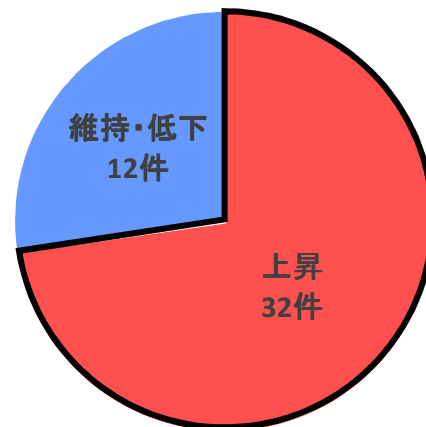
2. 市民意識調査の結果（満足度調査44項目）

市民意識調査の中で、市政に関する44の取組項目について、それぞれ満足度と重要度を聞いています。特に満足度については、32項目（約73%）で上昇が見られました。

また、後期基本計画に掲げた7つの章ごとに見ても、それぞれの章において複数の項目に満足度の上昇が見られます。

【章ごとの結果（満足度が上昇した項目数）】

- 第1章 8項目（11項目中）
- 第2章 2項目（4項目中）
- 第3章 8項目（8項目中）
- 第4章 2項目（5項目中）
- 第5章 2項目（3項目中）
- 第6章 4項目（6項目中）
- 第7章 6項目（7項目中）



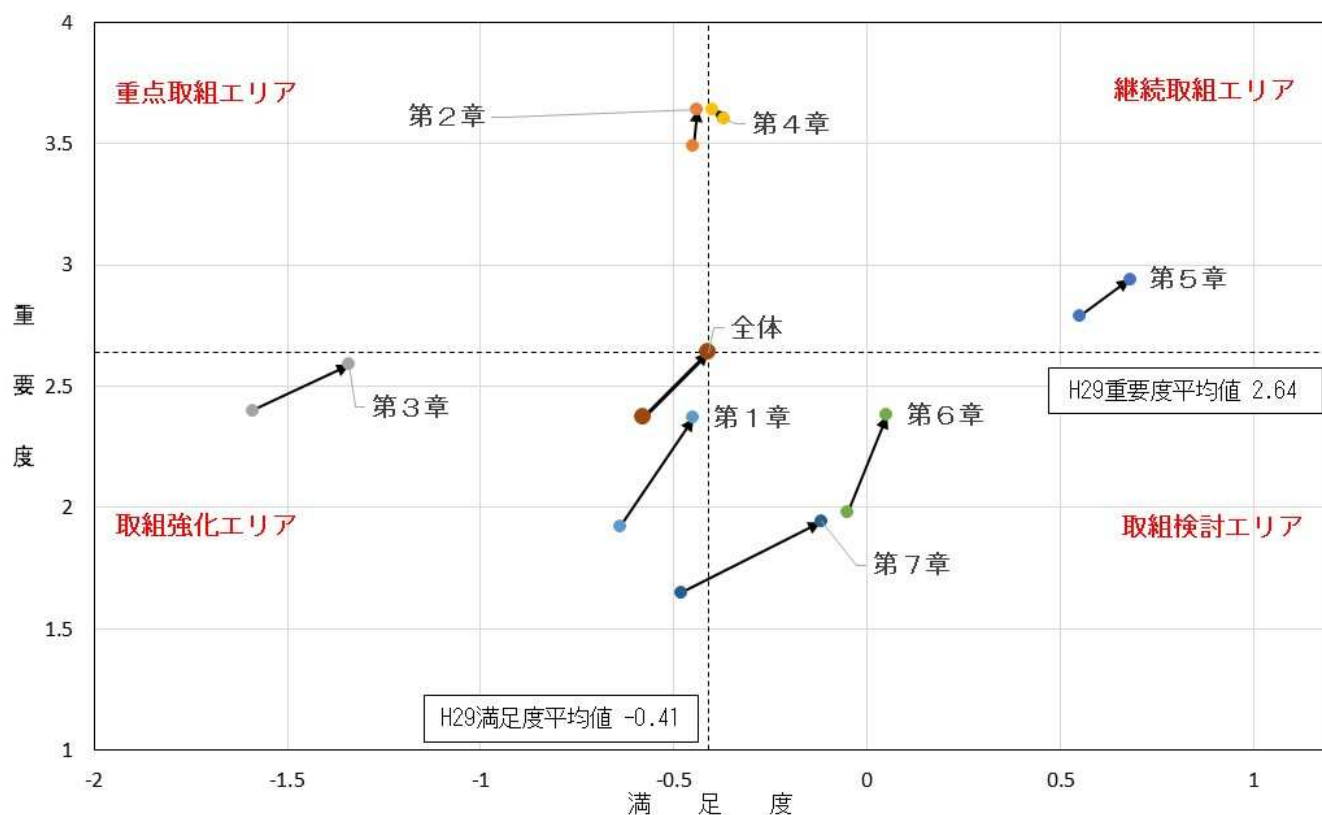
【7つの章ごとの満足度・重要度の経年変化】

	満足度			重要度		
	平成25年度	平成30年度	増減	平成25年度	平成30年度	増減
第1章	-0.64	-0.45	0.19	1.92	2.37	0.45
第2章	-0.45	-0.44	0.01	3.49	3.64	0.15
第3章	-1.59	-1.34	0.25	2.40	2.59	0.19
第4章	-0.37	-0.40	-0.03	3.60	3.64	0.04
第5章	0.55	0.68	0.13	2.79	2.94	0.15
第6章	-0.05	0.05	0.10	1.98	2.38	0.40
第7章	-0.48	-0.12	0.36	1.65	1.94	0.29
全体	-0.58	-0.41	0.17	2.37	2.64	0.27

※全体の平均値は、市民意識調査における44項目の取組から平均値を算出しているため、章ごとに算出した値の平均とは一致しません。

後期基本計画に掲げた章ごとの満足度・重要度の平均値の推移を散布図に表すと、下図とおりとなり、計画期間において、全体の推移を見ると満足度・重要度ともに、上昇していることが分かります。

【点数化した満足度・重要度の推移（H25→H30）】

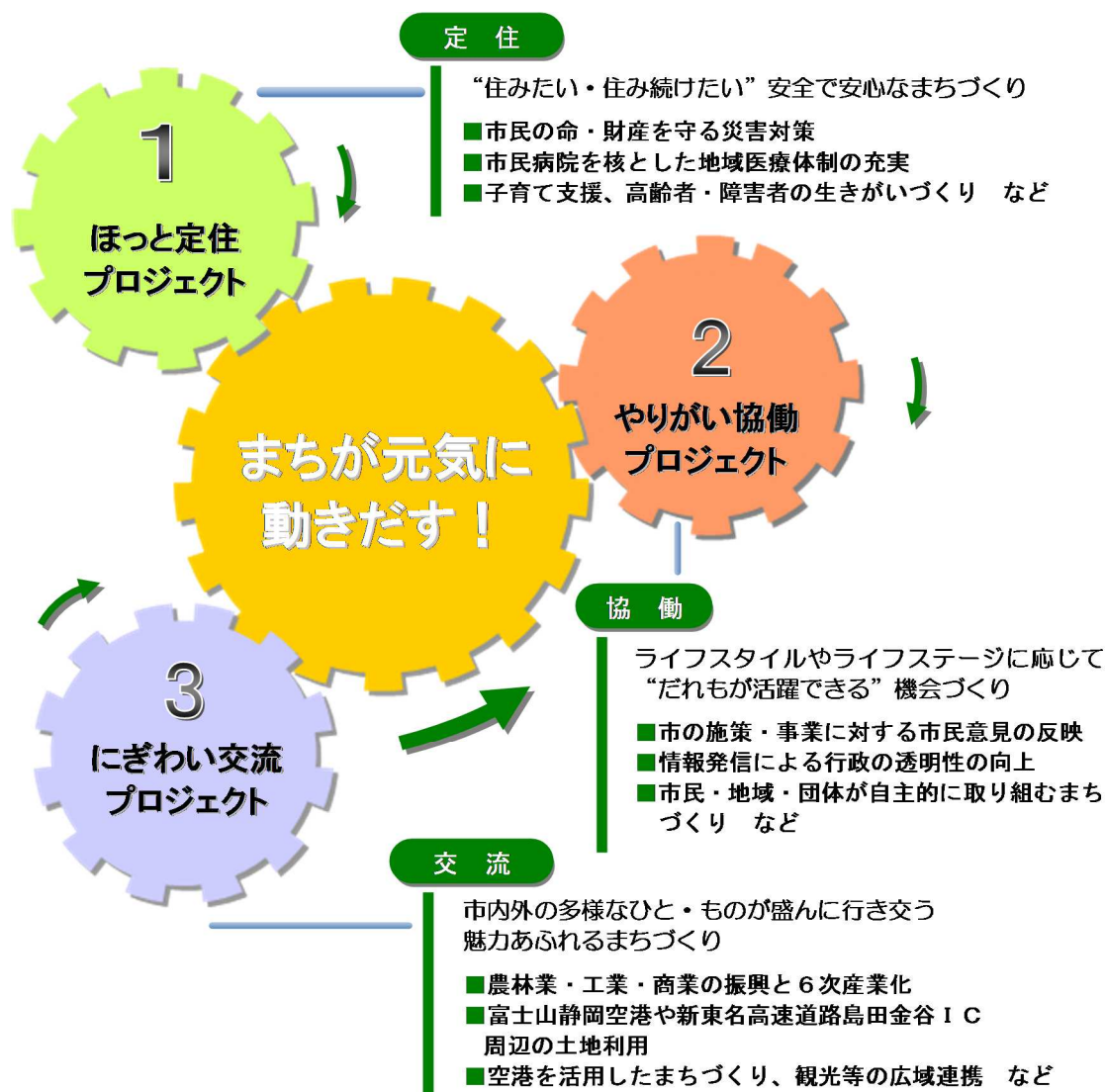


- ・満足度についてみると、第5章「自然と共生する資源循環型のまち」で最も高く、第3章「産業がいきいきと活発なまち」で最も低くなっています。
- ・重要度についてみると、第2章「市民が安全・安心に暮らせるまち」、第4章「だれもが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち」で最も高く、第7章「市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」で最も低くなっています。
- ・満足度の伸び幅で見ると、第7章「市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」が最も大きい結果となっています。

以降のページにおいて、「めざそう値の達成率（行政側の視点からの評価）」と「市民意識調査の結果（市民側の視点からの評価）」を組み合わせ、「後期基本計画に掲げた重点プロジェクト」と「後期基本計画で設定した章」ごとに評価しています。

3. 後期基本計画に掲げた重点プロジェクトにおける評価

後期基本計画では、人口減少社会における持続・発展可能なまちづくりを進めるため、3つの重点プロジェクトを掲げました。この3つのプロジェクトは、後期基本計画策定時に実施した市民意識調査で設定した44の取組項目のうち、重要度は高いが、満足度が低い結果となった20項目を中心に設定しています。

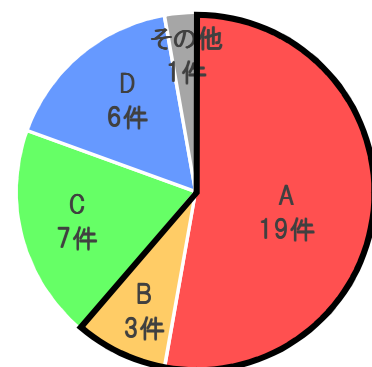


①ほっと定住プロジェクト

“住みたい・住み続けたい”安全で安心なまちづくりによる定住促進

■関連するめざそう値の達成率（全36項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	19	52.8
B評価（50%以上80%未満）	3	8.3
C評価（20%以上50%未満）	7	19.4
D評価（20%未満）	6	16.7
評価できないもの（その他）	1	2.8



めざそう値指標例

「新島田市民病院建設に係る進捗率（p.47）」、「市民の地域防災訓練参加者数（p.24）」
「放課後児童クラブ定員数・箇所数（p.41）」など

■構成する取組（11項目）及びそれに関連する市民満足度・重要度（単位：点）

	満足度の推移 (H25⇒H30)			重要度の推移 (H25⇒H30)		
医療の充実	-1.03		-1.03	4.08		4.17
地震・水害など災害に強いまちづくり	-0.75		-0.89	3.84		4.10
障害者が生活しやすい環境づくり	-1.01		-0.95	3.43		3.27
雇用の確保・勤労者福祉の充実	-2.01		-1.44	3.42		3.18
生活に密着した道路の整備と維持管理	-0.54		-1.15	3.35		3.20
安心できる消費生活の実現	-0.94		-0.60	3.21		3.08
公共交通機関の充実	-0.86		-1.47	2.61		3.17
高齢者の医療・介護・福祉の充実	-0.57		-0.85	3.78		3.69
犯罪防止対策	0.07		-0.17	3.54		3.81
交通安全対策	-0.17		-0.08	3.38		3.57
保育環境の充実や子育てへの支援	-0.09		0.04	3.36		3.45
平均	-0.72		-0.78	3.45		3.52

【考察】

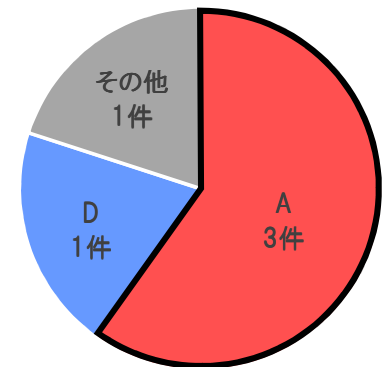
- ・関連するめざそう値は、61%（36項目中22項目）がA，B評価となりました。
- ・満足度は、45%（11項目中5項目）が上昇しました。
- ・重要度は、54%（11項目中6項目）が上昇しました。
- ・満足度の平均値が低下し、重要度は上昇する結果となりました。
- ・運行形態や運賃負担のあり方など、全体的な見直しを図ったコミュニティバスについては、関連するめざそう値「コミュニティバス利用者数（p.19）」はD評価となり、市民意識調査「公共交通機関の充実」は満足度が下がり重要度が上がるという結果になっています。公共交通機関の充実については、第2次島田市総合計画の中で交通空白地域の解消や、タクシーを利用した移動手段の構築など、効果的で持続性の高い公共交通体系の構築に取り組んでいくことを掲げています。
- ・めざそう値「放課後児童クラブ定員数・箇所数（p.41）」がA評価になったことをはじめ、保育園の待機児童ゼロに向けた取組や、保育料の第2子半額・第3子以降無償化など、市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」の満足度の上昇につながったと考えられます。
- ・市民満足度・重要度の平均値について、満足度が低下、重要度は上昇となり、市民の防災、防犯、公共交通に関する意識が高まってきたことが考えられます。第2次島田市総合計画の将来像に掲げた「笑顔あふれる 安心のまち 島田」の実現に向け、今後も関連する施策に重点を置き取り組んでいく必要があります。

②やりがい協働プロジェクト

ライフスタイルやライフステージに応じて“誰もが活躍できる”機会づくりによる協働推進

■関連するめざそう値の達成率（全5項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	3	60.0
B評価（50%以上80%未満）	0	0.0
C評価（20%以上50%未満）	0	0.0
D評価（20%未満）	1	20.0
評価できないもの（その他）	1	20.0



めざそう値指標例

「広報しまだ閲覧率（p.23）」、「市民ファシリテーターの養成人数（p.65）」など

■構成する取組（3項目）及びそれに関連する市民満足度・重要度（単位：点）

	満足度の推移 (H25⇒H30)			重要度の推移 (H25⇒H30)		
市の施策・事業などに対する市民意見の反映	-0.84	▲	-0.27	1.82	▲	2.12
市民と行政の協働のまちづくりの推進	-0.84	▲	-0.27	1.82	▲	2.12
市の健全な財政運営	-1.11	▲	-0.55	3.79	▲	3.51
情報公開など行政の透明性の向上	-0.92	▲	-0.14	2.89	▲	2.82
平均	-0.96	▲	-0.32	2.83	▲	2.82

【考察】

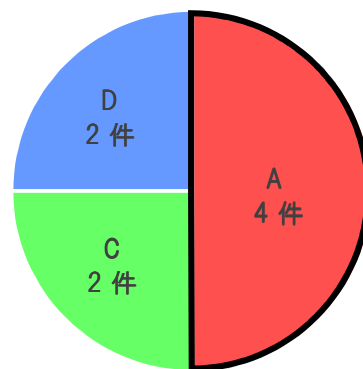
- ・関連するめざそう値は、60%（5項目中3項目）がA，B評価となりました。
- ・満足度は、100%（3項目すべて）が上昇しました。
- ・重要度は、33%（3項目中1項目）が上昇しました。
- ・満足度の平均値は上昇し、重要度の平均値は低下する結果となりました。
- ・「市の施策・事業などに対する市民意見の反映、市民と行政の協働のまちづくりの推進」については、満足度、重要度とも上昇しています。行政の業務において、市民とともに課題に立ち向かっていくために、後期基本計画の各施策の柱において協働のモデルを設定し、施策を進めてきたことをはじめ、ワークショップ、出前講座、車座トークなどを開催し、市民の意見を市政に反映してきたことの成果が現れていると考えられます。
- ・めざそう値「市ホームページ総ページビュー数（p.23）」はD評価となりましたが、公式ホームページでの情報発信のほか、広報紙の充実や、SNSやコミュニティFMの活用など、多様なメディアを活用した戦略的な情報発信の取組の成果が、市民意識調査「情報公開など行政の透明性の向上」の満足度の上昇につながったと考えられます。なお、めざそう値「広報しまだ閲覧率（p.23）」は、A評価となり、広報紙の充実が市民の評価につながっていると考えられます。

③にぎわい交流プロジェクト

市内外の多様なひと・ものが盛んに行き交う魅力あふれるまちづくりによる交流促進

■関連するめざそう値の達成率（全8項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	4	50.0
B評価（50%以上80%未満）	0	0.0
C評価（20%以上50%未満）	2	25.0
D評価（20%未満）	2	25.0
評価できないもの（その他）	0	0.0



めざそう値指標例

「地域産業振興事業費補助件数（p.36）」、「企業立地促進事業費補助件数（p.36）」など

■構成する取組（6項目）及びそれに関連する市民満足度・重要度（単位：点）

	満足度の推移 (H25⇒H30)			重要度の推移 (H25⇒H30)		
魅力ある商店街づくりなどの商業振興	-2.84	↗	-2.68	2.99	↗	3.18
計画的な土地利用の推進（土地の有効活用）	-1.62	↗	-1.17	2.41	↗	2.07
農林業の振興	-1.34	↗	-1.06	2.31	↗	2.31
企業への支援や誘致などの工業振興	-1.48	↗	-1.14	2.13	↗	2.28
まちの拠点としての駅周辺整備	-1.80	↗	-1.72	2.16	↗	2.92
富士山静岡空港を活用したまちづくり	-1.69	↗	-0.93	2.01	↗	2.31
平均	-1.80	↗	-1.45	2.34	↗	2.51

【考察】

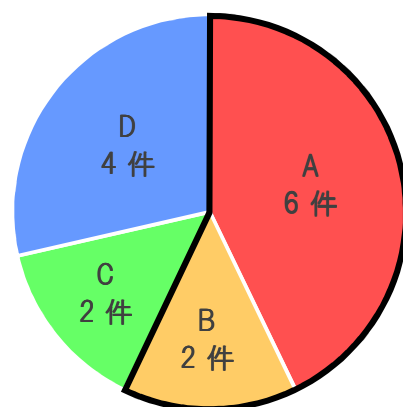
- ・関連するめざそう値は、50%（8項目中4項目）がA，B評価となりました。
- ・満足度は、100%（6項目すべて）が上昇しました。
- ・重要度は、67%（6項目中4項目）が上昇しました。
- ・満足度、重要度ともに平均値が上昇する結果となりました。
- ・にぎわい交流プロジェクトについては、めざそう値「地域産業振興事業費補助件数（p.36）」や「企業立地促進事業費補助件数（p.36）」がA評価だったことをはじめ、旧金谷中学校跡地の活用や新東名島田金谷インターチェンジ周辺地域の開発などの施策が目に見える形で動き出していることが成果として満足度に現れていると考えられます。
- ・商工業の振興、まちの拠点整備など、満足度・重要度ともに上昇しています。しかし、満足度の平均値は低い位置（マイナス）にあるため、現在の取組を強化していく必要があります。

4. 後期基本計画の章ごとの評価（「めざそう値」と市民意識調査「満足度」の関係）

第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

【行政評価】めざそう値評価（全14項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	6	42.8
B評価（50%以上80%未満）	2	14.3
C評価（20%以上50%未満）	2	14.3
D評価（20%未満）	4	28.6
評価できないもの（その他）	0	0.0



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

（単位：点）

項 目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
主要な道路（地域間を結ぶ比較的広い道路）の整備	0.18	➡	0.17	-0.01
生活に密着した道路（地域内を通る比較的狭い道路）の整備と維持管理	-0.54	➡	-1.15	-0.61
公共交通機関の充実	-0.86	➡	-1.47	-0.61
計画的な土地利用の推進（土地の有効活用）	-1.62	➡	-1.17	0.45
公園の整備	-0.85	➡	-0.51	0.34
霊園の整備	-0.36	➡	-0.12	0.24
住宅地の整備や良質な住まいづくりの促進（安心して暮らせる居住環境の整備）	-0.60	➡	0.00	0.60
上下水道の整備	-0.15	➡	0.15	0.30
地域情報化の推進	-0.70	➡	-0.22	0.48
心地よい景観の形成	0.12	➡	0.34	0.22
富士山静岡空港を活用したまちづくり	-1.69	➡	-0.93	0.76
平均	-0.64	➡	-0.45	0.19

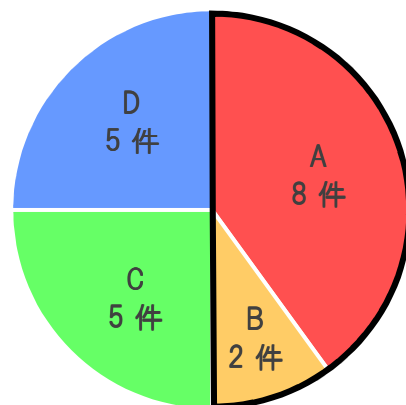
【考察】

- ・めざそう値は、57%（14項目中8項目）がA，B評価となりました。
- ・市民満足度は、73%（11項目中8項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「地区計画の指定（p.20）」に関連する市民意識調査「計画的な土地利用の推進」の満足度が上昇しています。
- ・A評価となった、めざそう値「公園・緑地整備面積（p.21）」、「配水池耐震化率（p.20）」に関連する市民意識調査「公園の整備」、「上下水道の整備」の満足度が上昇しています。
- ・目標達成に至らなかった、めざそう値「コミュニティバス利用者数（p.19）」については、関連する市民意識調査「公共交通機関の充実」の満足度も低下しています。
- ・第1章ではインフラ等の整備に係るめざそう値の達成状況と、市民意識調査の満足度に相関関係が見られました。70%を超える項目で満足度が上昇していることから、今後も、市の財政状況を踏まえつつ計画的に施策を展開していく必要があります。

第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

【行政評価】めざそう値評価（全20項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	8	40.0
B評価（50%以上80%未満）	2	10.0
C評価（20%以上50%未満）	5	25.0
D評価（20%未満）	5	25.0
評価できないもの（その他）	0	0.0



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

(単位：点)

項 目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
交通安全対策	-0.17	➡	-0.08	0.09
犯罪防止対策	0.07	➡	-0.17	-0.24
地震・水害など災害に強いまちづくり	-0.75	➡	-0.89	-0.14
安心できる消費生活の実現	-0.94	➡	-0.60	0.34
平均	-0.45	➡	-0.44	0.01

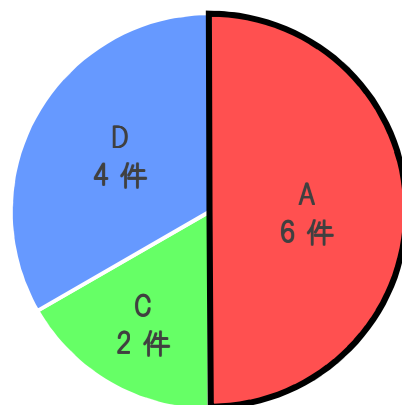
【考察】

- ・めざそう値は、50%（20項目中10項目）がA、B評価となりました。
- ・市民満足度は、50%（4項目中2項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「消費者被害防止啓発講座開催回数（p.32）」、「消費生活用製品安全法に基づく立入検査実施数（p.33）」に関連する市民意識調査「安心できる消費生活の実現」の満足度が上昇しています。
- ・A評価となった、めざそう値「交通事故（人身事故）発生件数（p.31）」に関連する市民意識調査「交通安全対策」の満足度が上昇しています。
- ・めざそう値「年間犯罪発生件数（p.29）」はA評価でしたが、めざそう値「地域の見守りネットワーク数（p.30）」などが目標達成に至りませんでした。なお関連する市民意識調査「犯罪防止対策」の満足度は低下しています。
- ・めざそう値「雨水幹線整備率（p.26）」、「がけ地近接等危険住宅移転事業による移転戸数（p.27）」はともにA評価でしたが、めざそう値「民間住宅の耐震化率（p.25）」などが目標達成に至りませんでした。なお、関連する市民意識調査「地震・水害など災害に強いまちづくり」の満足度は低下しています。
- ・第2章では、満足度の増減が概ね横ばいという結果になりました。特に、近年これまで経験したことのない大規模災害の発生や高齢者や子どもが被害者となる犯罪の増加により、市民の防災や防犯に対する意識の高まりが見られます。市民の安全・安心を守るためにも、今後も危機管理体制の強化や防犯対策の強化に努めていきます。

第3章 産業がいきいきと活発なまち

【行政評価】めざそう値評価（全12項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	6	50.0
B評価（50%以上80%未満）	0	0.0
C評価（20%以上50%未満）	2	16.7
D評価（20%未満）	4	33.3
評価できないもの（その他）	0	0.0



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

（単位：点）

項 目	満足度の推移 『H25』 ⇒ 『H30』			増減
農林業の振興	-1.34	↗	-1.06	0.28
特産品・地場産業の振興	-0.58	↗	-0.42	0.16
山間地域の振興	-1.11	↗	-0.94	0.17
企業への支援や誘致などの工業振興	-1.48	↗	-1.14	0.34
雇用の確保・勤労者福祉の充実	-2.01	↗	-1.44	0.57
魅力ある商店街づくりなどの商業振興	-2.84	↗	-2.68	0.16
まちの拠点としての駅周辺整備	-1.80	↗	-1.72	0.08
地域の特色を生かした観光の振興	-1.53	↗	-1.30	0.23
平均	-1.59	↗	-1.34	0.25

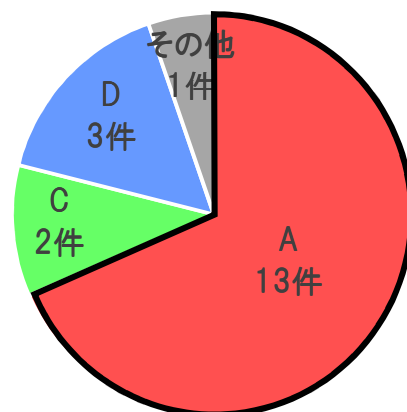
【考察】

- ・めざそう値は、50%（12項目中6項目）がA評価となりました。
- ・市民満足度は、8項目の全てが上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「人・農地プラン経営体掲載数（p.34）」、「地域ブランド商品の認定数（p.37）」、「企業立地促進事業費補助件数（p.36）」、「川根温泉及び川根温泉ホテル利用者数（p.39）」に関連する全ての満足度が上昇しました。
- ・めざそう値「観光交流人口（p.38）」、「田代の郷温泉『伊太和里の湯』利用者数（p.39）」については、D評価となりましたが、関連する市民意識調査「地域の特色を生かした観光の振興」については上昇しています。島田大祭や金谷茶まつりなどの開催の有無が、数値を左右してしまうこともD評価となった一因と考えられます。
- ・第3章では、4年間の取組が評価され全ての満足度が上昇していますが、平成29年度における満足度の平均値は-1.34と7つの章の中で最も低くなっています。地域の魅力を最大限に活かし、更なる取組の強化が求められる分野であると言えます。

第4章 誰もが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

【行政評価】めざそう値評価（全19項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	13	68.4
B評価（50%以上80%未満）	0	0.0
C評価（20%以上50%未満）	2	10.5
D評価（20%未満）	3	15.8
評価できないもの（その他）	1	5.3



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

（単位：点）

項 目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
保育環境の充実や子育てへの支援	-0.09	↗	0.04	0.13
高齢者の医療・介護・福祉の充実	-0.57	↘	-0.85	-0.28
障害者が生活しやすい環境づくり	-1.01	↗	-0.95	0.06
健康の増進	0.87	↘	0.79	-0.08
医療の充実	-1.03	→	-1.03	0.00
平均	-0.37	↘	-0.40	-0.03

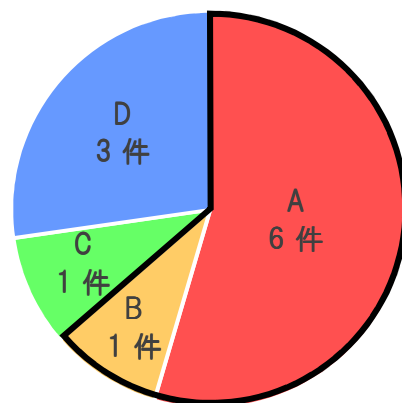
【考察】

- ・めざそう値は、68%（19項目中13項目）がA、B評価となりました。
- ・市民満足度は、40%（5項目中2項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「認可保育園定員数（p.41）」、「放課後児童クラブ定員数・箇所数（p.41）」に関連する市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」の満足度は上昇しています。
- ・A評価となった、めざそう値「相談支援件数（p.44）」（障害に関する相談）など、関連する市民意識調査「障害者が生活しやすい環境づくり」の満足度が上昇しています。
- ・めざそう値「要介護（要支援）認定率（p.42）」、「居場所づくり事業実施箇所数（p.42）」など、高齢者施策に関する項目は全てA評価となりましたが、「高齢者の医療・介護・福祉の充実」の満足度が低下しています。行政側の評価（めざそう値）と市民側の評価（満足度）の相関関係が見られなかった一例となります。
- ・第4章では、多くのめざそう値が目標を達成していますが、満足度の平均値が7つの章の中で唯一低下しています。市民の健康・福祉に対する意識の高まりが現れていると考えられます。今後も、誰もが健康で安心して暮らしていくことができるまちづくりを進めていく必要があります。

第5章 自然と共存する資源循環型のまち

【行政評価】めざそう値評価（全11項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	6	54.5
B評価（50%以上80%未満）	1	9.1
C評価（20%以上50%未満）	1	9.1
D評価（20%未満）	3	27.3
評価できないもの（その他）	0	0.0



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

（単位：点）

項 目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
地球環境対策や自然環境の保全	-0.24	↗	-0.01	0.23
身近な生活環境の保全	0.04	↗	0.25	0.21
ごみ・リサイクル対策	1.86	↘	1.80	-0.06
平均	0.55	↗	0.68	0.13

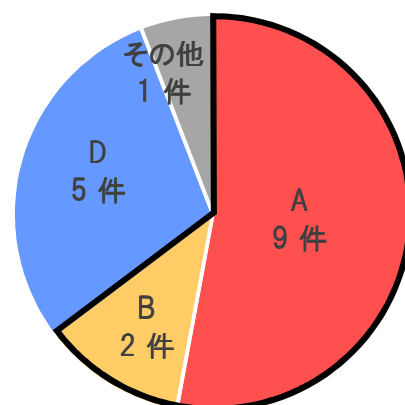
【考察】

- ・めざそう値は、64%（11項目中7項目）がA、B評価となりました。
- ・市民満足度は、67%（3項目中2項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「太陽エネルギー利用設備導入助成利用者の発電容量（p.51）」、「汚水処理人口普及率（p.53）」、「アース・キッズ事業参加者数（p.54）」など、関連する市民意識調査「地球環境対策や自然環境保全」、「身近な生活環境の保全」の満足度が上昇しています。
- ・めざそう値「1人当たりのごみ排出量（p.52）」はA評価となりましたが、めざそう値「古紙、ペットボトル、トレイ等のリサイクル率（p.52）」が目標達成に至りませんでした。関連する市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」の満足度は低下しています。
- ・第5章では、めざそう値はA評価が半数を占めており、満足度の平均値は7つの章の中で最も高い結果となっています。さらに、「ごみ・リサイクル対策」の満足度は、後期基本計画期間をとって調査項目44項目の中で最も高い結果となっています。今後も現在の取組を継続し、高い市民満足度を維持できるよう努め、住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくりを進めていきます。

第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

【行政評価】めざそう値評価（全17項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	9	52.9
B評価（50%以上80%未満）	2	11.8
C評価（20%以上50%未満）	0	0.0
D評価（20%未満）	5	29.4
評価できないもの（その他）	1	5.9



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

（単位：点）

項 目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
小・中学校教育の充実	0.50	➡	0.64	0.14
高等教育の充実	-0.72	➡	-0.40	0.32
生涯にわたる学習・スポーツへの支援	0.08	➡	-0.04	-0.12
青少年の健全育成	-0.23	➡	-0.10	0.13
文化活動への支援	0.07	➡	-0.01	-0.08
歴史を生かしたまちづくり	0.03	➡	0.22	0.19
平均	-0.05	➡	0.05	0.10

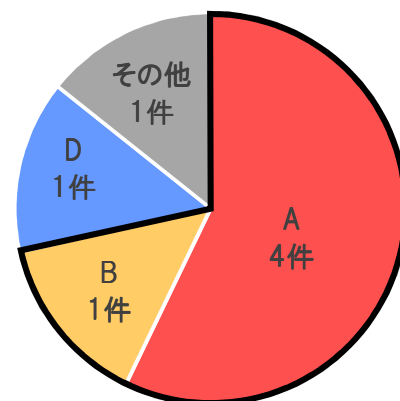
【考察】

- ・めざそう値は、64%（17項目中11項目）がA、B評価となりました。
- ・市民満足度は、67%（6項目中4項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「静岡県が示している耐震基準に対する学校施設の耐震化率（p.56）」、「授業がよくわかると思う児童・生徒の割合（p.56）」に関連する市民意識調査「小・中学校教育の充実」の満足度は上昇しています。
- ・A評価となった、めざそう値「家庭教育講座参加者数（p.60）」、「青少年声掛け運動参加者数（p.61）」に関連する市民意識調査「青少年の健全育成」の満足度は上昇しています。
- ・めざそう値「公民館等利用者数（p.58）」、「主要社会体育施設の利用者数（p.62）」などはA評価でしたが、めざそう値「しまだ楽習センター利用者数（p.58）」などが目標達成に至りませんでした。関連する市民意識調査「生涯にわたる学習・スポーツへの支援」の満足度は低下しています。
- ・第6章では、学校教育、家庭教育、社会教育の充実を図る取組の結果が、満足度の平均値がマイナスからプラスに転じるという成果に現れました。今後も地域ぐるみで望ましい教育環境の実現を目指し、施策を進めていく必要があります。

第7章 市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち

【行政評価】めざそう値評価（全7項目）

区分	項目数(件)	割合(%)
A評価（80%以上）	4	57.1
B評価（50%以上80%未満）	1	14.3
C評価（20%以上50%未満）	0	0.0
D評価（20%未満）	1	14.3
評価できないもの（その他）	1	14.3



【市民評価】市民意識調査に見る市民満足度

(単位：点)

項目	満足度の推移			増減
	『H25』	⇒	『H30』	
情報公開など行政の透明性の向上	-0.92	↗	-0.14	0.78
住民の市政への参加の推進	-0.84	↗	-0.27	0.57
在住外国人との交流	-0.44	↗	-0.09	0.35
地域のコミュニティ活動の推進	0.20	↘	0.12	-0.08
人権教育や男女共同参画社会の推進	-0.31	↗	-0.22	0.09
国際交流や都市間交流の推進	0.05	↗	0.33	0.28
市の財政の健全運営	-1.11	↗	-0.55	0.56
平均	-0.48	↗	-0.12	0.36

【考察】

- ・めざそう値は、71%（7項目中5項目）がA，B評価となりました。
- ・市民満足度は、86%（7項目中6項目）が上昇しました。
- ・A評価となった、めざそう値「市民ファシリテーターの養成人数（p.65）」に関連する市民意識調査「住民の市政への参加の推進」の満足度は上昇しています。
- ・めざそう値「市ホームページ総ページビュー数（p.67）」は目標達成に至りませんでした。が、「情報公開など行政の透明性の向上」の満足度が上昇しています。広報紙の充実やSNSやコミュニティFMの活用など、情報発信の多様化の成果が現れていると考えられます。
- ・第7章では、多くのめざそう値で目標を達成し、満足度の平均値の増減は+0.36点と7つの章の中で最も上昇しました。めざそう値の達成に向けた取組や、車座トーク、女性議会の実施などの4年間の成果により、「市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち」に大きく前進したと市民の評価を得ることができました。今後も、市民目線の行財政運営を進め、市民協働のまちづくりを継続して進めていきます。

5. めざそう値の実績値に対する個別評価

【表の見方】

めざそう値の指標名を掲載しています。カッコ内の数字は施策の柱の番号を示しています。

めざそう値を設定した際の基準値(平成25年6月1日時点の状況)を示しています。

後期基本計画期間のめざそう値の実績値の推移を示しています。

目標の達成率をA～D評価で区分しています。

A評価: 達成率80%以上
B評価: 達成率50%以上80%未満
C評価: 達成率20%以上50%未満
D評価: 達成率20%未満

$$\text{達成率} = \frac{\text{実績値 (b)} - \text{基準値 (a)}}{\text{目標値 (c)} - \text{基準値 (a)}} \times 100$$

当該めざそう値を引き継いだ第2次島田市総合計画前期基本計画のめざそう値を掲載しています。

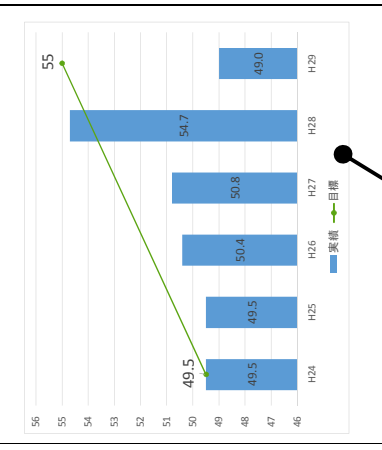
平成24年度から平成29年度までのめざそう値の実績値の推移をグラフで表しています。

後期基本計画期間における所管課の総評や主たる成果などを掲載しています。

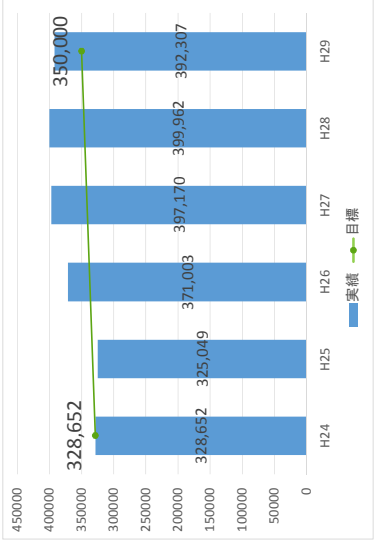
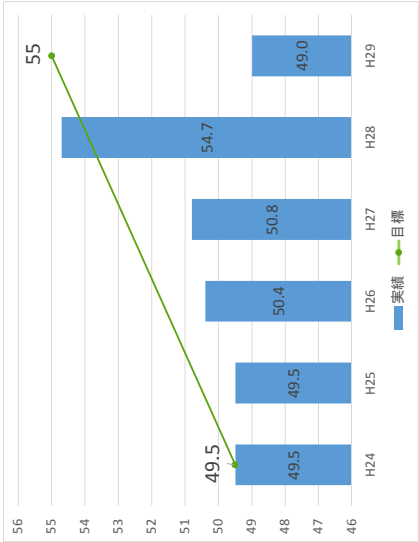
施策を担当する主管課を掲載しています。

後期基本計画の施策の柱に設定した「めざす姿」を掲載しています。

第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち												
No.	めざす姿	指標	実績値					評価	第2次島田市総合計画に引き継いだめざそう値			
			基準値 (計画策定時) H24 a	H25 b	H26 c	H27 d	H28 e			目標値 (めざそう値) H29 f		
1	市民の道路整備に関する満足度 (1-1)	建設課	49.5 % (H25)	50.4 %	50.8 %	54.7 %	49.0 %	55.0 %	D	施策の柱6-1 「市道の整備率」 H28: 38.4% ⇒ H33: 40.1%		
			後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したことなど									
			■総評・主たる成果 (主) 島田吉田線と同バイパスをつなぐほか、色尾大柳線と接続する初倉地区の道路ネットワークの骨格として位置づける谷口中河線の整備を推進した。終点側(南側)の中河地先側から整備を進め、色尾大柳線と交差する始点までの整備区間1,492mのうち、662mを平成29年度までに完了させた。残区間830mについて、平成35年度までに整備完了する計画であり、特に、平成29年度からは始点付近の用地測量に着手したところである。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 初倉地区・金谷地区における道路ネットワーク(空港、はばたき橋、東名、新東名、広域幹線、地域内幹線)の強化を目的として幹線道路の整備を実施している路線は、色尾大柳線、谷口中河線(谷口大柳線)、横岡新田牛尾線の3路線である。 また、本通り御飯屋線、横井御飯屋線、遠来橋線(南工区)、島竹下線についても整備に着手している。 通勤、通学、買物など市民生活に密着する生活道路(市道)については、地域内の通行の利便性を高めるとともに、市民が安全で安心して利用できる道路整備を進めている。 生活道路(市道)の整備については、要望箇所が多いことから要望内容を精査し、費用対効果を勘案して、早期に事業効果が現れるよう計画的に事業を進めている。									
			建設課									
			1									
			空港や高速道路等を活かした物流・交流拠点の形成により、まちを元気にします。									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									
			1									
			建設課									

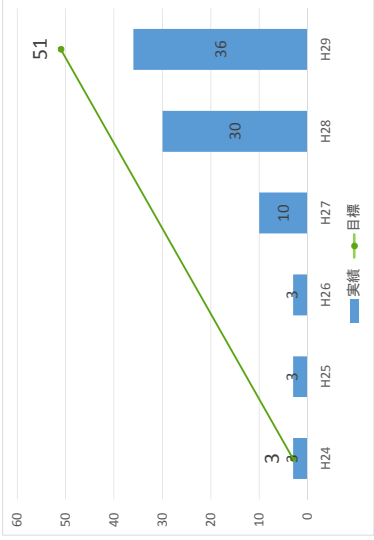
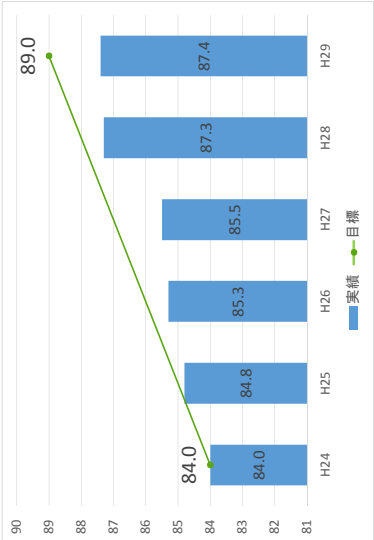


No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引続しためざそう値					
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c							
	市民の道路整備に関する満足度 (1－1)		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など						D		施策の柱6-1 「市道の整備率」 H28: 38.4% ⇒ H33: 40.1%				
1	空港や高速道路等を活かした物流・交流拠点の形成により、まちを元気にします。	建設課	■総評・主たる成果 (主) 島田吉田線と同バイパスをつなぐほか、色尾大柳線と接続する初倉地区の道路ネットワークの骨格として位置づける谷口中河線の整備を推進した。終点側（南側）の中河地先側から整備を進め、色尾大柳線と交差する起点までの整備区間1,492mのうち、662mを平成29年度までに完了させた。 残区間 830mについて、平成35年度までに整備完了する計画であり、特に、平成29年度からは始点付近の用地測量に着手したところである。 満足度に影響する広域幹線道路の整備（国道1号4車線化、国道1号菊川ICの整備、国道1号大代IC～国道473号新東名島田金谷IC付近）は、目に見える形で動き出している。早期完成を目指す、国や県に対して積極的に働きかけていく。				49.5 % (H25)					50.4 %	50.8 %	54.7 %	49.0 %
	地域間交流の促進（年間） ※川根温泉及び川根温泉ホテルの利用者数 (1－1)		■総評・主たる成果 川根温泉ホテルは、開業から4年を経過した。知名度のアップや指定管理者の営業努力により、目標値を大きく超える成果が得られた。日帰り客を担う川根温泉は、源泉掛け流しの露天風呂として高い人気を博しており、年間29万人の利用客を数えているが、前年と比較して約1万人の減少となった。				A					施策の柱6-3 「川根温泉及び川根温泉ホテルの利用者数（年間）」 H28: 399,962人 ⇒ H33: 412,000人			
2	空港や高速道路等を活かした物流・交流拠点の形成により、まちを元気にします。	観光課	■目標達成のための取組で特記すべき事項 川根温泉ホテルの指定管理者である㈱時之栖は、レストランのメニューの変更をはじめ、落語やランチと入浴のセット商品を開発するなど、積極的な営業活動を展開している。 川根温泉の指定管理者である㈱川根町温泉は、周辺の日帰り温泉施設と連携して「大井川名湯倶楽部」を設立した。温泉カレージングプリアの開催や割引券入りポケットティッシュの配布など、中部エリアを見据えた誘客活動を展開した。				328,652人 371,003人 397,170人 399,962人 392,307人 350,000人								



第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

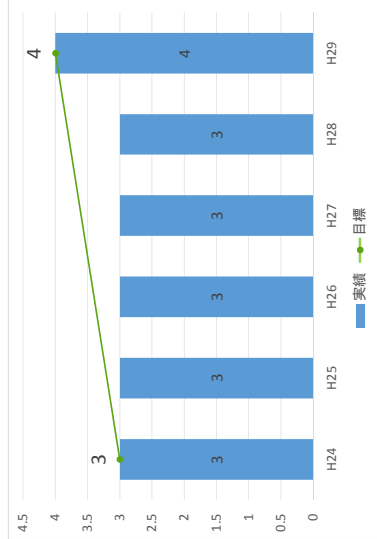
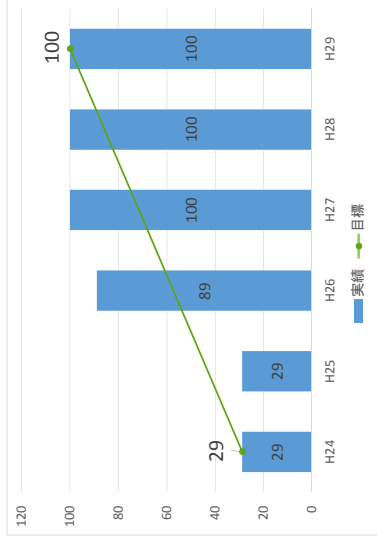
No.	めざそう値 指標		実績値 (計画策定時)				評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値	
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28			
	幹線道路（都市計画道路）整備率 (1-2)		84.0 %	85.3 %	85.5 %	87.3 %	87.4 %	89.0 %	グラフ
	利便性・快適性の高い道路整備により、ひとやものが活発に交流する地域社会の実現を目指します。	都市政策課	■総評・主たる成果 平成30年3月末時点の整備率は、計画延長92,160mに対して改良・概成済延長が80,571m（整備率87.4%）となり、目標値（89.0%）まで1.6ポイント足りない結果となった。 1.6ポイントを距離換算すると約1,450mになるが、これは市決定の都市計画道路1路線分に相当する。（都）谷口中河線（市道色尾大柳線・市道谷口中河線）及び（都）二軒家牛尾線（市道横岡新田牛尾線）は、着実に事業を進めていることから、用地・補償が完了すれば事業の進捗率が一気に伸びるものと考えられる。				B	施策の柱6-2 「都市計画道路の整備概成率」 H28: 87.4% ⇒ H33: 90.9%	
	橋りよう長寿命化修繕工事実施数 【ほっと定住プロジェクト】 (1-2)		3 橋	3 橋	10 橋	30 橋	36 橋	51 橋	施策の柱6-1 「長寿命化修繕計画における橋りようの工事実施率」 H28: 32.0% ⇒ H33: 84.0%
	利便性・快適性の高い道路整備により、ひとやものが活発に交流する地域社会の実現を目指します。	建設課	■総評・主たる成果 市が管理する橋りよう（橋長2m以上の橋りよう全1,138橋）の多くが高度経済成長期以前に架橋され、概ね50年が経過し老朽化が進んでいる。こうしたことから、平成21年度から平成24年度にかけて詳細な点検を実施し、重要路線に架かる橋長15m以上の橋りようや跨線橋など、全91橋の長寿命化修繕計画を策定した。 この計画に基づき、平成26年度には駅西陸橋ほか2橋、平成27年度には菊神橋ほか6橋、平成28年度には菊神2号橋ほか19橋、平成29年度には六合橋ほか5橋を修繕した。 このほか、丸山橋を含む8橋については、長寿命化工事を実施するための測量調査設計を実施した。						

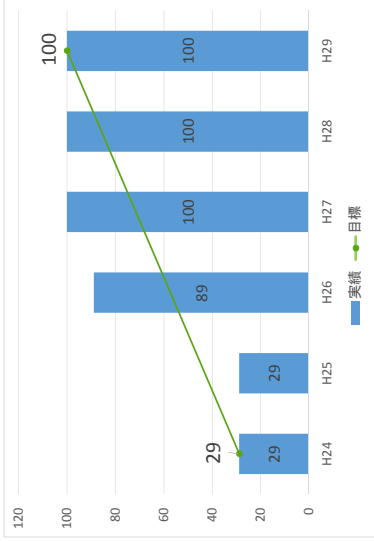
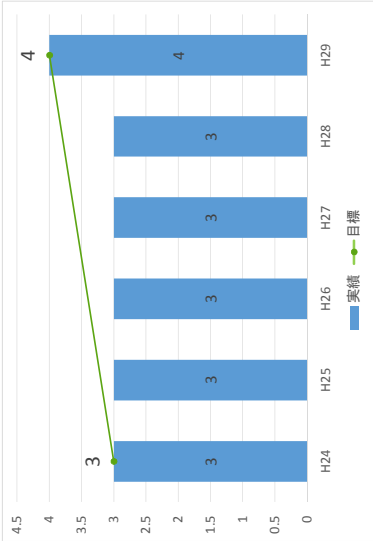


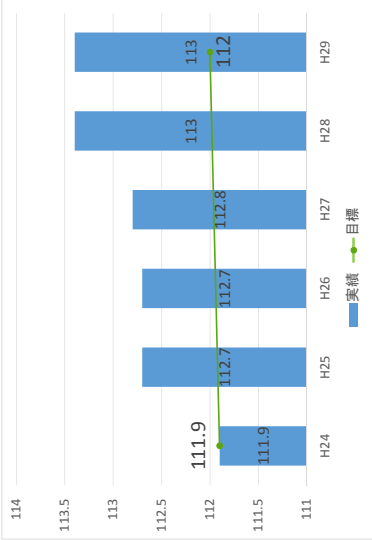
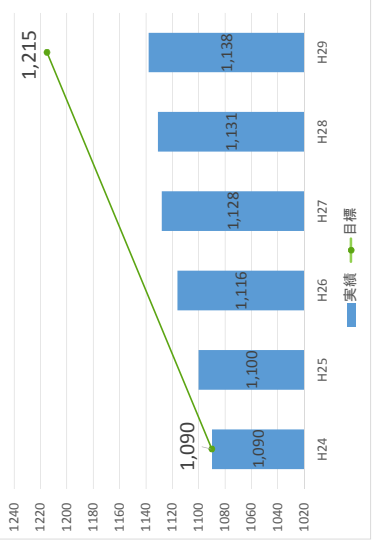
第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値						
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c								
	めざす姿	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など							グラフ						
	コミュニティバス利用者数 【ほっと定住プロジェクト】 (1－3)		374,254 人	369,957 人	379,717 人	256,865 人	240,036 人	375,000 人	D	施策の柱4-4 「地域公共交通 利用者数(年間)」 H28: 256,865人 ⇒ H33: 250,000人						
5	公共交通網の充実 により、交通空白 地を解消し、通 勤・通学、買い物 や通院などの利便 性を高めます。	生活安心課	■総評・主たる成果 持続可能な公共交通を構築するため、平成28年度に利用状況に応じた路線の見直しや運賃の改定を実施した。 路線の見直しによる減便や廃止、少子化に伴う通学利用者の減少などが影響し、年間の利用者数の減少につながった。 現在の路線が最適なものであるか今後も検証していくとともに、デマンドタクシーや地域の自主運行バスなど、コミュニティバス以外の手段も取り入れ、利用しやすい公共交通の構築を進める。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成29年度利用者数は前年比16,829人の減となっているが、目標達成に向けて効果のあった取組は以下のとおりである。 ① 7時33分島田駅発天徳寺行き ⇒ 7時37分ばらの丘方面行き に変更した。 ② 利用が少くない「島田駅⇒天徳寺方面」の時間を通勤・通学の需要が見込まれる「ばらの丘⇒島田駅」に時間を変更し、これにより、利用者数は前年比122人の増となった。 ③ 大代線・菊川神谷城線の見直し ④ 菊川神谷城線から乗り換え無しで、金谷公民館、夢づくり会館、金谷北支所などにアクセスできる経路に変更した。 ⑤ 菊川神谷城線を「金谷牧の原地区コミュニティセンター」経由の経路に変更した。 ⑥ 大代線・菊川神谷城線 ⇄ 夢づくり会館線・金谷循環線の相互乗り継ぎを円滑に行うための時刻変更を行った。 これにより金谷地区の利用者は前年比573人の増となった。							374,254	369,957	379,717	256,865	240,036	375,000	
	新設住宅着工件数 (1－4)		670 戸	570 戸	569 戸	518 戸	578 戸	720 戸	D	施策の柱4-4「住みごころがよいと感じる市民の割合」 H28:84.1% ⇒ H33:85.0% H28:85.1% ⇒ H33:85.9%(←全体の回答のうち、「無回答」を除いた割合)						
6	市民が安心して暮らせるよう、快適な居住環境を整備するとともに、住まいを必要とする人の住居を確保します。	戦略推進課	■総評・主たる成果 子育て支援をはじめとした「ほっと定住プロジェクト」として「”住みたい・住み続けたい” 安全で安心なまちづくりによる定住促進」の取組を進めてきた結果、目標値の達成までは至らなかったが、消費税増税後下り傾向だった数値が増加に転じた。 めざそう値に設定した新設住宅の着工数は、自治体が進める施策以上に、景気動向や国策である消費税増税の影響を大きく受けることから、めざそう値の実績値が計画期間中に乱高下する結果となった。しかし、平成28年には転入者数が転出者数を越えるなど、間接的ではあるものの、取組の一定の成果はあったと考えられる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 重点プロジェクトに「ほっと定住プロジェクト」を設定し、移住・定住対策に係る取組を推進してきた。それに加え、子育て支援として、保育料の第2子半額・第3子以降無償化の実施、子育てポータルサイト「しまいく」を活用した情報発信を実施している。 また、移住ポータルサイト「住んでこしまだ」の構築・情報発信、往還下土地区画整理事業など、様々な分野で快適な住環境の整備に資する取組を推進してきた。							670	720	787	570	569	518	578

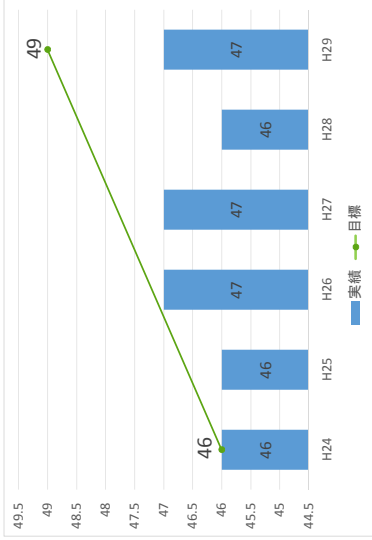
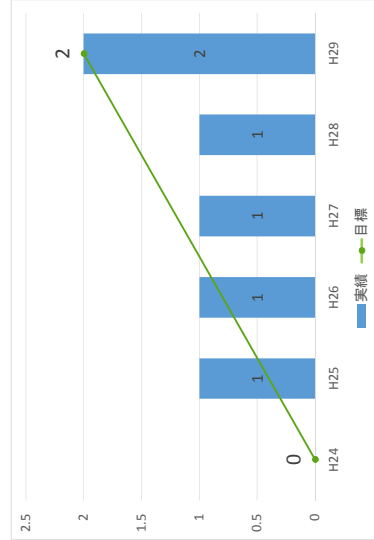
第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

No.	めざそう値 指標		実績値					目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c				
	めざす姿	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								グラフ	
	地区計画の指定											
7	(1－4)		3 か所 77 ha	3 か所 77 ha	3 か所 77 ha	3 か所 77 ha	4 か所 155.1 ha	4 か所 78 ha	A	引継指標なし		
	市民が安心して暮らせるよう、快適な居住環境を整備するとともに、住まいを必要とする人の住居を確保します。	都市政策課	■総評・主たる成果 大井川川越遺跡周辺の地区計画指定を目指していたが、島田宿大井川川越遺跡整備基本構想に基づく整備の進捗状況からこの地域の指定を延伸した。 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地域について用途地域の指定が決定されることに併せ、地区計画を指定することができたため、目標面積を大きく超える達成度となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 島田宿大井川川越遺跡整備基本構想の進捗状況から、この地域の指定を延伸しているが、文化課と調整を図りながら早期指定を目指していく。									
	配水池耐震化率(貯水量率) ※貯水量率：全体容量＝17,988m3 (1－4)											
8			29 %	89 %	100 %	100 %	100 %	100 %	A	施策の柱6-1 「上下水道の整備において満足、やや満足と感じる市民の割合」 H28: 40.3% ⇒ H33: 41.0% H28: 49.8% ⇒ H33: 50.6%(←全体の回答のうち、わからない・無回答を除いた割合)		
	市民が安心して暮らせるよう、快適な居住環境を整備するとともに、住まいを必要とする人の住居を確保します。	水道課	■総評・主たる成果 平成27年度末の時点で、主要な7つの配水池の耐震性は確保されており、全て耐震基準を満たしている状況にある。 今後は、小規模RC造の配水池や地下水源施設の耐震化を計画的に進めていく。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 大規模地震への防災対策として、主要な配水池の耐震診断や耐震補強工事を前倒しで平成27年度末で完了することができた。今後は管路の耐震化を推進していく。									

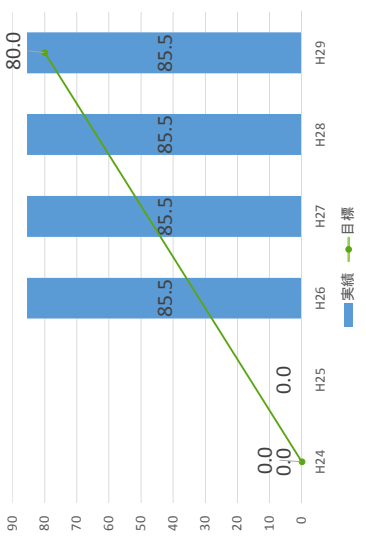
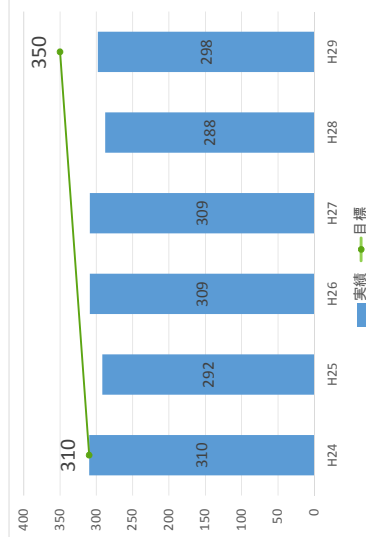


No.	めざそう値 指標	実績値				評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
		基準値 (計画策定時) H24 a	H26	H27	H28	目標値 (めざそう値) H29 c	
	めざす姿	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など					グラフ
9	公園・緑地整備面積 (1－5)	111.9 ha	112.7 ha	112.8 ha	113.4 ha	112.0 ha	施策の柱6-1 「公園愛護会団体数」 H28: 46団体 ⇒ H33: 49団体
	市民が安らぎを感じ、快適に暮らせるよう、緑あふれる都市空間を創出します。	■総評・主たる成果（達成率の結果を踏まえた考察） 平成25年度時点で目標値を上回ることができた。新設した「木屋島公園」、公園と道路を用途兼用した「おび通り公園」、そのほか、大井川土地改良区から管理移管された「栃山頭首工緑地」や民間の宅地造成で新設された「あさひガーデンプレイス」などに伴う整備面積増により目標を上回った。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標は達成したものの、平成29年度は前年度からの公園面積の増加は見られなかった。 公園は、子どもからお年寄りまでの幅広い年代の憩いの場であるとともに、地域のレクリエーション活動や文化活動など多様な活動拠点の役割を持つことから、今後も計画的な公園整備を進めていく。					
10	生け垣づくり補助累計件数 (1－5)	1,090 件	1,116 件	1,128 件	1,131 件	1,215 件	施策の柱4-2 「生け垣づくり補助件数(S56年度からの累計)」 H28: 1,131件 ⇒ H33: 1,186件
	市民が安らぎを感じ、快適に暮らせるよう、緑あふれる都市空間を創出します。	■総評・主たる成果 各年度の補助件数は、平成26年度16件、平成27年度12件、平成28年度3件、平成29年度7件であり、4年間の合計は38件となった。 申請件数は減少傾向にあるが、生け垣づくりは「まちのみどり」に寄与するほか、二酸化炭素の削減、騒音防止、さらには、地震発生時の大規模被害を食い止めるなどの効果があることから、今後、PR活動を推進し、さらなる設置啓発に力を入れていく。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 生け垣設置を普及・促進するため、市のホームページ、年2回の広報しまだへの掲載といったPR活動を実施した。さらには、宅地造成する土地利用事業申請者に対して、土地購入者への生け垣づくり補助制度の説明をお願いした。 そのほか、平成30年1月に開催された「30歳の同窓会」において、生け垣づくりに関するチラシを配付し、より一層の啓発に努めた。					

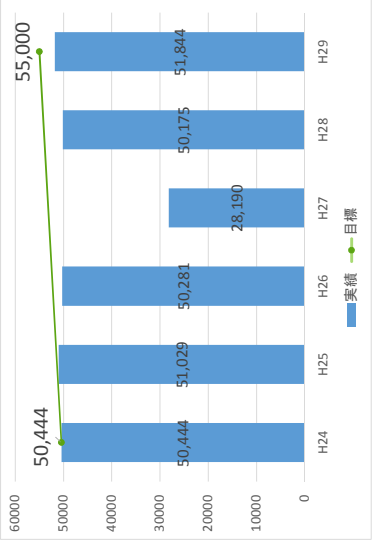
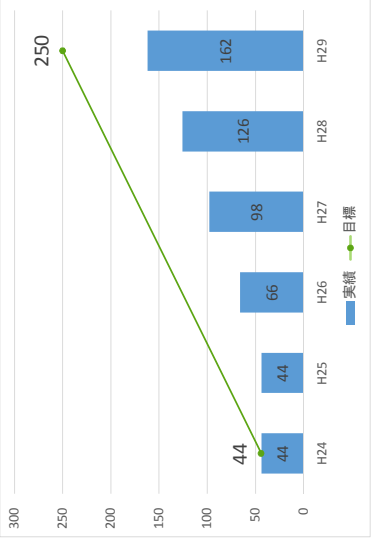
第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c		
11	公園愛護会団体数 (1－5)		46 団 体	47 団 体	47 団 体	46 団 体	47 団 体	49 団 体	C	施策の柱6-1 「公園愛護会団体数(年度末時点)」 H28: 46団体 ⇒ H33: 49団体
	市民が安らぎを感じ、快適に暮らせるよう、緑あふれる都市空間を創出します。	建設課	■総評・主たる成果 平成26年度に結成された公園愛護団体は「金谷泉町公園愛護会」の1団体である。往還下公園のほか、いずみ児童公園、いずみ遊園地、泉公園、泉緑地、大河原ホーム金谷団地公園の6つの公園を管理している。平成28年度、「水神・金谷東公園愛護会」が高齢化により解散した。平成29年度に「木屋島公園愛護会」が結成された。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 民間の宅地造成行為により公園が新設される際には、公園愛護の主旨を説明し公園愛護会の設立をお願いしている。目標達成のため、愛護会の結成に向けた取組を進めたが、高齢化の進行に伴う担い手不足により、団体の新設に結びつかなかった。今後も愛護会結成に向けた取組を継続するとともに、新設される公園については愛護会を設置するよう努めていく。							
12	景観計画重点地区の指定数 (1－6)		0 地 区	1 地 区	1 地 区	1 地 区	2 地 区	2 地 区	A	施策の柱6-3 「市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度」 H28: 13.9% ⇒ H33: 14.9% H28: 21.0% ⇒ H33: 22.4%(←全体の回答のうち、「無回答」を除いた割合)
	潤いある自然や、伝統を感じさせる歴史的なまちなみなど、恵まれた地域景観を守ります。	都市政策課	■総評・主たる成果 新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区の一部(35.4ha)を景観計画重点地区に指定した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区の一部について、当地区の原風景を活かしたまちづくりがなされるよう景観計画重点地区に指定し、色彩基準を定めた。							

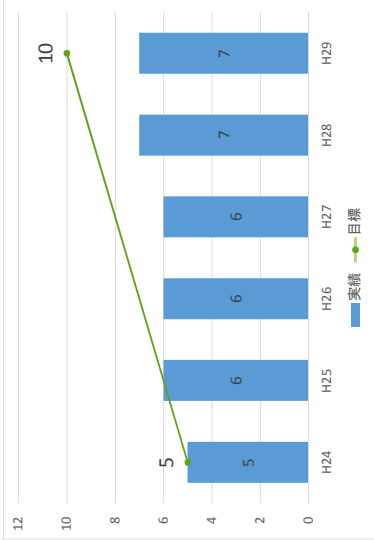
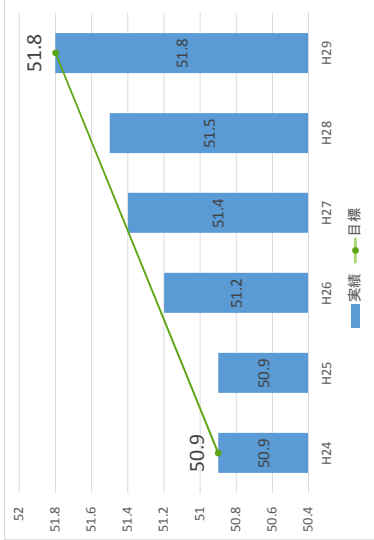
第1章 都市基盤が充実し、ひとやもの、情報が活発に交流するまち

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値 H26 H27 H28 H29 b				目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課								
13	広報しまだ閲覧率		【やりがい協働プロジェクト】 (1－7)	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など				A	施策の柱5-2 「島田市公式SNS(Facebook、Twitter等)のフォロワー数 (毎年5月時点)」 H28: 5,176件 ⇒ H33: 5,700件	
	地域情報化を推進し、全ての市民が等しく高度情報化社会の恩恵を享受できる電子自治体の実現を目指します。			広報情報課						
14	市ホームページ総ページビュー数		【やりがい協働プロジェクト】 (1－7)	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など				D	施策の柱5-2 「島田市公式ホームページの総ページビュー数(年間)」 H28: 2,884,538件 ⇒ H33: 3,000,000件	
	地域情報化を推進し、全ての市民が等しく高度情報化社会の恩恵を享受できる電子自治体の実現を目指します。			広報情報課						

第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

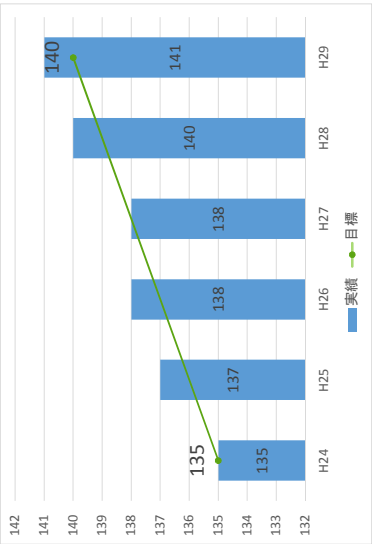
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)	実績値				目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29	H29 b		
	市民の地域防災訓練参加者数（年間） 【ほっと定住プロジェクト】 （2－1）		50,444 人	50,281 人	28,190 人	50,175 人	51,844 人	55,000 人	C	施策の柱1-1 「地域防災訓練参加率」 H28: 50.29% ⇒ H33: 52.0%
15	地震等の災害から市民の生命及び財産等を保護し、被害の軽減を図るため、危機管理体制を強化します。	危機管理課	■総評・主たる成果 前年度は達成度がマイナスになったが、平成29年度はやや持ちなおし、達成度30.7%となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 第2回、第3回自主防災会長・委員長会議で地域防災訓練への積極的な参加を呼びかけた。 達成度については30.7%と、目標に大きく足りない結果となったが、基準値と比較すると増加している。人口が減少していることも加味すると、自主防災会長や委員長会議での呼びかけに効果があったものと考ええる。 今後とも人口が減少傾向にあることを踏まえ、第2次島田市総合計画では防災訓練参加率を目標値として設定し、その達成に向けて自主防災会長への呼びかけなどを継続して実施していく。							
	防災リーダーの養成者数（累計） 【ほっと定住プロジェクト】 （2－1）		44 人 (H25)	66 人	98 人	126 人	162 人	250 人	B	施策の柱1-1 「防災マスター 育成講座修了者数」 H28: 77人 ⇒ H33: 230人
16	地震等の災害から市民の生命及び財産等を保護し、被害の軽減を図るため、危機管理体制を強化します。	危機管理課	■総評・主たる成果 災害対応力の強化及び地域の防災力向上を図るため、各自主防災組織より受講生2人以上の推薦と年50人の防災リーダー育成に取り組んだが、地域毎の防災意識にばらつきがあり、目標値に満たない結果となった。 目標値は下回ったが、毎年数名の女性防災リーダーが誕生しており、今後、自主防災組織での活躍が期待される。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標達成のため実施したことや結果を踏まえて今後実施していくことは以下のとおり。 ・自主防災会長・委員長会議などにおいて積極的に受講生の推薦をお願いする。 ・自主防災組織育成対策補助金で、養成講座受講に要する経費の一部を補助する。 ・男女共同参画の視点から「女性と防災」に関する講座を受講科目に盛り込んでいく。 ・より受講しやすい環境を整えるため、各地域に伺って講座を開催するなど、今後検討していく。							

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24	実績値				目標値 (めざそう値) H29	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H26	H27	H28	H29	〇			
17	避難所運営会議の開催数（年間） 【ほっと定住プロジェクト】 （2－1）		53 回	54 回	54 回	52 回	57 回	78 回	D	引継指標なし
	地震等の災害から市民の生命及び財産等を保護し、被害の軽減を図るため、危機管理体制を強化します。		■総評・主たる成果 それぞれの避難所で避難所運営会議を最低でも年2回実施することを目標に、会長・委員長会議などで願っているが、平成28年度に26避難所・52回実施されたものが、平成29年度は23避難所・57回と、回数は増えたものの実施した避難所数は減少してしまっった。 避難所運営本部役員は、各自主防災組織（町内会）から選出される場合が多く、自主防の役員交代が避難所運営会議に与える影響は大きい。避難所運営組織が数年に亘り確立されている避難所は、自主防役員が交替しても、避難所運営会議の開催まで引き継がれている。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標達成のため実施したことや結果を踏まえて今後実施していくことは以下のとおり。 ・自主防災会長・委員長会議において、避難所運営会議の重要性について、更なる働きかけを行う。 ・各避難所における、避難所運営マニュアル作成の有無や運営方法の具体性などの調査を行い、各避難所の状況を共有することで、会議を行っていない地区へ避難所運営会議の積極的な開催を促す。 ・数年避難所運営会議を開催していない地区への、開催を促す通知の発送や支援を行う。							
施策の柱1-1 「一般住宅の耐震化率」 H28: 80.8% ⇒ H33: 95.0%										
18	民間住宅の耐震化率 【ほっと定住プロジェクト】 （2－2）		76.3 %	79.6 %	80.2 %	80.8 %	81.5 %	90.0 %	C	
	地震、風水害、土砂災害の発生時における被害の軽減を図ります。		■総評・主たる成果 地震防災に関心の高い住宅所有者は、既に耐震補強工事を実施しているが、高齢者の世帯に工事未実施が多く見られる。実施しない理由は経済的に余裕がない、次の世帯が住宅を利用しない等である。 耐震補強工事の必要性を理解してもらうようにPRに取り組んでいるが、国・県の計画に準じて設定した耐震化率の目標の達成は困難な状況である。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 昭和56年5月31日以前に建築された木造住宅の所有者にダイレクトメールの送付や個別訪問により、耐震補強の前提となる「わが家の専門家診断」を受けてもらった。診断後、耐震性のない住宅の耐震補強計画作成費や耐震補強工事費に補助金を交付し、平成29年度は96戸の木造住宅の耐震性が向上した。 一般住宅の耐震化率については、第2次島田市総合計画においても目標を掲げているため、引き続き目標達成に向けた取組を行っていく。							

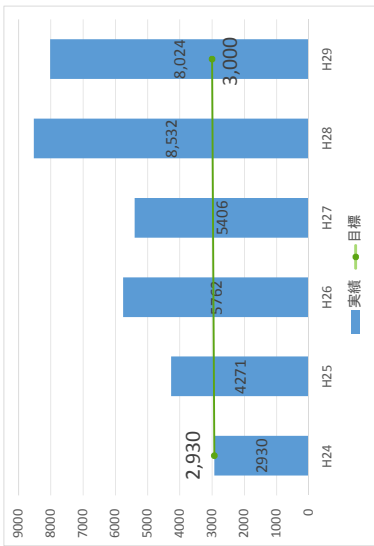
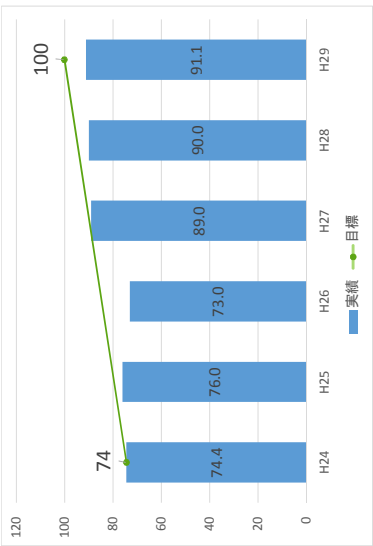
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)	実績値				目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29	H29 b		
19	橋りよりの耐震化実施数 ※緊急輸送路・避難路 【ほっと定住プロジェクト】 (2－2)	所管課	5 橋	6 橋	6 橋	7 橋	7 橋	10 橋	C	施策の柱6-1 「長寿命化修繕計画における橋りよりの工事実施率」 H28: 32.0% ⇒ H33: 84.0%
	地震、風水害、土砂災害の発生時に おける被害の軽減 を図ります。	建設課	■総評・主たる成果 橋りより長寿命化修繕計画に基づき、道路橋の補修保全による施設長寿命化を図っている。主要な道路に架かる橋りよりについては、併せて耐震工事を実施している。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 今後の取組として、南海トラフの巨大地震を想定した中で、まずはJR跨線橋の耐震化完了を目指す。現在は、緊急輸送路、避難路となる路線等を優先に事業実施しているが、例年、国庫補助の内示率が低い ため、計画どおりの補強が困難な状況である。限られた予算の範囲内で計画的に進めていく。							
20	雨水幹線整備率 ※都市下水路含む 【ほっと定住プロジェクト】 (2－2)	雨水幹線整備率	50.9 %	51.2 %	51.4 %	51.5 %	51.8 %	51.8 %	A	引継指標なし
	地震、風水害、土砂災害の発生時に おける被害の軽減 を図ります。	建設課	■総評・主たる成果 島田市雨水幹線整備事業として、横井排水区第6雨水幹線（問屋川都市下水路）の整備を進め、今年度21.2mの改修工事を実施した。改修工事に伴い、島田市内の雨水幹線排水整備対象区域面積1,546haのうち、実施済面積が801.4haとなり目標達成となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 近年、都市型の浸水被害を防止する計画的な都市下水路の整備が望まれている。 今後も市内の雨水等の排水路を計画的に整備することで、水害に強いまちづくりに努めていく。							

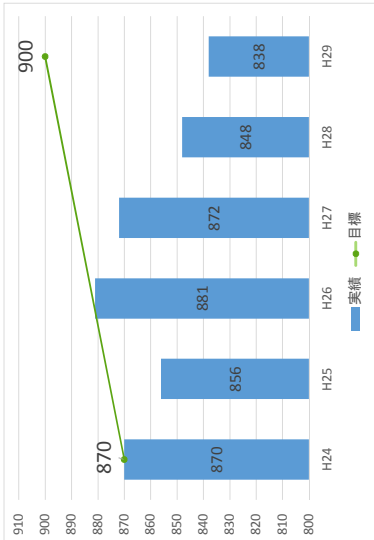
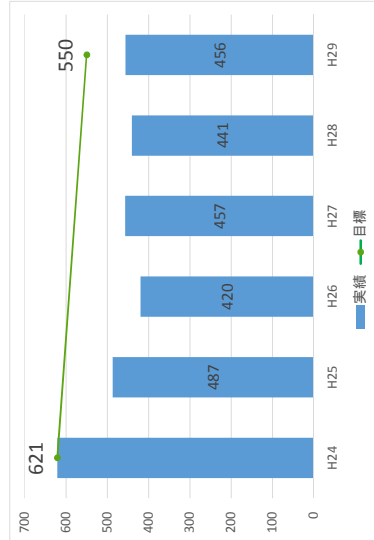
第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 b		評価	第2次島田市総合計画に引続いためざそう値	
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29					
21	がけ地近接等危険住宅移転事業による移転戸数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－2)	地震、風水害、土砂災害の発生時に おける被害の軽減 を図ります。	135 戸	138 戸	140 戸	141 戸	140 戸	A	施策の柱1-1 「一般住宅の耐震化率」 H28: 80.8% ⇒ H33: 95.0%	グラフ		
		建築住宅課	■総評・主たる成果 目標を達成することはできたが、静岡県の土砂災害特別警戒区域の指定に伴う事業対象の危険住宅は増えている現状がある。 平成29年度は1戸の危険住宅の移転を実施したが、単年度で移転先への住宅建築、危険住宅の除却を終えなければならぬため、前年から計画を進める必要がある。 住宅の所有者は、「がけ地」の危険性は認識しているが、長年住み慣れた場所から離れることや資金計画の難しさから、移転になかなか至らないため、引き続き事業のPRに努めたい。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 台風が多く発生する時期の前に広報紙に事業案内を掲載し、移転に係る啓発を実施した。 また、土砂災害特別警戒区域の指定の地元説明会に参加した際には、移転のきっかけとなるよう事業のパンフレットを配布した。									
22	救急救命士実働人員数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－3)	火災等の災害から 市民を守るため、 消防・救急・救助 体制の充実を図 り、安全・安心な まちづくりを目指 します。	18 人	20 人	22 人	26 人	29 人	21 人	A	引継指標なし		
		静岡市 島田消防署 (旧・消防総務課)	■総評・主たる成果 平成29年度の人員配置により、平成28年度より3人多い29人の救急救命士で運用した。 さらに、救急救命士を養成すべく職員に対し教育、指導を実施した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 島田市及び川根本町内に救急車6台を配備し救急救命士を適正に配置したことで、住民への安全・安心を提供できた。									

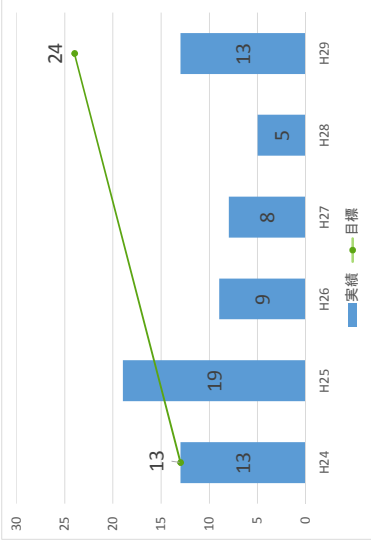
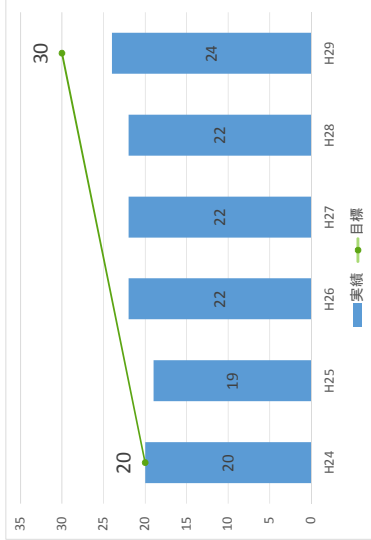


第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

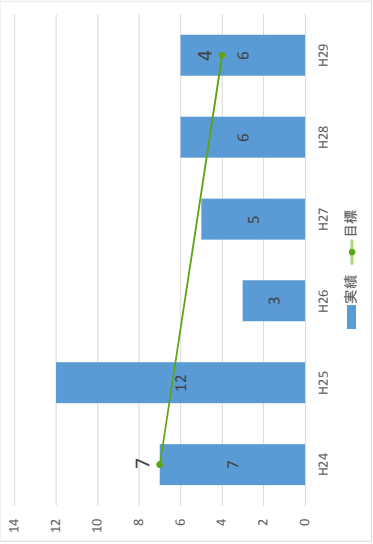
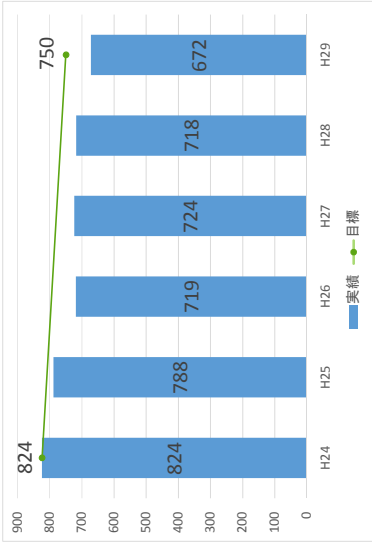
No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課	H24	H26	H27	H28	H29	H29			
	めざす姿	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など							引継指標なし	グラフ
	救急講習年間受講者数		2,930 人	5,762 人	5,406 人	8,532 人	8,024 人	3,000 人	A		
23	火災等の災害から市民を守るため、消防・救急・救助体制の充実を図り、安全・安心なまちづくりを目標します。	静岡市 島田消防署 (旧・警防課)	■総評・主たる成果 平成29年度、住民に対し、消防職員、応急手当指導員・普及員による救急講習会を開催した。 ◆受講延人数・講習会延回数 8,024人【227回】 ◆講習会内訳 ・救急講習 4,568人【80回】 ・救命入門コース 1,124人【33回】 ・普通救命講習Ⅱ 24人【4回】 ・上級救命講習 70人【5回】 ・救命体験コース 740人【19回】 ・普通救命講習Ⅰ 1,406人【79回】 ・普通救命講習Ⅲ 58人【4回】 ・普及員講習 34人【3回】 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成29年度の年間受講者数は目標値を超えているものの、平成28年度に比べ500人程度低い結果となった。しかし、応急手当指導員等による各地域での救急講習実施回数は増加傾向にあり、併せて学校教育における救命体験コースや入門コースの開催回数も増加傾向にある。								
	住宅用火災警報器の普及率		74.4 %	73.0 %	89.0 %	90.0 %	91.1 %	100.0 %	B	引継指標なし	
	【ほっと定住プロジェクト】 (1－5)										
24	市民が安らぎを感じ、快適に暮らせるよう、緑あふれる都市空間を創出します。	静岡市 島田消防署 (旧・予防課)	■総評・主たる成果 平成27年～平成29年の第2期3か年計画に基づき、主に未設置宅及び不在宅を重点的に指導、調査し、全国設置率81%を超える91%を達成した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 未設置宅を根気よく訪問し、設置に向けた丁寧で手厚い指導を重ね、不在宅は曜日、時間を調整しながら調査指導した。また、独居老人宅の未設置が多いことから、住宅用火災警報器取付支援制度を実施している。 設置後10年で電池又は機器の交換が必要になるため、対象となる居住者への周知も同時に行っている。								

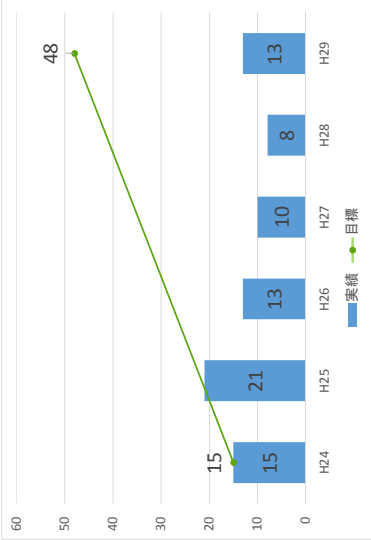
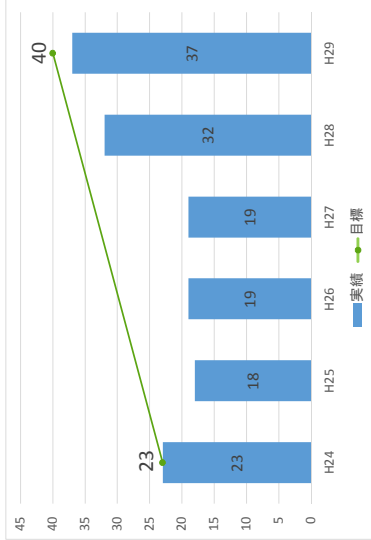
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)	実績値				目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c			
	消防団員数		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								グラフ
	【ほっと定住プロジェクト】 (2－3)		870 人	881 人	872 人	848 人	838 人	900 人	D	引継指標なし	
25	火災等の災害から市民を守るため、消防・救急・救助体制の充実を図り、安全・安心なまちづくりを目指します。	危機管理課	■総評・主たる成果 新入団員数が、退団者数を下回る状況（新入団員＜退団者）がここ数年続いている。また、年度内の異動により数値の変化はあるものの、実質的な増員は見込まれない。 団員の高齢化に伴い、今後更に退団者が増えるものと見込まれ、さらに若者の転出や勤務就労状況等により団員不足に拍車がかかると思われる。 併せて、改正道路交通法の施行に伴い新設された準中型免許の取得を理由に入団を断る者や、現行の消防団ポンプ車を運転できない者の入団なども今後の運営にあたって危惧される不安要素の一因と考える。								
	年間犯罪発生件数（刑法犯認知件数） 【ほっと定住プロジェクト】 (2－4)	生活安心課	621 件	420 件	457 件	441 件	456 件	550 件以下	A	施策の柱4-4 「犯罪発生件数」 H28: 441件 ⇒ H33: 400件	
26	市民・地域・関係機関が一体となり、犯罪のない安全・安心な地域づくりを進めます。	生活安心課	■総評・主たる成果 防犯まちづくり講座として、ふれあいしまだ塾と防犯講習会を合わせて市と防犯協会が連携し、年67回開催した。（ふれあいしまだ塾：13回 防犯講習会：54回（昨年比 4 回増）） さらに、地域の空き巣・忍び込み対策として戸締りを強化する、ツーロック徹底キャンペーン活動を実施した。（2月6日ツーロックの日：地区安全会議5団体） ■目標達成のための取組で特記すべき事項 市、警察、防犯協会、地域安全推進員等の懸命な取組のもと、防犯活動を実施している。 目標達成となり、今後も市として地域安全推進員ほか防犯関係団体と情報を共有するなど連携を取り合い、不審者対策等の防犯パトロールの実施や特殊詐欺等の撲滅のため、被害防止に向けた啓発活動を実施していきたい。								

第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

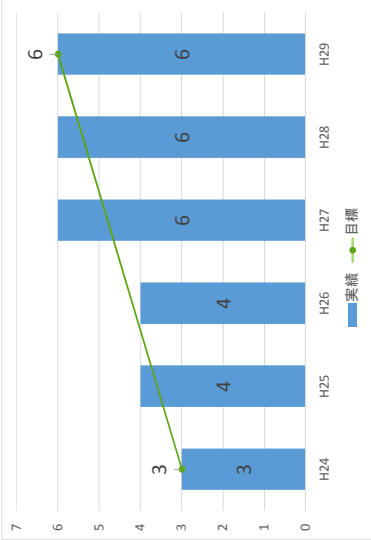
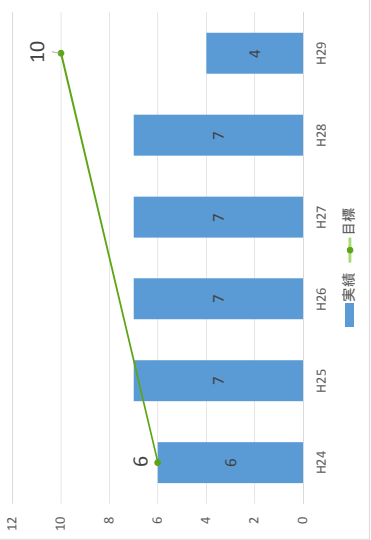
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)	実績値				目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29	H29 b		
	めざす姿	所管課								グラフ
27	防犯まちづくり講座開催回数（年間） 【ほっと定住プロジェクト】 （2－4）		13 回	9 回	8 回	5 回	13 回	24 回	D	施策の柱4-4 「犯罪発生件数」 H28: 441件 ⇒ H33: 400件
	市民・地域・関係機関が一体となり、犯罪のない安全・安心な地域づくりを進めます。	生活安心課	■総評・主たる成果 防犯まちづくり講座として、ふれあいしまだ塾及び防犯講習会を市役所と防犯協会が連携して取り組み、計67回開催した。（ふれあいしまだ塾：13回 防犯講習会：54回（昨年比 4回増）） また、島田警察署交番単位で委嘱している地域安全推進委員89人の防犯活動や地域安全会議5団体による自主的な勉強会等の開催数も増えてきている。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 ふれあい島田塾で行う啓発活動から防犯協会との連携事業に移行し、市の単独事業から、市役所、警察署、防犯協会、地域安全推進員が各々の懸命な取組により、市内各団体の協力により、講習会にこだわらない活動を行ってきた。市としては地域安全推進員ほか、防犯関係団体と情報を共有するなど更に連携し、犯罪が1件でも減少するよう、防犯まちづくり講座の実施を維持しつつ、安全・安心なまちづくりにつなげていきたい。							
28	地域の見守りネットワーク数（自治会） 【ほっと定住プロジェクト】 （2－4）		自治会 20 会	自治会 22 会	自治会 22 会	自治会 22 会	自治会 24 会	自治会 30 会	C	施策の柱4-4 「交通事故（人身事故）発生件数（年間）」 H28: 718件 ⇒ H33: 700件
	市民・地域・関係機関が一体となり、犯罪のない安全・安心な地域づくりを進めます。	生活安心課	■総評・主たる成果 地域の子は地域で守る気運の高まりが見られ、平成29年度は登校時の見守りを行うボランティアが2団体増加した。 自治会連合会会議において、交通安全団体の概要や、登下校時の見守り活動の重要さを説明し、理解を得ることができた。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 自治会連合会会議において、交通指導員ほか交通安全団体の概要説明や、登下校時において児童を見守る自主ボランティア活動の重要さを説明するなど、活動への協力を呼びかけた。目標達成には至らなかったが、今後も既存団体とともに新たな団体への呼びかけを実施し、学校、警察、市、団体のネットワークを強化していきたい。							

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 b		評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				
29	交通事故（人身事故）発生件数 【ほっと定住プロジェクト】 （2－5）	生活安心課	824 件	719 件	724 件	718 件	672 件	750 件 以下	A	施策の柱4-4 「交通事故(人身事故)発生件数」 H28: 718件 ⇒ H33: 700件	
	市民一人ひとりの交通安全意識を高め、交通安全な地域づくりを進めます。										
30	交通事故死者数 【ほっと定住プロジェクト】 （2－5）	生活安心課	7 人	3 人	5 人	6 人	6 人	4 人 以下	C	施策の柱4-4 「交通事故(人身事故)発生件数(年間)」 H28: 718件 ⇒ H33: 700件	
	市民一人ひとりの交通安全意識を高め、交通安全な地域づくりを進めます。										



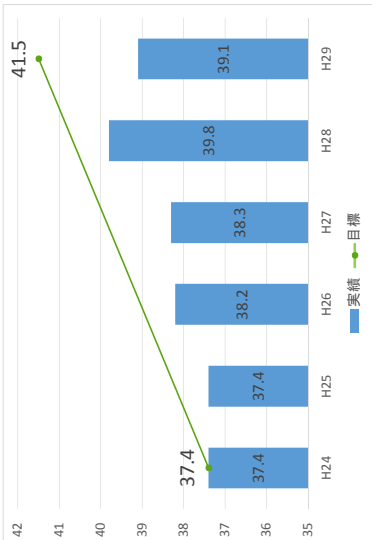
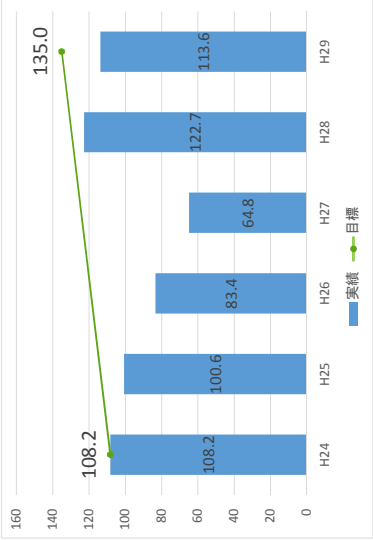
No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c		
	地域交通安全講習会の開催回数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－5)		15 回	13 回	10 回	8 回	13 回	48 回	D	施策の柱4-4 「交通事故(人身事故)発生件数(年間)」 H28: 718件 ⇒ H33: 700件
31	市民一人ひとりの交通安全意識を高め、交通事故のない安全な地域づくりを進めます。	生活安心課	■総評・主たる成果 平成29年度は、前年度と比較して多くの地区から講習会の開催依頼があり、前年度に開催されていない地区において講習会を実施することができた。目標値と大きな開きがあるが、交通安全に対する関心の高まりが見られる。 運転免許証自主返納を推進する取組については、平成29年度の1年間で404件の成果があった。高齢者を対象とした講習会での呼びかけの効果が現れてきたと考えている。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 基本的に地域からの要望により、講習会を実施しているが、ふれあい島田塾で行う啓発活動から警察署や交通安全協会島田地区支部との連携事業に移行し、市の単独事業から、市内各団体の協力により、講習会にこたわらない活動を行ってきた。なお、重大な交通事故が発生した地区に対しては、市が呼びかけて講習会を実施している。 講習会のメニューを市、警察署、交通安全協会島田地区支部と連携し、講話に加え、体験型講習、寸劇の視聴など多岐に亘る内容を盛り込んだ交通安全講習会に変更してきている。							
	消費者被害防止啓発講座開催件数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－6)		23 回	19 回	19 回	32 回	37 回	40 回	A	施策の柱4-4 「電話勧誘に起因する消費生活相談件数(年間)」 H28: 133件 ⇒ H33: 100件
32	市民一人ひとりが消費者として、自らの利益の擁護及び増進のため、主体的かつ合理的に行動すること、消費生活の安定と向上を図ります。	生活安心課	■総評・主たる成果 消費者教育に重点を置き、消費者の被害防止を図ることを目的に講座を開催している。 平成29年度は、市内各地区のいきいきクラブ(老人クラブ)などを対象に出前講座を37回開催し、1,332人が受講した。前年度と比較して講座開催数は5回、受講者数は285人それぞれ増加した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 パソコン及びスマートフォンなどの普及により、SNSを介してトラブルに巻き込まれるケースが急増している。若年層への消費者教育をより一層充実させるため、平成29年度は小中学生を対象にした講座の開催に重点を置いた。 小中学校では6校、434人の児童・生徒が受講しており、今後も引き続き、学校での講座の実施に取り組みたい。 また、悪質商法による被害は依然として高齢者に多いことから、各地区のいきいきクラブ(老人クラブ)を対象に受講を促すとともに、高齢者あんしんセンターなど関係機関と連携を図ることにより、今後、被害の未然防止に努めていきたい。							

第2章 市民が安全・安心に暮らせるまち

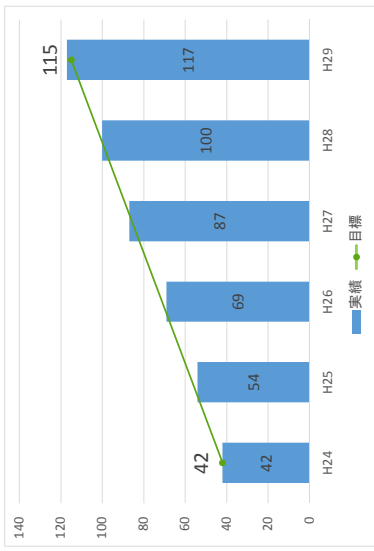
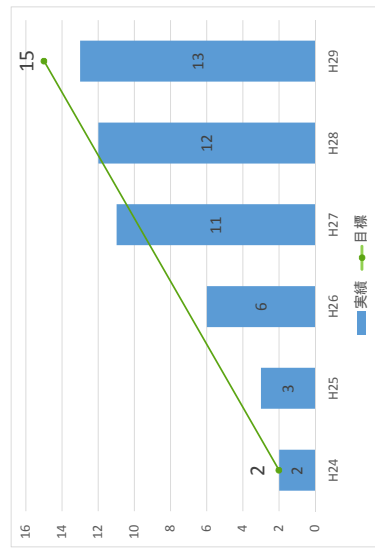
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				
33	消費生活用製品安全法に基づく立入検査実施数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－6)	生活安心課	3 店	4 店	6 店	6 店	6 店	6 店	A	引継指標なし	グラフ
	市民一人ひとりが消費者として、自らの利益の擁護及び増進のため、自主的かつ合理的に行動すること、消費生活の安定と向上を図ります。	生活安心課	■総評・主たる成果 日常生活で使用する製品が関わる事故が依然として多発している。製品の安全性に対する市民の関心が高まっていることから、今後も引き続き立入検査を定期的に実施することで、違反品の発見に努めていく。	■目標達成のための取組で特記すべき事項 乳幼児用ベッドやライターなどの特定製品を販売する店舗が減少傾向にある中で目標を達成することができた。しかし、立入検査をする対象が大規模量販店に偏っていることから、小規模店舗への実施などバランスの良い調査を行っていく。							
34	家庭用用品品質表示法に基づく立入検査実施数 【ほっと定住プロジェクト】 (2－6)	生活安心課	6 店	7 店	7 店	7 店	4 店	10 店	D	引継指標なし	
	市民一人ひとりが消費者として、自らの利益の擁護及び増進のため、自主的かつ合理的に行動すること、消費生活の安定と向上を図ります。	生活安心課	■総評・主たる成果 家庭用品品質表示法に基づく立入検査を毎年実施してきたが、これまで違反品を発見した実績がないことから、平成29年度は実施店舗数を減らした。	■目標達成のための取組で特記すべき事項 過去の検査実績において、違反品は発見されなかったものの、引き続き消費者の安全を確保していくために、今後も継続して立入検査を実施していく必要がある。家庭用品の取扱店は、小規模店舗から大規模店舗まであることから、消費者の安全確保と業務量のバランスを取り、立入り検査実施店舗を選定し、検査を実施していく。							

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24	実績値				目標値 (めざそう値) H29	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29			
35	認定農業者数	農林課	【にぎわい交流プロジェクト】 (3－1)	384 人	388 人	391 人	384 人	424 人	D	施策の柱3-4 「認定農業者数(年度末時点)」 H28: 391人 ⇒ H33: 400人
	地域で生産される農産物や木材が、安定的に供給・消費されるよう、地域農林業の振興を図ります。		■総評・主たる成果 認定農業者数の増減に大きく関わる更新認定数の内訳として、平成29年度は期間満了者99人に対し再認定した者が83人と減少した。 また、新規認定者数は9人と伸び悩み、全体を見ると平成28年度と比較して7人の減となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 認定農業者数の新規・更新認定数が伸び悩んでいる理由としては、農業従事者の高齢化や後継者不足のほか、茶価低迷が原因として挙げられる。 第2次島田市総合計画においても引き続きこの指標を掲げ、新規就業支援や法人化支援に力を入れていく中で、農業経営者の育成に努めていく。	384 人	388 人	391 人	384 人	424 人		
36	人・農地プラン経営体掲載数	農林課	【にぎわい交流プロジェクト】 (3－1)	22 体	227 体	250 体	289 体	100 体	A	施策の柱3-4 「認定農業者数(年度末時点)」 H28: 391人 ⇒ H33: 400人
	地域で生産される農産物や木材が、安定的に供給・消費されるよう、地域農林業の振興を図ります。		■総評・主たる成果 地域が抱える人と農地の問題を今後解決していくための未来への設計図となる人・農地プランについて、平成29年度は3地区計33経営体で策定され、後期基本計画の期間内で大きく目標を超える結果となった。 人・農地プランの策定により、農業者が金利負担軽減措置や補助金の給付など支援が受けられることで、茶業をはじめとする農業振興につながっていくものと期待できる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成29年度は各事業の補助金の給付要件を満たすプランが3地区で新たに策定され、後期基本計画に掲げた目標値を大きく上回る事ができた。 今後についても、人・農地プランの策定・更新を推進し、プラン策定により利用可能となる農地中間管理事業の活用と合わせ、農地の集積や荒廃農地面積の削減を促進していく。	22 体	227 体	250 体	289 体	100 体		

第3章 産業がいきいきと活発なまち

No.	めざそう値 指標		所管課	基礎値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引続けためざそう値
	めざす姿				H26	H27	H28	H29 b			
37	担い手への農用地利用集積割合 【にぎわい交流プロジェクト】 (3－1)			農林課	37.4%	38.2%	38.3%	39.8%	41.5%	C	施策の柱3-4 「担い手への農用地の集積率」 H28: 39.8% ⇒ H33: 50.0%
	地域で生産される農産物や木材が、安定的に供給・消費されるよう、地域農林業の振興を図ります。				■総評・主たる成果 農用地の利用集積割合は少しずつ増加していたものの、平成29年度は認定農業者数が7人、集積面積が22ha減った影響により、集積率は低下し、目標達成には至らなかった。なお、平成29年度末での集積面積は1,267haとなっている。 参考：認定農業者数 平成27年度…392人 平成28年度…391人 平成29年度…384人 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 認定農業者においては、高齢化や後継者不足が進む一方で、茶価の低迷も続いており、茶業を主とした農業経営は厳しい状況が続いている。 引き続き、認定農業者を増加させるための支援を行い、担い手への農用地集積を進め、農業振興へとつなげていく。						施策の柱4-2 「森林整備面積(年間)」 H28: 252.82ha ⇒ H33: 305.0ha
38	森林間伐面積(補助分) 【にぎわい交流プロジェクト】 (3－1)			農林課	108.2 ha	83.4 ha	64.8 ha	113.6 ha	135.0 ha	C	
	地域で生産される農産物や木材が、安定的に供給・消費されるよう、地域農林業の振興を図ります。				■総評・主たる成果 現在、森林整備に関する補助金を活用する手法として、主に国・県の補助金を優先し、市の補助金を付け増す組み立てとなっている。 国や県の予算により森林整備面積が大きく変動するため、今回は目標達成に至らなかったが、平成26年度から平成29年度の4年間の累計で約385haの森林整備を進めることができ、整備後の森林については、これから公益的機能の発揮が見込まれる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 森林は、土砂災害防止、水源涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、公益的機能を保持している。しかし、木材価格の低迷による森林施業意欲の減退や後継者・労働者不足により整備が遅れている現状にあることから、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されない恐れがある。森林施業意欲を高め、これらの公益的機能を回復させていくためには、間伐等の森林施業及びそれに必要な路網整備に対する補助事業を継続的に進めていく必要がある。 今後は、来年度からはじまる「森林環境譲与税(仮称)」を安定的な財源と見据え、引き続き国・県の補助制度を活用しながら、より積極的な取組を行っていく必要がある。						

第3章 産業がいきいきと活発なまち

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				
39	地域産業振興事業費補助件数 【にぎわい交流プロジェクト】 (3-2)	商工課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	42 件	69 件	87 件	100 件	117 件	115 件	A	施策の柱3-2 「設備投資支援等による目標効果達成企業数(年間)」 H28: 12件 ⇒ H33: 15件
	地域産業の振興や企業誘致の促進により、若者から高齢者が、いきいきと働くことができ雇用する。		■総評・主たる成果 平成24年度以降、当補助金の利用件数は順調に推移しており、平成29年度に目標値を達成した。 背景には、近年の景気回復を受け、企業の設備投資が加速していることや、中小企業者のニーズに合った補助内容となるよう見直したことが挙げられる。 一方で、中小企業の人材確保や労働生産性の向上は依然として深刻な課題であり、今後も当補助金により機械設備整備、労働環境改善施設整備、研究開発やICT導入の負担を軽減することで、地域産業を支える中小企業の更なる経営基盤強化に努める必要がある。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 中小企業者が行う事業活動の近代化及び合理化を推進し幅広い業種の企業に利用してもらえよう、ICT導入事業を補助メニューに追加するなど、平成29年度に事業区分や対象者を見直した。 また、平成29年度から補助金の受付を産業支援センター「おひさポ」に変更したことで、各種相談等のために「おひさポ」を訪れる中小企業者に対し補助金の効果的な活用促進が可能となった。					施策の柱3-1、3-2 「①企業立地件数②企業立地に伴う新規雇用者数(①、②ともH23年度からの累計)」 H28:①12件 ②265人 ⇒ H33:①22件 ②485人 「内陸フロンティア推進区域成長産業企業立地数(H30年度からの累計)」 H28: — ⇒ H33: 2件			
40	企業立地促進事業費補助件数 【にぎわい交流プロジェクト】 (3-2)	内陸フロンティア推進課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	2 件	6 件	11 件	12 件	13 件	15 件	A	施策の柱3-1、3-2 「①企業立地件数②企業立地に伴う新規雇用者数(①、②ともH23年度からの累計)」 H28:①12件 ②265人 ⇒ H33:①22件 ②485人 「内陸フロンティア推進区域成長産業企業立地数(H30年度からの累計)」 H28: — ⇒ H33: 2件
	地域産業の振興や企業誘致の促進により、若者から高齢者が、いきいきと働くことができ雇用する。		■総評・主たる成果 市内への企業立地を推進するため、市外企業への働きかけや静岡県と連携した企業訪問を実施したほか、市内遊休地等をホームページで公開し情報提供している。 平成25年度以降、市内で新規工場の操業を開始した企業11件に対して、島田市企業立地促進事業費補助金を交付した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 前年度に引き続き、市独自の企業訪問や、静岡県と連携した企業訪問等を行った。また、市内企業の定着及び2次投資を図るため、市内立地企業(事業所)の訪問や本社訪問等も実施した。 特に新東名島田金谷IC周辺の工業用地への誘致に向けたPR活動を行った。 後期基本計画では、目標達成に至らなかったが、第2次島田市総合計画においては企業立地件数に加え、新規雇用者数も含めた指標を掲げ、引き続き企業訪問やPR活動を積極的に進めていく。					施策の柱3-1、3-2 「①企業立地件数②企業立地に伴う新規雇用者数(①、②ともH23年度からの累計)」 H28:①12件 ②265人 ⇒ H33:①22件 ②485人 「内陸フロンティア推進区域成長産業企業立地数(H30年度からの累計)」 H28: — ⇒ H33: 2件			

第3章 産業がいきいきと活発なまち

No.	めざそう値 指標		実績値					目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c			
41	地域ブランド商品の認定数 【にぎわい交流プロジェクト】 (3－3)		商工課	0件	0件	10件	15件	15件	10件	A	施策の柱3-3 「商業のにぎわい創出支援事業」 H28: 17件 ⇒ H33: 20件
	商業活動の活性化及び商業機能の充実に、商店街や個店のにぎわいを創出します。			■総評・主たる成果 平成27年度から、「島田の逸品事業」を開始し、初年度に10件を認定した。平成28年度には5件を追加し、現在は15件を認定品としている。 取組としては、アピタ島田店の催事や島田産業まつりなどのイベントへの出店や、商談会への参加、リーフレットでのPR等により販路開拓の支援を行った。認定の効果として、商談会に参加した認定事業者の中に、全国に販売店舗をもつ大手小売店と結びつき、売上を大幅に伸ばした事業者もいる。こうした販路開拓支援の取組は、「島田の逸品」に認定されるメリットを高めてきたと考える。 また事業を実施する上での課題として、認定品を次々と増やしてしまうとブランド価値が薄れてしまうことから、数のコントロールが必要になってくる。現状2年に1回の募集で、選考を実施し、認定数をコントロールしている。						■目標達成のための取組で特記すべき事項 特に力を入れて取り組んだことは、小売店での島田の逸品コーナーの常設である。イベントへの出店による一時的な売上の増加で終わらぬよう、小売店にコーナーを常設することで認定品の持続的な売上増を狙った取組である。民間事業者への働きかけにより、プラザロコ、ミニストップ金谷店、キヨスク（島田駅）、蓬莱橋897.4茶屋に「島田の逸品コーナー」を設けることができた。	
42	中心市街地(本通り二丁目交差点)の歩行者数 【にぎわい交流プロジェクト】 (3－3)		商工課	1,517人	1,992人	1,985人	2,008人	1,511人	2,000人	D	施策の柱3-3 「中心市街地(本通り二丁目)の歩行者数」 H28: 2,008人 ⇒ H33: 2,200人
	商業活動の活性化及び商業機能の充実に、商店街や個店のにぎわいを創出します。			■総評・主たる成果 「にぎわい商店街支援事業補助金」によるイベント開催の支援や商業者団体への活動支援、また「おび通り活性化事業」による利活用促進の取組に力を入れたが、平成29年度での目標値達成には至らなかった。各年度の実績値の内訳を分析すると、平成28年度まで歩行者数は増加傾向を示していることから、一定の成果があったと考える。						■目標達成のための取組で特記すべき事項 「おび通り活性化事業」、民間による「サンカク公園プロジェクト」によって、歩行者通行量につながる島田駅周辺のにぎわい創出は少しずつ動き出している。 また、島田市中心市街地活性化基本計画の策定作業を進めており、にぎわいの創出につながる施策を盛り込んでいく。	

第3章 産業がいいきぎと活発なまち

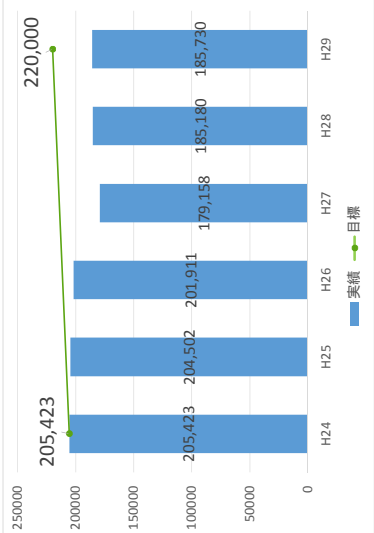
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				

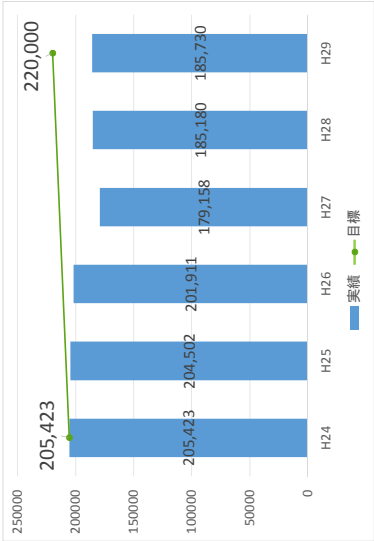
43	観光振興の原点はまちづくりにあるという基本認識のもと、観光資源の創出や掘り起こしにより、まちの魅力を明確にし、観光を通じた地域の活性化を目指します。	観光課		244.5 人	236.7 人	239.3 人	284.9 人	202.4 人	300.0 人	D	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など
	観光交流人口 (3－4)	観光交流人口		244.5 人	236.7 人	239.3 人	284.9 人	202.4 人	300.0 人	D	施策の柱3-5 「観光交流客数(年間)」 H28: 2,372,870人 ⇒ H33: 3,000,000人

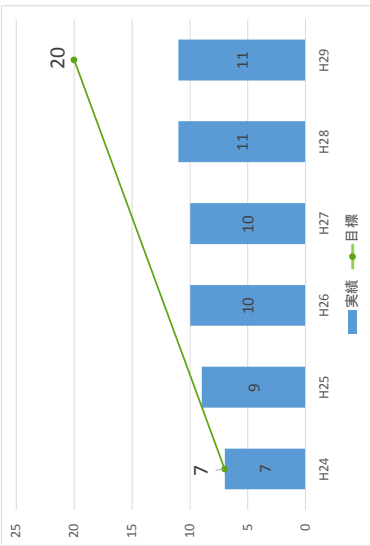
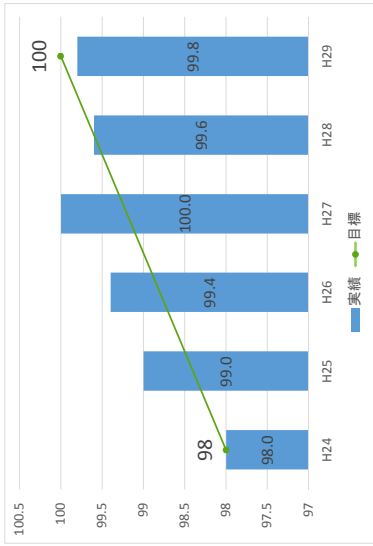
43	観光振興の原点はまちづくりにあるという基本認識のもと、観光資源の創出や掘り起こしにより、まちの魅力を明確にし、観光を通じた地域の活性化を目指します。	観光課	■総評・主たる成果 平成28年度に島田大祭、金谷茶まつりが開催された影響から、平成29年度実績値の減少幅が大きくなった(島田大祭と金谷茶まつりの合計：475,000人)。併せて、S L F エスタ、しまだ大井川マラソンなど集客が見込まれる事業について、天気に恵まれず来場者数が減少したことも影響している。 交流人口の算出にあたり、一部施設は、交流客よりも地元住民の利用が想定される施設であったため、平成29年度以降、調査対象から外れたことも大幅減の要因に挙げられる。(H28年度：254,000人) ■目標達成のための取組で特記すべき事項 空港就航先、首都圏、中京圏における国内からの誘客キャンペーンを継続して実施するとともに、トーマスを大きく取り上げた冊子「大井川で遊ぼう」を高速道路サービスエリアや首都圏地下鉄駅構内で配架するなど新たな取組を進め、交流人口の拡大につなげた。 かわまちづくり計画に基づく蓬萊橋周辺整備事業として、お休み処兼物産販売所「蓬萊橋897.4茶屋」を整備し、観光交流客数の増加を図った。 大井川鐵道株式会社のきかんしゃトーマス号の運行に併せたおもてなし事業の実施などについて、継続して取り組んだ。 新たに発足した静岡県中部・志太榛原地域連携DMOを中心に、中部・志太榛原地域における魅力的な観光地域づくりや、戦略に基づく一元的な情報発信及びプロモーションを行った。 そのほか、しまだ大井川マラソン大会及びフットロゲイニングの開催、合宿誘致、オリンピック・パラリンピック合宿誘致に取り組んだ。		113,817 人	183,901 人	197,350 人	188,936 人	170,899 人	148,000 人	A	施策の柱3-5 「観光交流客数(年間)」 H28: 2,372,870人 ⇒ H32: 3,000,000人
----	--	-----	---	--	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---	--

44	観光振興の原点はまちづくりにあるという基本認識のもと、観光資源の創出や掘り起こしにより、まちの魅力を明確にし、観光を通じた地域の活性化を目指す。	観光課	■総評・主たる成果 目標値は達成しているものの、前年度比18,037人の減となっている。 これは、富士山静岡空港国際便の減少により、中国を中心とするインバウンドが低下したことが大きな要因といえる。 平成26年度の川根温泉ホテルの開業やトーマス運行による家族連れの宿泊者などにより宿泊者数は一時増したが、平成28年度以降は停滞している。宿泊者を分析すると1割から2割が外国人客で、最近では団体の旅行者と比較して個人の旅行者の増加が見られる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 国内外からの誘客につなげる事業を展開するとともに、空港就航先、首都圏、中京圏における国内キャンペーンを積極的に展開することで、宿泊者の増加を目指した。 DMO(するが企画観光局)をはじめとする広域連携による観光振興を推進し、観光交流客、宿泊者数の増加を図った。 3市1町広域観光連携協議会運営事業として、島田市、焼津市、藤枝市、川根本町との広域における連携、協力体制の強化を図り、交流人口の拡大を目的とした海外、国内の観光プロモーションを実施した。 「ようこそしまだへWELCOME事業」として、外国人インバウンドの増加を目指し、市内の観光関連施設や小売業者が外国人観光客の利便性向上を図るための無料Wi-Fi整備に係る経費への補助を行った。		113,817 人	183,901 人	197,350 人	188,936 人	170,899 人	148,000 人	
----	--	-----	---	--	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	--

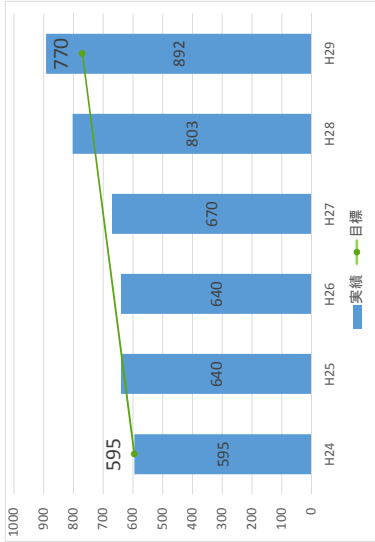
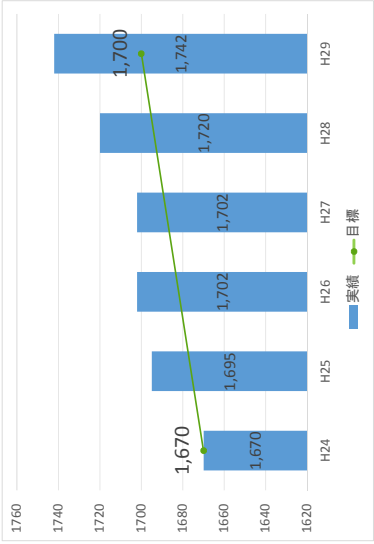
第3章 産業がいきいきと活発なまち

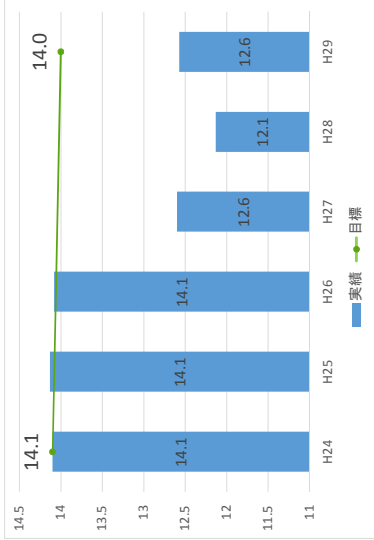
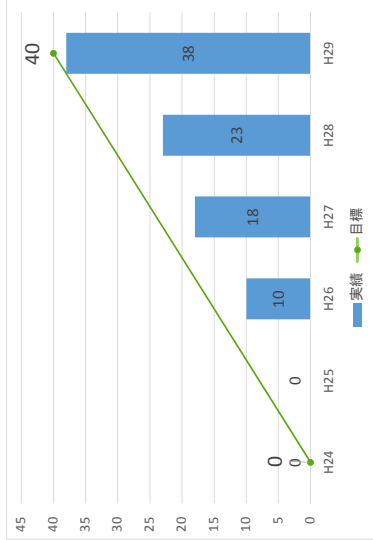
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29 b			
45	田代の郷温泉「伊太和里の湯」利用者数 (3－4)	観光課	■総評・主たる成果 平成28年4月から指定管理者制度を導入し、民間活力を活かした運営に変更している。 導入後においては、目標には届かなかったものの、2年連続で利用客数が増加した点は評価している。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 指定管理者については、廃止となった金谷方面のコミュニティバスに替わり、集客を図るため独自の無料送迎バスの巡回をはじめた。加えて、市内への転入者には無料招待券を配布するなど、需要があれば少数でも集客をするための取組や施設のPRを実施している。						後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	「市内観光地の認知度(市観光課ホームページへのアクセス件数)(年間)」 H28: 183,188件 ⇒ H33:200,000件
										
46	川根温泉及び川根温泉ホテル利用者数 (3－4)	観光課	■総評・主たる成果 川根温泉ホテルは、開業から4年を経過した。知名度のアップや指定管理者の営業努力により、目標値を大きく超える成果が得られた。 日帰り客を担う川根温泉は、源泉掛け流しの露天風呂として高い人気を博しており、年間29万人の利用客を数えているが、前年と比較して約1万人の減少となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 川根温泉ホテルの指定管理者である株式会社、積極的な営業活動を展開している。 入浴のセット商品を開発するなど、川根温泉の指定管理者である株式会社、周辺の日帰り温泉施設と連携して「大井川名湯倶楽部」を設立した。温泉カレージングランブリの開催や割引券入りポケットティッシュの配布など、中部エリアを見据えた誘客活動を展開した。						後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	「川根温泉及び川根温泉ホテルの利用者数(年間)」 H28: 399,962人 ⇒ H33: 412,000人
										



No.	めざそう値 指標		所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	実績値						目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	地区社会福祉協議会等の設置数			H24 a	H26	か 10 所	か 10 所	か 11 所	か 11 所			
47	地区社会福祉協議会等の設置数 【ほっと定住プロジェクト】 (4－1)			福祉課	■総評・主たる成果 市内の地区社会福祉協議会未設置地区への説明や意見交換の場を設けるなど、地区社会福祉協議会の設立に向けた取組を推進してきたが、後期基本計画期間における設立数は4地区に留まり、目標達成には至らなかった。 そのほか、初倉南小学校地区地区社会福祉協議会に対しては、未実施地区との統合を見据え、再編に向けて働きかけたが、再編には至らなかった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 地区社会福祉協議会の設立に向けた気運を高めるため、地域福祉についての勉強会を各自治会単位で開催しているが、地区によって事情が異なるため、理解を得ることが難しく、動きが鈍くなっている。 また、地区社会福祉協議会を設置することにより、一部の役員の負担が増加することが懸念されるため、配慮して進めていく必要がある。 なお、これからも行政と社会福祉協議会が連携し、地域ぐるみで支え合い、助け合う活動を充実させていく必要があることから、同指標を第2次島田市総合計画に引き継ぎ、地域福祉活動を推進していく。	7 所	か 10 所	か 10 所	か 11 所	か 11 所	か 20 所	C	施策の柱1-4 「地区社会福祉協議会の設置数(年度末時点)」 H28: 11件 ⇒ H33: 20件
	気付き合い、認め合い、支え合い、世代を超えて健康に安心して暮らすことのできる地域社会を実現します。												
48	赤ちゃん訪問実施率 【ほっと定住プロジェクト】 (4－2)			健康づくり課	■総評・主たる成果 平成27年度に一度目標を達成したが、平成29年度はわずかに目標にとどかなかった。 平成29年度の対象者 684件中1件について、住民登録を島田市に置きつつ他市に居住実態があるケースで連絡調整がうまくとれず、対象者が4か月児健康診査を受診されたことから、赤ちゃん訪問が未実施となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 赤ちゃん訪問のための日程調整の電話連絡がつかない場合もあるため、速やかに対応し全戸訪問していく。	98.0 %	99.4 %	100.0 %	99.6 %	99.8 %	100.0 %	A	施策の柱2-1 「子育て世代包括支援センターてくてくの相談件数(年間)」 H28: 337件 ⇒ H33: 500件
	子育てを地域全体で支援し、子どもを安心して産み育てられる環境をつくります。												

No.	めざそう値 指標		実績値				評価		第2次島田市総合計画に引続いためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	目標値 (めざそう値) H29 c	
49	認可保育園定員数 【ほっと定住プロジェクト】 (4－2)		1, 670 人	1, 702 人	1, 702 人	1, 720 人	1, 742 人	1, 700 人	施策の柱2-1 「保育所等の年度当初における待機児童数」 H28: 24人 ⇒ H33: 0人
	子育てを地域全体で支援し、子どもを安心して産み育てられる環境をつくりまします。	保育支援課	■総評・主たる成果 平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」がはじまり、保育需要がより増加した。その対応として、以下のとおり保育定員の増に取り組み、めざそう値を大きく上回った。 ・既存園の定員増 平成28年度 みどり認定こども園（13名増）、こばと保育園（5名増） ・島田ゆりかごの保育所の設置（平成29年度：72名） かねて保育園の民営化の際に定員を150名から100名に見直した。 なお、認可保育園以外にも地域型保育事業所の認可、定員増も進めた。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 待機児童が発生する0歳児～2歳児に対応するため、市有地を活用した島田ゆりかご保育所を整備し、大幅な定員増を実現した。 併せて、幼稚園の認定こども園化、地域型保育事業所の認可・定員増を進めた。						
50	放課後児童クラブ定員数・箇所数 【ほっと定住プロジェクト】 (4－2)		595 人 15 か所	640 人 15 か所	670 人 16 か所	803 人 17 か所	892 人 19 か所	770 人 16 か所	施策の柱2-1 「市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」における市民満足度」 H28:41.0% ⇒ H33:45.0% H28:55.7% ⇒ H33:60.3%（「わからない」、「無回答」を除いた回答）
	子育てを地域全体で支援し、子どもを安心して産み育てられる環境をつくりまします。	子育て応援課	■総評・主たる成果 少子化の進行が続く中においても、子育て世帯の核家族化や共働き夫婦の増加に伴う放課後児童クラブの解消を図った。 平成25年度から平成27年度にかけては、大津小学校や六合東小学校、五和小学校の児童クラブを民間に運営委託するとともに定員の拡大を図った。平成28年度以降も学校の余裕教室やワークスペースの活用による施設の拡張や増設を図り、受入定員数を増やすことで、目標値を達成することができた。 社会情勢や子育て世帯のニーズにより、今後も児童クラブの利用者は増加が見込まれる。状況に応じて待機児童の解消を図っていく必要がある。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 重点プロジェクトに「子育て環境の整備」を設定し、放課後児童クラブの対象年齢拡大に対応するとともに、運営強化に係る取組を推進してきた。 また、児童クラブの施設や受入可能定員の増加に向けた取組を進めるとともに、指導員増加に伴う女性の就労の場の提供を行い、雇用促進にも取り組んだ。						

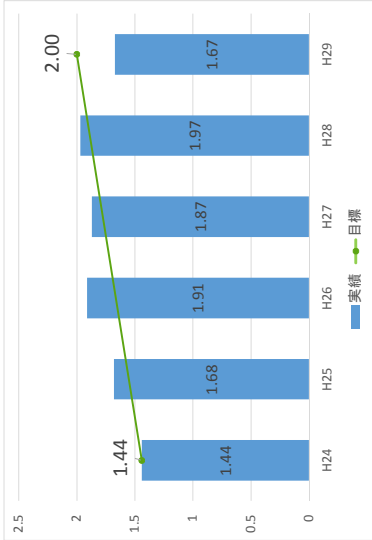
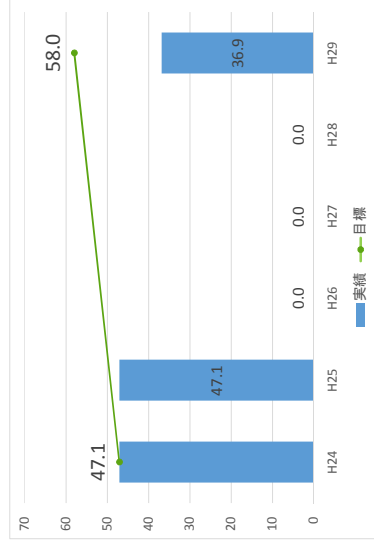


No.	めざそう値 指標		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値		
	めざす姿勢	所管課	(計画策定時)	H26	H27	H28	H29	H29				
51	要介護（要支援）認定率		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								グラフ	施策の柱1-3 「要介護・要支援認定率」 H28: 12.13% ⇒ H33: 12.75%
	【ほっと定住プロジェクト】 (4-3)		14.1 %	14.1 %	12.6 %	12.1 %	12.6 %	14.0 %	A			
	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。		■総評・主たる成果 平成28年度に引き続き、要介護認定者のうち、サービス未利用者に対し、総合事業についての説明を個別に行い、不要な認定更新申請の削減に努めた。 平成27年度から開始した総合事業により、要介護認定を受けなくても、基本チャックリストによる簡易な判定で事業対象者と決定されれば、通所介護及び訪問介護のサービスが利用可能となった。そのため、窓口で状況を確認し、認定申請を勧めめるか、総合事業を勧めめるか、地域で行う介護予防事業を勧めめるかの振り分けを行い、その人に合った手続きを示している。 平成29年度に総合事業が見直しされたことに伴い、年度末から新規要介護認定申請者数の増加が見られる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成28年度に比べ上昇したものの平成29年度の実績値は目標を達成しているため、今後も不要な認定更新申請の削減に向けた取組を継続していく。 総合事業により介護予防に高い効果が発揮されれば、認定年齢を遅らせ、さらなる認定率の低下や給付費抑制につながることが考えられる。									
居場所づくり事業実施箇所数		【ほっと定住プロジェクト】 (4-3)	か 0 所	か 10 所	か 18 所	か 23 所	か 38 所	か 40 所	A	施策の柱1-3 「しまトレ実施箇所数(平成29年度からの累計)」 H28: — ⇒ H33: 120か所		
52	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。		■総評・主たる成果 目標値までは至らなかったが、居場所実施箇所数は順調に増加している。 ハード面を市で、ソフト面を社会福祉協議会で、それぞれ補助金制度を設けて居場所づくりを支援した。 居場所を開設することに関して、市への報告や申請は不要であるため、実態の把握が困難な状況となっている。居場所の周知に力を入れる中で、地域住民の方から「居場所をやっているらしい」と市役所や社会福祉協議会に情報提供をいただくことが増え、平成29年度は多くの居場所が開設されていることを把握した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 市の業務委託により社会福祉協議会に配置されている生活支援コーディネーターを通じて、居場所の把握や周知を行った。 また、居場所等の地域の通いの場を紹介する冊子を作成し、居場所づくりの周知に努めた。							包括ケア推進課		

第4章 だれもちが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

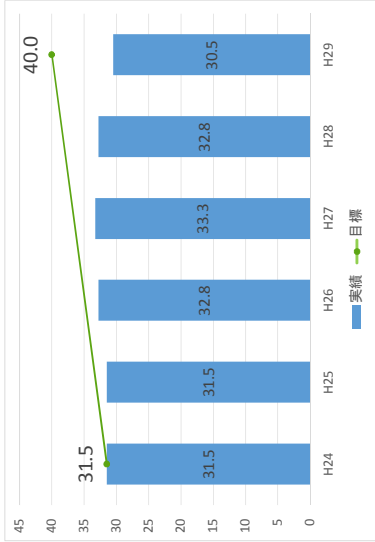
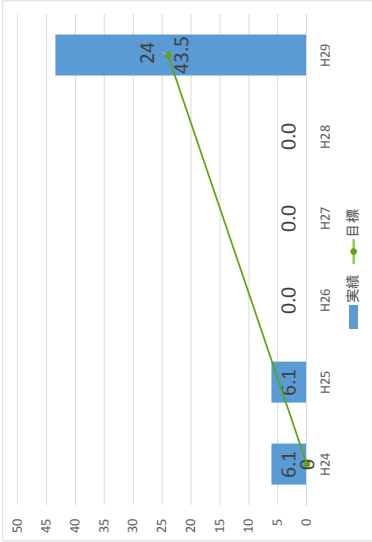
No.	めざそう値 指標		実績値						目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引続いためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c				
53	地域高齢者見守りネットワークづくり事業の協力事業所数 【ほっと定住プロジェクト】 (4－3)	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など						A		グラフ 施策の柱1-3 「地域高齢者見守りネットワーク協力事業所数 (H23年度からの累計)」 H28: 108事業所 ⇒ H33: 190事業所	
	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。	長寿介護課	■総評・主たる成果 平成29年度はコンビニ業界を中心に協力事業所を増やすことができた。 近年、高齢者のコンビニの利用が増えていることから、コンビニの事業協力は、見守りネットワーク事業の充実に繋がったと考えられる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成30年度から3年間は薬局を中心に協力依頼を進め、さらなる充実を図っていく。						事業所 20 所 63 所 97 所 108 所 117 所 117 所			
54	特別養護老人ホームへ入所の必要性が高い待機者数 【ほっと定住プロジェクト】 (4－3)	必要	68 人	57 人	27 人	14 人	14 人	30 人以下	A		施策の柱1-3 「要介護・要支援認定率」 H28: 12.13%⇒ H33: 12.75%	
	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。	長寿介護課	■総評・主たる成果 目標値30人以下に対して実績値は14人となり高い達成率となった。 実績値は、毎年静岡県が実施する特別養護老人ホームの入所希望調査結果（毎年1月1日現在）を用いている。 県内の特別養護老人ホームへ申し込みをしている島田市の被保険者のうち、要介護3以上やひとり暮らしまたは介護者が要介護状態などを考慮し、必要性が高いと判断された人数が調査を受けて公表される。 平成26年1月1日現在で97人であった待機者数は、認知症高齢者グループホームや小規模多機能型居宅介護などの介護サービスの充実や、特別養護老人ホームの入所要件の厳格化などにより平成30年1月1日現在では14人に減少した。 今後、待機者を減らすために、介護サービスの基盤の整備に加えて、本人の身体状況、家族の状況、経済の状況などを包括的に捉え、適正な介護サービスの利用に繋げていくことが重要である。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 第5期（H24～H26）及び第6期（H27～H29）介護保険事業計画に基づき介護サービスの基盤の充実を図った。 地域包括ケアシステムの構築を進める中、入所系のサービスの充実のほか、在宅介護において大変使い勝手の良い「小規模多機能型居宅介護」について生活圏域毎の整備を進めた。未整備の初倉地区については第7期に繰越し整備することとしている。 区分 第4期末 第6期末 （増加分） 認知症高齢者グループホーム 7施設・88床 ⇒ 12施設・179床（5施設・91床） 特別養護老人ホーム 7施設・424床 ⇒ 8施設・494床（1施設・70床） 特定施設入居者生活介護施設 1施設・44床 ⇒ 7施設・424床（6施設・380床） 小規模多機能型居宅介護 2施設 ⇒ 7施設（5施設のうち1施設は看護小規模多機能型居宅介護から転換）									

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29					
55	げんきアップシニア把握事業（二次予防事業対象者把握事業）実施者割合 ※65歳以上高齢者の割合【ほっと定住プロジェクト】（4－3）	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								引継指標なし	グラフ
	高齢者が生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めます。	包括ケア推進課	44 %	53 %	事業廃止	事業廃止	事業廃止	53 %	—			
			■総評・主たる成果 平成26年度までは、要介護・要支援認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象に、郵送にて元気度チェックを実施した。 本事業で把握した要介護状態になる恐れのある高齢者については、地域包括支援センターの職員が訪問にて状態を確認し、適切なサービスを提供した。 しかし、国が示す目標値には至らず、効果的な事業の実施方法ではなかったとの国の見解もあったことから、平成27年度から開始した新総合事業に併せ、郵送での元気度チェックの実施は取りやめた。									
相談支援件数【ほっと定住プロジェクト】（4－4）			8, 272 件	9, 978 件	9, 376 件	9, 081 件	9, 733 件	9, 300 件	A	引継指標なし(相談支援は平成30年度以降も取り組んでいくが、件数を増加させることが当事業の目的ではないため、引き継がなかった。)		
56	障害の有無にかかわらず、地域に住む全ての人が互いに理解を深め、支え合い、自分らしくいきいきすることのできる社会を実現します。	福祉課	後期基本計画期間における総評・主たる成果 障害に関する相談については、市役所窓口、電話、メール及び訪問等により実施している。 平成29年度の実績値は、前年度実績値及び目標値を大幅に上回る結果となったが、この結果に満足することなく、引き続き、障害に係る相談の充実を図っていききたい。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標値は相談件数を掲げているが、件数を増加させることだけでなく、相談者に満足してもらええる対応や気軽に相談できる体制整備にも取り組んでいきたい。									

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 b		評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				
57	障害者雇用率	福祉課	【ほっと定住プロジェクト】 (4－4)	1.44 %	1.91 %	1.87 %	1.97 %	2.00 %	C	施策の柱1-4 「障害者雇用率」 H28: 1.97% ⇒ H33: 2.30%	
	障害の有無にかかわらず、地域に住む全ての人が互いに理解を深め、支え合い、自分らしくいきいきの社会を実現します。		■総評・主たる成果 平成29年度の実績値は、目標値及び平成28年度実績値を下回る結果となった。 平成30年度からは障害者の法定雇用率が引き上げられた中、市からも企業（雇用側）への理解を求めているものの、企業の求める人材や企業の職場環境と障害のある人の特性がうまくかみ合わず障害者雇用が進んでいかなないものと考ええる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 障害特性が一人ひとり異なるため、単純に取組が実績に繋がるとは限らないが、ハローワークをはじめとした関係機関と連携し、支援を継続していくことで、第2次島田市総合計画に引き継いだめざそう値の目標達成を目指していく。					施策の柱1-2 「健康アンバサダー数（H30年度からの累計）」 H28: 0人 ⇒ H33: 800人			
58	COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度 (4－5)	健康づくり課		47.1 % (H25)	－ %	－ %	36.9 %		58.0 %	D	■総評・主たる成果 年1回の世界禁煙デーに合わせたJR駅前の街頭広報のほか、健康講座や禁煙教育、市内各地域のお祭りや健康チェックを実施する中で、たばこの害やCOPDについて周知を図ってきたが、なかなか浸透させることができず、目標達成に至らなかった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 毎年実施している世界禁煙デーに合わせたJR駅前の街頭広報を継続していくとともに、たばこの害やCOPDについて、健康講座や禁煙教育、地域のイベント等で啓発していく。併せて、「健康アンバサダー」を活用し、口コミによる健康情報の拡散を通じて、COPDの認知度を高める取組を実施するほか、受動喫煙による市民の健康への悪影響を防止する取組等を検討していく。
	市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、社会全体で健康づくりのための環境を整備すること、健康寿命の延伸を図ります。										

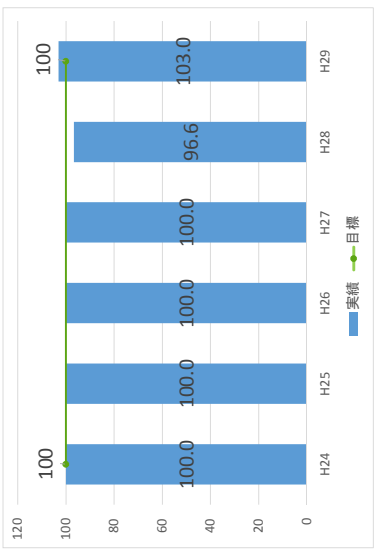
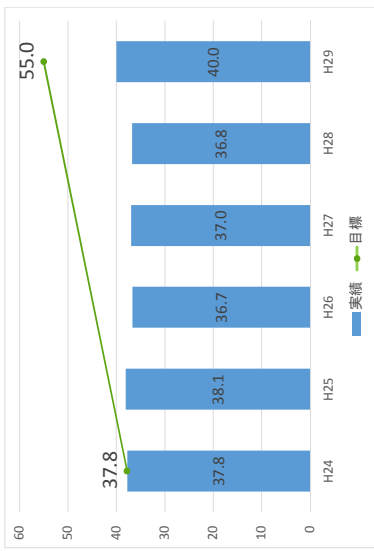
第4章 だれもちが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

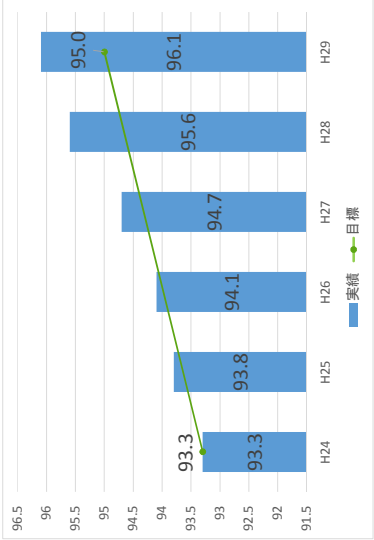
No.	めざそう値 指標	実績値					評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
		基準値 (計画策定時) H24 a	H26	H27	H28	H29 b		
	めざす姿	所管課						グラフ
59	1日3皿(約210g)以上野菜をとる市民の割合 (4－5)	6.1 5.0 % 上段：成人期 下段：高齢期 (H25)	－	%	－	%	43.5 43.1 %	24 % A
	市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、社会全体で健康づくりに取り組む環境を整備すること、健康寿命の延伸を図ります。	健康づくり課					■総評・主たる成果 第2次島田市食育推進計画に基づき、健康増進計画と両輪で生活習慣病予防・重症化予防の取組に重点を置き、事業を展開した。 乳幼児健診や相談、健康に関する講座など、あらゆる場を活用した多世代への周知・普及啓発活動が成果として現れた。行政だけでなく食育推進委員会や健康づくり食生活推進協議会などに所属する食育関連団体との連携と協働の取組による効果があったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 行政が事業推進力を維持しつつ、関連団体やソーシャルキャピタルの力を有効に活用し、連携して事業に取り組む。	
60	大腸がん検診受診率 (4－5)	31.5 %	32.8 %	33.3 %	32.8 %	30.5 %	40.0 %	D
	市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、社会全体で健康づくりに取り組む環境を整備すること、健康寿命の延伸を図ります。	健康づくり課					■総評・主たる成果 平成27年度でクーポン事業が終了したため、平成28年度以降受診率が下がっている。平成28年度には、登録の有無に関わらず、一定年齢の方へ受診票の送付を実施したが効果は少なかった。平成29年度には、NPO法人から無料で提供される「大腸がんクイズラリー」を3回実施し、大腸がん検診の必要性をPRする等登録者の増加に努めたが、受診率の向上には至らなかった。 大腸がん検診は、排便のみの簡単な検診のため、会社等の健康診断で実施されていることから、市で実施している大腸がん検診を受診する必要がある人が多くいることも、受診率が向上しなかった理由のひとつと考えられる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 大腸がん検診の内容を理解していない、内視鏡検査だと誤解して敬遠している等間違った認識を持っている人が多くいるため、大腸がん検診は、採便するだけの簡単な検査であることの周知や、国保年金証と連携して、毎年6月頃に実施している特定健診の未受診者勧奨時に、登録の有無にかかわらず、受診票と便キットを同封することで周知を図る等、受診率向上に向けた効果的な取組、受診勧奨方法等について、検診委託機関とともに検討し、受診率向上に努めていく。	



第4章 だれもちが健やかで幸せに暮らせる健康・福祉のまち

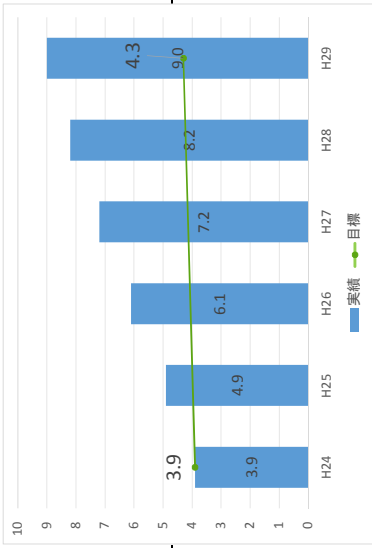
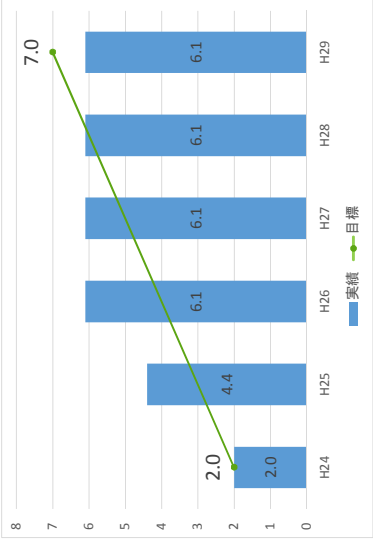
No.	めざそう値 指標		実績値					評価		第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	基準値 (計画策定時) H24 a	H26	H27	H28	H29 b	目標値 (めざそう値) H29 c	評価	
61	市民の健康と命を守るために必要な医療の提供体制を確保します。	病院建設課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと など							グラフ
	新島田市市民病院建設に係る進捗率 【ほっと定住プロジェクト】 (4－6)		10.0 % ※下段は総事業費に対する執行割合を示す。 (H28、H29)	10.0 %	20.0 %	30.0 %	50.0 %	50.0 %	A	施策の柱1-2「新市民病院建設事業進捗率」 H28: 0.7% ⇒ H33:97.3% ※第2次では総事業費に対する累積執行額を基準とし、平成28年度の基本設計からH34年度の外構工事完了までの総事業費(約241億円)に対する累計執行額を指標とした。
62	市民の健康と命を守るために必要な医療の提供体制を確保します。	病院地域医療連携室	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと など							グラフ
	①診療所等から島田市市民病院へへの紹介率 ②島田市市民病院から診療所等への紹介率 【ほっと定住プロジェクト】 (4－6)		59.5 %	60.2 %	59.5 %	64.1 %	65.1 %	65.0 %	A	施策の柱1-2 「市民意識調査「医療の充実」における市民満足度」 H28: 34.7% ⇒ H33: 45.0% H28: 40.8% ⇒ H33: 50.0% (「わからない」「無回答」を除いた割合)
63	市民の健康と命を守るために必要な医療の提供体制を確保します。	病院地域医療連携室	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと など							グラフ
	①診療所等から島田市市民病院へへの紹介率 ②島田市市民病院から診療所等への紹介率 【ほっと定住プロジェクト】 (4－6)		59.5 %	60.2 %	59.5 %	64.1 %	65.1 %	65.0 %	A	施策の柱1-2 「市民意識調査「医療の充実」における市民満足度」 H28: 34.7% ⇒ H33: 45.0% H28: 40.8% ⇒ H33: 50.0% (「わからない」「無回答」を除いた割合)

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29			
63	島田市看護専門学校卒業生の看護師国家試験合格者率 【ほっと定住プロジェクト】 (4－6)	看護専門学校 教務課		100 %	100 %	96.6 %	103 %	100 %	A	引継指標なし
	市民の健康と命を守るために必要な医療の提供体制を確保します。			■総評・主たる成果 平成29年度は3年生34人が受験した結果、全員が合格し、合格率100%を達成することができた。また、平成28年度不合格だった1名の既卒者も、学校で1年間指導し、併せて合格することができた。 今後、学生募集にも直結する国家試験の合格率100%の継続と、よりよい看護師の育成に努めていく。						
64	特定健康診査受診率 (4－7)	国保年金課		37.8 %	36.7 %	37.0 %	40.0 %	55.0 %	D	施策の柱1-2 「国民健康保険事業特定保健指導実施率」 H28: 88.5% ⇒ H33: 88.5%
	被保険者が安心して医療を受けられるよう、健全な事業運営を実現します。			■総評・主たる成果 国の「特定健康診査及び特定保健指導の適切かつ有効な実施を図るための基本的な指針」で、平成29年度における市町村国保の加入者に係る特定健康診査の実施率は60%以上とされている。島田市の状況を鑑み、55%の目標を設定したが、実績はほぼ横ばいとなり、取組の成果が受診率には現れなかった。 しかし、国及び各自治体では、受診勧奨と併せて国民健康保険特定健康診査の認知率向上を目指したPR等を長期に渡って実施してきたことから、特定健康診査に対する認知率、市民関心は向上していると推測する。						

No.	めざそう値 指標		所管課	実績値					目標値 (めざそう値) H29	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値																				
	めざす姿	指標		H24	H26	H27	H28	H29																							
	めざす姿勢	国民健康保険税収納率	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								グラフ																				
	(4－7)			93.3 %	94.1 %	94.7 %	95.6 %	96.1 %	95 %	A	引継指標なし																				
65	被保険者が安心して医療を受けられるよう、健全な事業運営を実現します。	国保年金課	■総評・主たる成果 収納率が平成29年度県内1位（市の部 政令市含む）の結果となった。（96%超の市は県内において当市のみ） 徴収専門員の役割を国保年金課の職員で担っている。 収納率が高いことで、5年間、税率の引き上げを実施せずに国保特別会計の健全運営ができています。その結果、県の保険者努力支援制度における、収納率県内上位3割の特別交付金交付対象自治体となっている。 なお、滞納処分に対する審査請求や取消訴訟事案は発生していない。 滞納整理に特化したサフシステム未導入の状況で高い収納率を保持している。（県内自治体の9割が導入） ■目標達成のための取組で特記すべき事項 ・徹底した滞納者の債権管理 ・資格異動や諸手続きの際の滞納情報との突合、折衝を実施 ・国税徴収法第141条に基づく財産調査の拡充 ・国税徴収法第142条に基づく捜索の実施 ・担当職員全員の意識共有（コンプライアンスや納期限内納付促進の意識） ・毎月の徴収状況分析に基づく方針策定（毎月実施）							 <table><tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr><tr><td>H24</td><td>93.3</td><td>93.3</td></tr><tr><td>H25</td><td>93.8</td><td></td></tr><tr><td>H26</td><td>94.1</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>94.7</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td>95.6</td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td>96.1</td><td>95.0</td></tr></table>	年度	実績	目標	H24	93.3	93.3	H25	93.8		H26	94.1		H27	94.7		H28	95.6		H29	96.1	95.0
年度	実績	目標																													
H24	93.3	93.3																													
H25	93.8																														
H26	94.1																														
H27	94.7																														
H28	95.6																														
H29	96.1	95.0																													

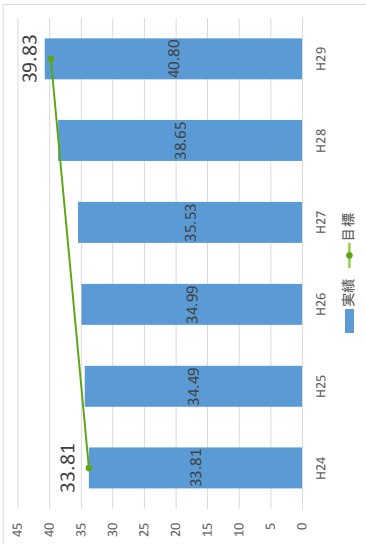
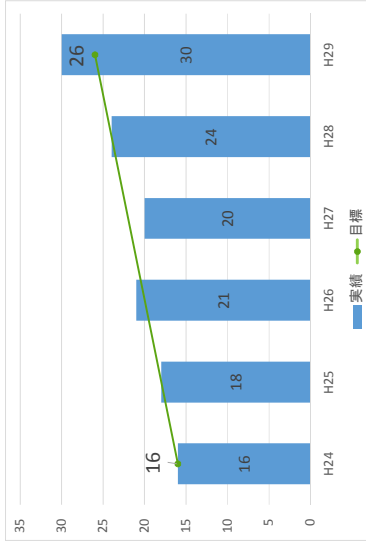
No.	めざそう値 指標		所管課	実績値					評価		第2次島田市総合計画に引続しためざそう値						
	基準値 (計画策定時)	H24		H26	H27	H28	H29	目標値 (めざそう値)	H29								
	めざす姿		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など									グラフ					
66	家庭版環境マネジメント事業参加世帯数 (5－1)		環境課	862	世帯	728	世帯	305	世帯	997	世帯	1,055	世帯	1,350	世帯	C	施策の柱4-1 「アース・キッズ事業参加者数(H23年度からの累計)」 H28: 2,191人 ⇒ H33: 4,640人
	市民一人ひとりが環境負荷の低減に向けて取り組み、持続的な発展がでる地域社会の構築を目指します。			■総評・主たる成果 県民運動に歩調を合わせて実施してきたが、内容の変更、事業の終了により、家庭における環境マネジメントの啓発活動に移行した。 平成28年度からは、学校の社会見学で田代環境プラザを訪れる児童などを対象に、家庭に帰って環境マネジメントを実施してもらうよう周知するなど取組を展開してきたが、目標の達成には至らなかった。 目標未達成という結果となったが、家庭でできる環境問題対策という点で考えると、これまで親子の環境学習講座やアースキッズ事業を通しての啓発などの取組を充実したことから、達成度以上の成果があったと考えられる。	■目標達成のための取組で特記すべき事項 当初は県民運動の家庭版環境マネジメント事業に参加する形で推進してきた。平成23年度から平成25年度までの3年間実施していた「ふじのくにエコチャレンジDAY's事業」が終了し、平成26年度から新事業の「ふじのくにエコチャレンジCHECK事業」となった。参加者が気軽に取り組み始めることが利点である反面、すでに実践していることをチェックする方式が事業効果等への反映が難しいと捉え、平成27年度は対面での啓発が可能なイベント(くらし・消費・環境展)に力点を置いて活動した。 平成28年度については、費用対効果を鑑み CHECK事業には参加せず、独自の家庭版環境マネジメント事業を田代環境プラザの見学者に対してエコチェックシートを記載いただく方法で実施した。 加えて、平成29年度については、エコチェックシート内にクールチャョイスに関する記事を追加し、市民の環境負荷の低減に向けた意識の向上を図った。												
67	エコアクション21認証取得事業者数 (5－1)		環境課	72	事業者	74	事業者	76	事業者	76	事業者	79	事業者	83	事業者	B	施策の柱4-1 「COOL CHOICE賛同者数(H29年度からの累計)」 H28: － ⇒ H33: 3,000人
	市民一人ひとりが環境負荷の低減に向けて取り組み、持続的な発展がでる地域社会の構築を目指します。		■総評・主たる成果 エコアクション21の認証取得事業者数は、都道府県では静岡県が全国1位であり、その中で島田市は県内4位の事業者取得数となっている。(平成30年4月末現在) 島田市としては、これまで自治体イニシアティブ事業を活用し、エコアクション21の地域事務局の協力を得て、市内事業者に対して認証取得をするためのセミナーを実施してきた。ここ近年では受講者数が減っている状況であり、一時期の増加数からすると微増の状況が続いている。 また、認証取得には登録費用が隔年で発生し、審査費用については毎年生じるため、エコアクション21を認証取得したことにより得られた収益が、この必要費用を上回ることができれば継続していくことは難しく、認証取得を思いとどまる事業者もあると考えられる。 自治体イニシアティブ事業により市内事業者の認証取得に一定の成果は得られたが、上記理由も含め目標達成には至らなかった。	■目標達成のための取組で特記すべき事項 島田市が市内事業者の模範となるようエコアクション21の認証取得に取り組み、継続してきた。 自治体イニシアティブ事業を活用し、市内事業者向けの認証取得セミナーを無料で開催してきた。													

第5章 自然と共生する資源循環型のまち

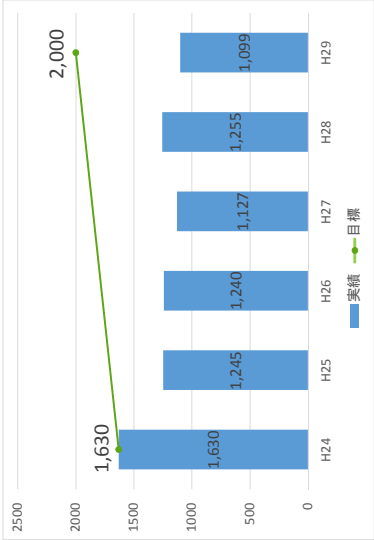
No.	めざそう値 指標		所管課	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿			H24	H26	H27	H28	H29	H29				
	めざす姿		所管課										グラフ
	太陽エネルギー利用設備導入助成利用者の発電容量 (5－1)			施策の柱4-1 「太陽光補助金申請者の太陽電池設置容量 (H14年度からの累計)」 H28: 8.2 MW ⇒ H33: 11.8 MW									
68	市民一人ひとりが環境負荷の低減に向けて取り組み、持続的な発展ができる地域社会の構築を目指します。	環境課	■総評・主たる成果 継続実施してきたことで事業の周知につながり、目標を大きく上回る結果となった。 また、めざそう値には反映しないが、平成28年度から補助事業に追加した強制循環型太陽熱利用設備も好評であり、環境負荷の低減につながっているものと考ええる。 ・平成29年度 太陽光利用設備 172件 太陽熱利用設備 12件 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 毎年、住宅用太陽エネルギー利用設備設置事業費として予算を計上し、事業費を確保している。 ・平成29年度 15,000千円										
													
	島田市の大規模発電施設における、再生可能エネルギーによる発電容量 (5－1)			施策の柱4-1 「太陽光補助金申請者の太陽電池設置容量 (H14年度からの累計)」 H28: 8.2 MW ⇒ H33: 11.8 MW									
69	市民一人ひとりが環境負荷の低減に向けて取り組み、持続的な発展ができる地域社会の構築を目指します。	環境課	■総評・主たる成果 平成26年度以降、具体的大規模発電施設の設置はなかった。 ◆施設別再生可能エネルギー計画発電出力 (バイオマス) 1,990kW ①田代環境プラザ (太陽光) 1,500kW ②ソーラーパークしまだ (水力発電) 893kW ③伊太祁曽発電所 (太陽光) 199kW ④島田浄化センター水処理棟 (太陽光) 1,525kW ⑤富士山静岡空港太陽光発電所 (太陽光) ■目標達成のための取組で特記すべき事項 平成26年度以降、具体的大規模発電施設の設置はなかった。 民間事業者で独自に発電しているところもあるが、市が主体となって新たに発電施設を設置することは管理運営面から困難と思われるため、民間との協力を踏まえ、周辺環境への影響を加味しながら事業推進の検討をする必要がある。										
													

第5章 自然と共生する資源循環型のまち

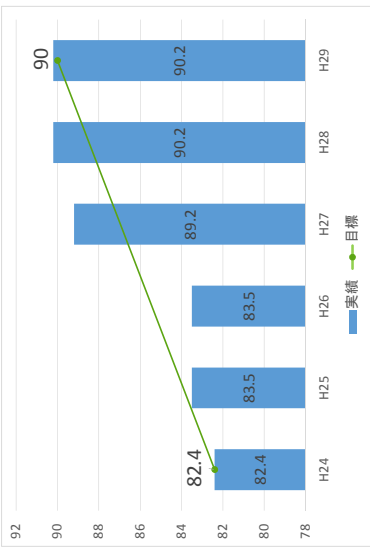
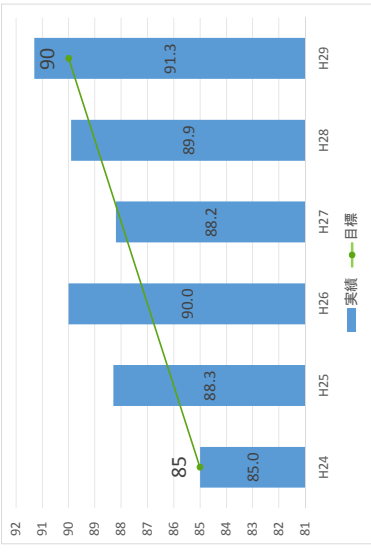
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 o		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26 g/人・日	H27 g/人・日	H28 g/人・日	H29 g/人・日				
70	1人当たりのごみ排出量 (5-2)	環境課		916 g/人・日	885 g/人・日	886 g/人・日	889 g/人・日	852 g/人・日	893 g/人・日	A	施策の柱4-1 市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」における重要度 H28: 87.3% ⇒ H33: 91.5% H28: 92.0% ⇒ H33: 93.8%(←全体の回答のうち、「無回答」を除いた割合)
	廃棄物の発生の抑制や再資源化を進めるとともに、最も利用できなない廃棄物は適正に処分することにより、循環型社会の構築を進めます。		■総評・主たる成果 燃えるごみの約4割を占める生ごみの減量に効果的なキエーロの普及啓発を強化した。利用者の増加に伴い、平成27年度から増加に転じていた1人当たりのごみ排出量の減少に寄与したものと分析している。 キエーロの交付台数が平成28年度比で9割近く増加したことは、家庭で出る生ごみ減量の取組として一定の成果があったと考える。 また、最終処分場閉鎖に伴い、川ざらいで発生する土砂の埋め立てごみが産業廃棄物の扱いとなったことが、ごみの排出量減少に影響していると思われる。 ・生活系ごみの前年度比較：1,867 t 減 ・事業系ごみの前年度比較：248 t 増	■目標達成のための取組で特記すべき事項 キエーロの効果を実感していただくため、平成29年度から無料貸出を開始したところ、利用したほとんどの方がキエーロを購入する結果となった。加えて、商工会婦人部への説明会の実施、市民団体のキエーロに関するイベントの支援や、くらし・消費・環境展での無料貸出のPRなどを実施することで、燃えるごみの減量に向けた取組を推進している。 ・平成28年度キエーロ（補助金）交付件数：22台 ・平成29年度キエーロ（補助金）交付件数：41台				■実績 916 885 886 889 852 893		■目標 916 885 886 889 852 893	
71	古紙、ペットボトル、トレイ等のリサイクル率 (5-2)	環境課		22.8 %	21.0 %	19.8 %	18.9 %	18.9 %	30.6 %	D	施策の柱4-1 市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」における重要度 H28: 87.3% ⇒ H33: 91.5% H28: 92.0% ⇒ H33: 93.8%(←全体の回答のうち、「無回答」を除いた割合)
	廃棄物の発生の抑制や再資源化を進めるとともに、最も利用できなない廃棄物は適正に処分することにより、循環型社会の構築を進めます。		■総評・主たる成果 リサイクル率が年々低下する中、古布類回収ボックスの増設や雑紙分別の普及啓発活動を強化した結果、目標の達成には程遠いが、平成28年度の実績値に対し0.06ポイントと僅かではあるが増加に転じた。 ペーパーレス化に伴う古紙資源の急速な減少や、ペットボトルの普及に伴う空きびんの減少により、この数年減少の一途を辿っていたリサイクル率が、増加に転じたことは取組の一定の成果であったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 人口、世帯数とも増加している六合地区に古布類回収ボックスを増設したことで、古布類の回収量が前年度と比較して2割増加した。 また、回収量増加には至らなかったが、くらし・消費・環境展で市民団体が実施した「雑紙専用袋 200袋配布」を支援するなど、雑紙分別の普及啓発に関する取組を推進している。	■実績 22.8 21.0 19.8 18.9 18.9 30.6				■目標 22.8 21.0 19.8 18.9 18.9 30.6		■実績 22.8 21.0 19.8 18.9 18.9 30.6	

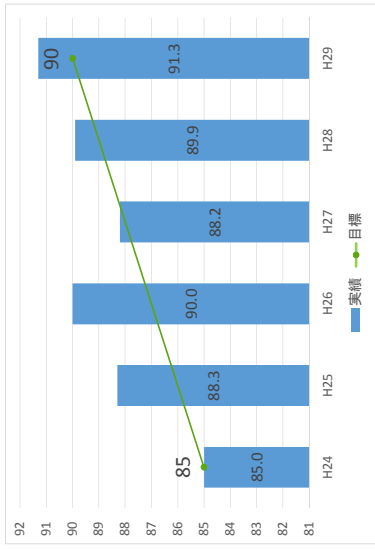
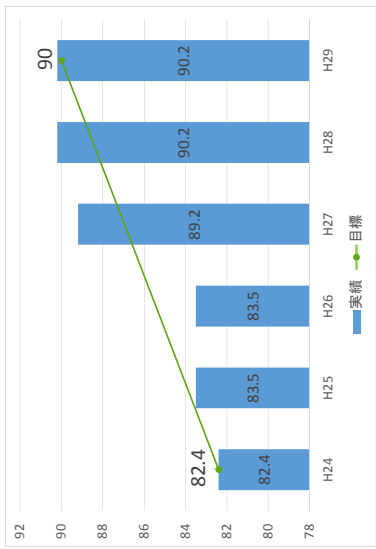
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 g		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課		H26 b	H27 c	H28 d	H29 e					
	汚水処理人口普及率 (5－2)										グラフ	
	施策の柱4－3 「汚水処理人口普及率」 H28: 58.49%⇒ H33: 60.3% ※静岡県生活排水処理長期計画を元に、公共下水道の供用開始区域で合併処理浄化槽を使用している人口を含めて算出しているため、第1次総合計画と算出根拠が異なる。											
72	廃棄物の発生抑制や再資源化を進めるとともに、最も利用できない廃棄物は適正に処分することにより、循環型社会の構築を進めます。	下水道課	■総評・主たる成果 計画期間における汚水処理人口は、公共下水道の供用開始区域内人口で 325人、合併処理浄化槽を使用している人口で 5,782人増加した。 一方で、コミュニティプラントを使用している人口では、140人減少した。 全体として汚水処理人口は、5,967人増加し、汚水処理人口普及率は、33.81%（平成24年度）から40.80%（平成29年度）に上昇し、目標値 39.83%を上回る結果となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 計画期間において、公共下水道幹線及び支線を4,849.83m整備し、これにより公共下水道供用開始区域は、21.42ha増加した。 また、合併処理浄化槽設置補助金を 2,068基分交付した。								A	
	リバーフレンドシップ同意書締結団体数 (5－3)		16 団体	21 団体	20 団体	24 団体	30 団体	26 団体	A	引継指標なし		
73	水や緑の恵みが身近に感じられる空間を整備するなど、自然環境を保全・活用し、市民の健康で文化的な生活を確保します。	すぐやる課	■総評・主たる成果 平成25年度以降、15団体との間で新たにリバーフレンドシップの同意書を締結したが、1団体解散したことから団体数としては、平成29年度末に30団体となった。 目標より4団体多い結果となったため、環境整備の推進に成果があったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 県と市が連携して活動団体を支援すること、3者協働による取組を進めた。									

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 o	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29 b			
森林整備面積（年間） （5－3）										
74	水や緑の恵みが身近に感じられる空間を整備するなど、自然環境を保全・活用し、市民の健康で文化的な生活を確保します。	農林課	238.00 ha	208.00 ha	263.14 ha	252.82 ha	226.38 ha	285.00 ha	D	施策の柱4-2 「森林整備面積（年間）」 H28: 252.82ha ⇒ H33: 305.00ha
			■総評・主たる成果 現在、森林整備に関する補助金を活用する手法として、主に国・県の補助金を優先し、市の補助金を付け増す組み立てとなっている。 国や県の予算により森林整備面積が大きく変動するため、今回は目標達成に至らなかったが、平成26年度から平成29年度の4年間で約 950haの森林が整備され、整備後の森林については、公益的機能の発揮が見込まれる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 森林は、土砂災害防止、水源涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、公益的機能を保持している。しかし、現在、市内の森林は、木材価格の低迷による森林施業意欲の減退や後継者・労働者不足により整備が遅れ、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されない恐れがある。 森林施業意欲及びこれらの公益的機能を回復させていくためには、間伐等の森林施業及びそれに必要な路網整備に対する補助事業を継続的に進めていく必要がある。 今後は、来年度からはじまる「森林環境譲与税（仮称）」を安定的な財源と見据え、引き続き国・県の補助制度を活用しながら、より積極的な取組を行っていく必要がある。							
アースキッズ事業参加者数 （5－4）										
75	地球温暖化などの環境問題について、子どもから大人までが関心を深められるよう、環境教育・学習を充実し、主体的に取り組むことができる人材を育成します。	環境課	259 人	427 人	395 人	533 人	448 人	300 人	A	施策の柱4-1 「アース・キッズ事業参加者数（H23からの累計）」 H28: 2,191人 ⇒ H33: 4,640人
			■総評・主たる成果 事業を継続して実施してきたことで事業の周知につながり、実施希望校が増加した。 アースキッズ事業を実施した学校からは大変好評をいただいており、事業内容に対する満足度の高さから、毎年実施希望があるため、目標を大きく上回る結果となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 学校の次年度事業の年間スケジュールは前年度に決定されてしまうことから、日程調整を早い段階で実施しアースキッズ事業実施希望校を把握するなど、新年度、スムーズに事業へ取り組んでいただけるような体制づくりに努めた。 また、希望する全ての学校が事業実施できるように予算措置した。							

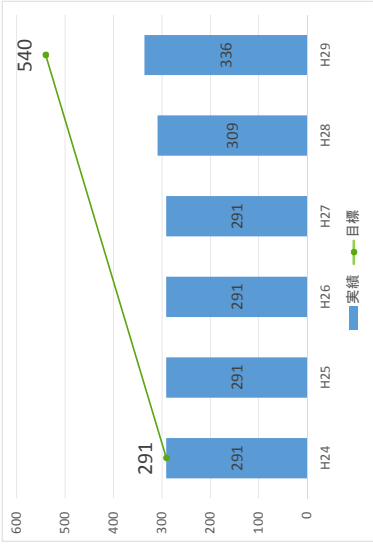
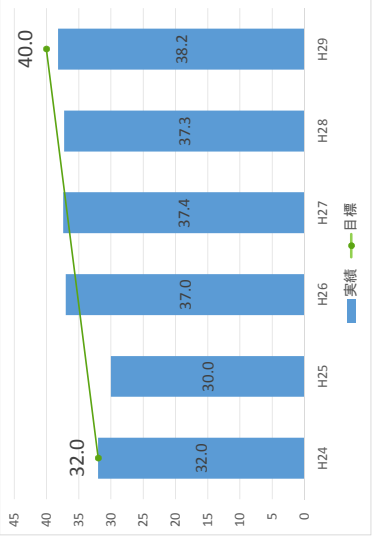
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)	実績値				目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29	H29 b		
	めざす姿	所管課								グラフ
	田代環境プラザ・ソーラーパークしまだ（メガソーラー発電所）見学者数 (5-4)		1,630 人	1,240 人	1,127 人	1,255 人	1,099 人	2,000 人	D	施策の柱4-1 「アース・キッズ事業参加者数 (H23からの累計)」 H28: 2,191人 ⇒ H33: 4,640人
76	地球温暖化などの環境問題について、子どもから大人までが関心を深められるよう、環境教育・学習を充実し、主体的に取り組むことができ、人材を育成します。	環境課	■総評・主たる成果 田代環境プラザの平成29年度見学者数は平成28年度に対し微減となったが、市内及び川根本町の小学生の施設見学に加え、市内商工会女性部や海外からのホストファミリーなど、幅広い層に対しごみ処理の流れやごみの減量化・資源化等について説明し、環境保全意識の啓発した。 ソーラーパークしまだの見学者数については、完成してからしばらくの間は見学者が見られたが、メガソーラーが各地で設置されたことで注目度も低くなり、見学者が減少して目標値には届かなかった。 平成28年度には、ポイラータービンの研修会や母親大会が島田市で開催され、当施設が見学コースの1つとなったことから、一時的に増加した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 田代環境プラザは、市内及び川根本町のほとんどの小学生が見学している。さらには、昨年度に引き続き環境課主催で「夏休み親子環境学習講座」を開催し、その中で施設見学も実施した。 ソーラーパークしまだについては、依頼があった場合について日程調整を行い、見学の受け入れを実施してきた。見学者への対応については、ソーラーパークしまだの設置者である㈱シーテックの職員に依頼して対応いただいたほか、環境課の担当が説明を実施している。							

第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		めざす姿	所管課	基準値 (計画策定時) H24 a		実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値	
					H26	H27	H28	H29 b							
					後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など									グラフ	
77	静岡県が示している耐震基準に 対する学校施設の耐震化率 (6－1)				82.4 %	83.5 %	89.2 %	90.2 %	90.2 %	90.0 %	A		施策の柱2－3 「学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合」 小学校: H28 91.1% ⇒ H33: 92.0% 中学校: H28 86.0% ⇒ H33: 88.0%		
	「個に焦点をあてた教育」と「地域や保護者から信頼される学校づくり」を通して、子ども一人ひとりの「豊かな心、確かな学力、健やかな体」の育成を図ります。			教育総務課	■総評・主たる成果 平成28年度に神座小学校舎耐震補強計画を策定していく中で、校舎の耐震性がランクⅡからランクⅠaであることが確認されたため、耐震化率が90.2%となり、目標達成となった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 子どもの安全・安心を確保することはもちろん、学校施設は災害時の避難所にもなるため、今後も、耐震性能がランクⅡである施設（校舎7棟、屋内運動場3棟）の改築及び耐震化を行い、耐震化率100%を目指していく。										
78	授業がよくわかると思う児童・生徒の割合 (6－1)				85.0 %	90.0 %	88.2 %	89.9 %	91.3 %	90.0 %	A		施策の柱2－3 「学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合」 小学校: H28 91.1% ⇒ H33: 92.0% 中学校: H28 86.0% ⇒ H33: 88.0%		
	「個に焦点をあてた教育」と「地域や保護者から信頼される学校づくり」を通して、子ども一人ひとりの「豊かな心、確かな学力、健やかな体」の育成を図ります。			学校教育課	■総評・主たる成果 小学校・中学校ともに、めざそう値の目標値を達成できている。平成24年度からの実績値と比べ、平成29年度の値が最も高い。島田市の教育として取り組んできた「個に焦点を当てた教育」が市内小中学校に浸透してきた成果であると考ええる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標達成の要因として、島田市教育方法研究会による年2回の研究授業を通して、島田市のめざす「個に目標達成の要因として、島田市教育方法研究会が全教員に浸透してきたことがあげられる。 具体的には、「一人一人が課題をつかんでいる」「一人一人が考えをもっている」「一人一人が考えを伝え合っている」「一人一人が学習を振り返っている」かについて、教師の子供に対する見取りが充実して授業改善につながったことが考えられる。 また、学校教育支援員の配置により、学校の一斉授業の中ではなかなか学習についていけない児童生徒に対し、個に応じた学習への支援を行ってきた。ADHDやLD、自閉症等の特別な支援を必要とする子供に対する支援や授業への集中が困難な子、友達とのトラブルが絶えない子などに対し、その子供たち一人一人に支援してきたことが、学級全体の学習秩序を保つことにもつながった。										



第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画決定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c		評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29				
			後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など								グラフ
79	小学校パソコン教室における児童用パソコン配備数 (6－1)	教育総務課	■総評・主たる成果 平成28年度にモデル校において検証したタブレット端末を活用した授業について、全国的にタブレット端末を活用した授業の実施のため、平成28年度の推進が図られていることから、本市においてもタブレット端末を活用した授業の導入を進めているところである。 また、パソコン教室の機器については、導入からおおよそ10年が経過し、また2020年1月にWindows 7のサポートが終了するなど、更新時期を迎えるため、2 in 1 タイプの機器の導入を検討している。	291 台	291 台	309 台	336 台	540 台	D	引継指標なし	
	「個に焦点をあてた教育」と「地域や保護者から信頼される学校づくり」を通して、子ども一人ひとりの「豊かな心、確かな学力、健やかな体」の育成を図ります。										
80	学校給食における島田市産農産物の使用割合 (重量) (6－1)	学校給食課	■総評・主たる成果 平成29年度の実績値は、島田市産農産物重量が38.20%、品目が32.08%となった。 重量については、目標値に向け、少しずつ増加してきたが、目標値の達成までには至らなかった。 今後、新規納入生産者を募集し、安定して、学校給食に納入していくべきこと。	32.0 %	37.0 %	37.4 %	37.3 %	38.2 %	40.0 %	B	施策の柱2-3 「学校給食における島田市産農産物の使用割合 (重量)」 H28: 37.26% ⇒ H33: 40.0%
	「個に焦点をあてた教育」と「地域や保護者から信頼される学校づくり」を通して、子ども一人ひとりの「豊かな心、確かな学力、健やかな体」の育成を図ります。		■目標達成のための取組で特記すべき事項 学校給食地産地消推進連絡会議を農林課と合同で開催し、学校給食の紹介をしたり、現在納品していただいている生産者の意見を聞いた。給食への食材導入を依頼した。 また、自治会や農業委員会を通して、新規生産者開拓の呼びかけを行った。 今後、学校給食センターと生産者が密に連絡を取り合うことで、地場産物を使用した献立を計画的かつ安定的に取り入れていく。								

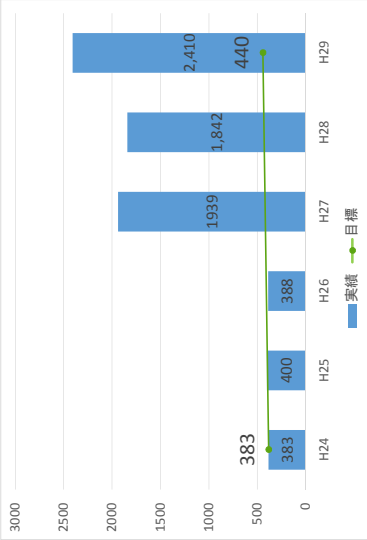
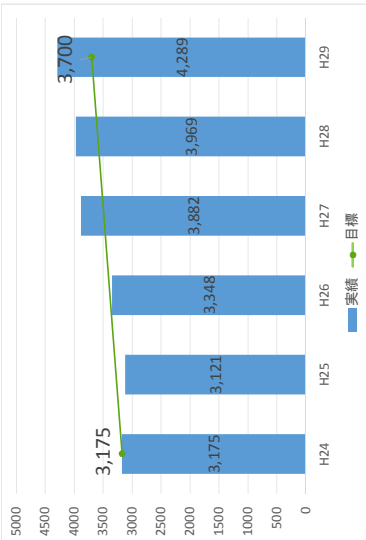
第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		実績値					目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c			
81	しまだ楽習センター利用者数（年間） （6－2）	社会教育課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など					D		施策の柱2-4 「しまだ楽習センター」「ふれあい楽習講座」受講満足度」 H28: 76.3% ⇒ H33: 81.3%	
	市民が望む学習が実践できる環境を整備し、市民の自発的な学習活動を活性化します。		49,016 人	47,846 人	47,209 人	43,988 人	39,717 人	50,200 人			
■総評・主たる成果 ○教養講座の開催 973回、13,792人 （内訳）ふれあい楽習884回、12,941人 ・ジュニアクラブ62回、583人 ・夏・冬の各短期講座27回、268人 ○にほんご教室 41回、677人 ○一般利用等 2,621回、25,248人 ※楽習センターを会場として実施してきた「マナビまつり」をフェスタしまだ（おおおりを会場）に統合したため、平成28年度以降のセンター来場（利用）者数に計上していない。 生涯学習施設運営に民間企業のノウハウを導入するため、平成30年度から指定管理者制度による運営を開始した。平成29年度はその準備が必要であったため、新規講座は開設しなかった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 公益性の観点から、市民にとって身近なテーマの事業を低廉な受講料で提供することで、新たに生涯学習に取り組む市民を増やすとともに、生涯学習の裾野を広げていく必要がある。また、人気の高い講座だけでなく多様なジャンルの講座開催に努める必要がある。 講座募集の周知と新たな受講生の獲得への取組として、申込者の負担軽減や利便性を図るため、平成29年度講座受付から往復はがきでの申込みを廃止し、受講決定通知、講座日程・持ち物、受講料納入通知書を一括して郵送する方法に変更した。また、特定の講座でリピーターが占め、新人が入りにくいという意見から、平成28年度から募集チラシに難易度を記載し新規受講生の獲得を目指した。 指定管理者制度導入へ向けた取組として、施設利用の活性化を目指し、利用時間単位を半日3区分（午前・午後・夜間）から1時間区分に変更するよう条例改正を行った。平成30年度から施行し、指定管理者による運営開始とともに変更した。											
公民館等利用者数 （6－2）			(年間)					A		施策の柱2-4 「生涯学習の成果を発表した人の数」 H28: 1,955人 ⇒ H33: 2,030人	
■総評・主たる成果 平成28年度末に実施した六合・初倉両公民館の天井改修工事により一時的に減少した利用者数は回復したと思われる。一方、市民会館解体により活動場所を失った団体による公民館等の利用が進み、利用者数が増加してきている。 各施設では、市民学級・高齢者学級に積極的に取り組むとともに、夏休み親子講座や、昨年度に引き続きワールドカフェ方式で開催した「金谷の良ところ再発見Part2」、地域の史跡を巡る歴史講演会等、地域への愛着を育む講座を開催した。 「市民一人一生涯学習」の普及と地域間の市民交流の促進を目指し、平成28年度から市内全ての社会教育施設で金谷宿大学開催を可能としたことにより、金谷地区以外の施設での講座が増えてきている。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 六合、初倉両公民館の天井改修工事の計画的実施（平成28年度）により、利便性、安全性の向上が図られた。 一方で、建築から20年以上経過した3つの施設（大津、伊久身、川根）をはじめ、多くの施設の老朽化が進んでいる。各施設からは修繕要望が多数挙がってきており、中には緊急を要する不具合箇所が増えてきている。今後、施設の継続目的を検証し、その結果に併せた施設の維持管理を行い、利用者満足度の向上を進めるには、施設修繕や改修を計画的に行っていく必要がある。											

第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

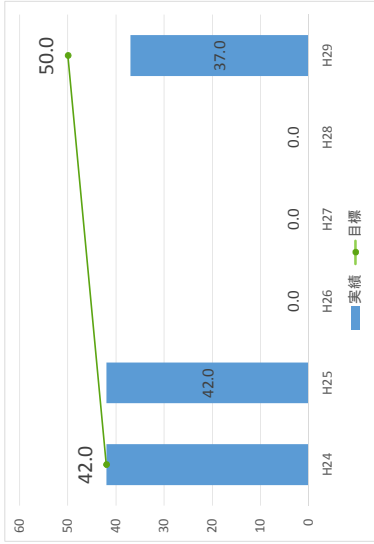
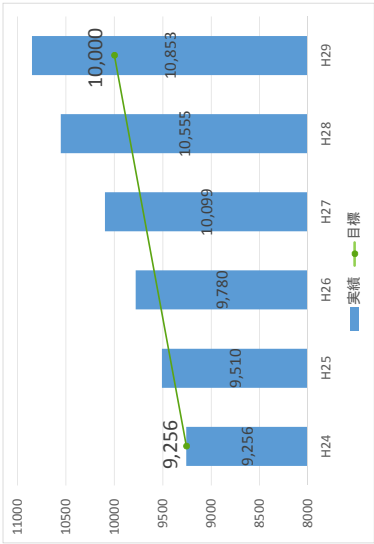
No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引続けためざそう値
			H24	H26	H27	H28	H29	H29				
	めざす姿	所管課	a					b	c		グラフ	
図書館資料の貸出冊数												
(6-2)	市民が望む学習が実践できる環境を整備し、市民の自発的な学習活動を活性化します。	図書館課	4.8 冊／人・年	5.7 冊／人・年	5.9 冊／人・年	6.0 冊／人・年	5.9 冊／人・年	7.0 冊／人・年	B			施策の柱2-4 「人口1人当たりの図書貸出点数」 H28: 5.95点/人 ⇒ H33: 7.28点/人
83			■総評・主たる成果 市民のニーズにあった暮らしや仕事に役立つ図書館として、必要な図書資料を計画的に整備し、平成24年度に新島田図書館、平成27年度には新川根図書館を移転オープンさせた。 目標値の達成はできなかったが、平成28年度以降の人口1人当たりの貸出冊数は、県下市立図書館の平均値を上回るなど、一定の成果を得ている。 【参考】県下市立図書館1,000人当りの貸出冊数 ・平成24年度 5,914冊 (島田市4,758冊) ・平成25年度 5,907冊 (島田市5,690冊) ・平成26年度 5,897冊 (島田市5,737冊) ・平成27年度 5,920冊 (島田市5,895冊) ・平成28年度 5,884冊 (島田市5,950冊) ・平成29年度 5,770冊 (島田市5,899冊) ■目標達成のための取組で特記すべき事項 島田図書館では、日頃図書館を利用しない人たちの獲得のため、通常、図書館では開催しない「図書ヨガ」や「図書館コンサート」など、多彩なイベントを開催することで集客を図った。川根図書館では学校併設の強みを活かし共同イベントを実施した。また、金谷図書館では展示ブースを開放して関連する本を紹介するなど、貸出冊数を伸ばす取組を行った。									
市立図書館蔵書数												
(6-2)			398,499 冊	412,777 冊	426,183 冊	426,286 冊	436,650 冊	437,500 冊	A			施策の柱2-4 「人口1人当たりの図書貸出点数」 H28: 5.95点/人 ⇒ H33: 7.28点/人
84			■総評・主たる成果 市民のニーズにあった暮らしや仕事に役立つ図書館を目指し、必要な資料を収集した。平成30年度までに文部科学省の望ましい基準として示されている、人口規模10万人に対応する蔵書冊数45万冊を目標として計画的に整備し、平成29年度末時点で蔵書冊数は436,650冊となった。 平成27年度までは計画どおりに進んでいたが、平成28年度の教育委員会事務局移転に伴い、島田図書館分館スペースの一部を提供することになり、大量の除籍を強いられれたことが未達成の要因である。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 図書館資料の充実だけでなく、ハード面の整備も進め、平成24年度新島田図書館、平成27年度新川根図書館を移転オープンさせ、市民の図書館利用の促進を図った。									

第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		基 準 値 (計 画 決 定 時) H24 a	実 績 値 H26 H27 H28 H29 b				目 標 値 (め ざ そ う 値) H29 o	評 価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課								
85	家庭教育講座参加者数（年間） (6－3)		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など							
	子ども・若者が、豊かな人間関係を築き、自立した個人として心身ともに健やかに育つことができる地域社会の実現を図ります。	社会教育課	383 人	388 人	1,939 人	1,842 人	2,410 人	440 人	A	施策の柱2-4 「夜間や休日に開催する家庭教育講座の参加者数(年間)」 H28: 194人⇒ H33: 300人
										
	社会教育施設(図書館、公民館等)におけるおはなし会参加者数（年間） (6－3)		施策の柱2-4 「人口1人当たりの図書貸出点数(年間)」 H28: 5.95点/人 ⇒ H33: 7.28点/人							
86	子ども・若者が、豊かな人間関係を築き、自立した個人として心身ともに健やかに育つことができる地域社会の実現を図ります。		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など							
	子ども・若者が、豊かな人間関係を築き、自立した個人として心身ともに健やかに育つことができる地域社会の実現を図ります。	社会教育課 図書館課	3,175 人	3,348 人	3,882 人	3,969 人	4,289 人	3,700 人	A	施策の柱2-4 「人口1人当たりの図書貸出点数(年間)」 H28: 5.95点/人 ⇒ H33: 7.28点/人
										

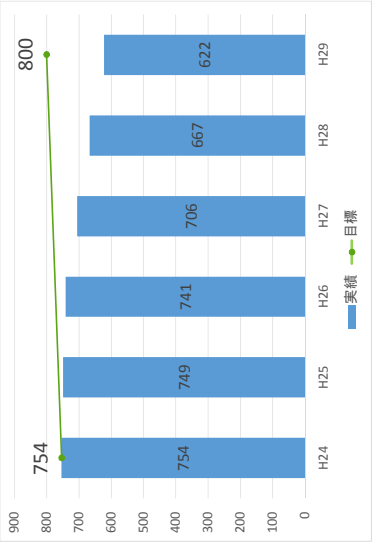
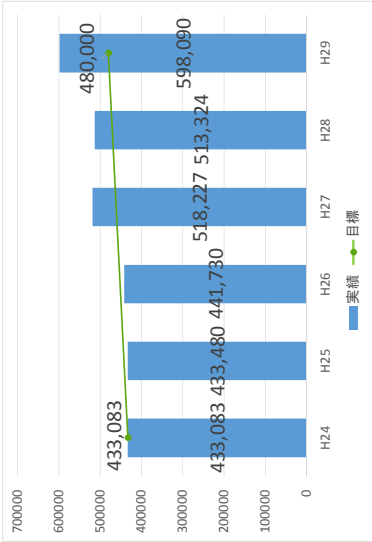
第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		基準値 (計画策定時) H24 a	実績値				目標値 (めざそう値) H29 c	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29 b			
				後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など						
87	青少年声掛け運動参加者数（年間） (6－3)	社会教育課	9,256 人	9,780 人	10,099 人	10,555 人	10,853 人	10,000 人	A	施策の柱2-4 「市民意識調査「青少年の健全育成」における市民満足度」 H28: 26.6% ⇒ H33: 28.0% H28: 48.6% ⇒ H33: 50.8%
	子ども・若者が、豊かな人間関係を築き、自立した個人として心身ともに健やかに育つことができる地域社会の実現を図ります。		■総評・主たる成果 島田市青少年育成支援センター運営協議会の育成補導員に対し、主な活動を野外における補導活動から、あいさつ運動や声掛け運動を主体とした健全育成活動に重点を置くよう意識づけを行った。 その結果、各学区ごとの地域の特性に合わせた活動が実施され、声掛け運動の参加者の増加につながったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 声掛け運動については、島田市青少年育成支援センター運営協議会育成補導員に参加依頼をするだけでなく、市内の小中学校に対し、児童や生徒にも声掛け運動への参加を呼びかけた。 各学区の地域の特性に合わせた健全育成活動（小中学校の校門や最寄駅、地域の行事におけるあいさつ・声掛け運動）の中で、毎年継続的に声掛け運動を実施したことが、参加者数の増加につながった。 夏期休業終了後の登校日（8月28日、8月29日）に合わせて、各学区一斉に、育成補導員による「しまだ大井川あいさつの風プロジェクト」と題した声掛け運動を島田駅を含む市内9か所で実施した。							
88	1日30分以上で週1回以上の運動を継続して行う市民（成人）の実施率 (6－4)	スポーツ振興課	42.0 % (H25)	— %	— %	— %	37.0 %	50.0 %	D	施策の柱2-5 「ニュースポーツ教室の述べ参加人数」 H28: 1,215人 ⇒ H33: 1,330人 「市主催スポーツ大会への参加者数」 H28: 2,944人 ⇒ H33: 3,220人
	「市民ひとり1スポーツ」の実現のため、市民だれもが気軽にスポーツに親しみ、継続できる環境をつくります。		■総評・主たる成果 平成29年度における「1日30分以上の運動を週1回以上した人」の割合は、平成25年度と比較し、5ポイントの減となった。 しかし、別の指標をみると、「週1回以上運動した人」の割合は、平成29年度で47%となり、平成21年度の46%から僅かに増加していた。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 スポーツをはじめめるきっかけづくりとなる、誰でも楽しむことができるニュースポーツ教室の開催をはじめ、元日マラソンなどスポーツ大会を開催した。							

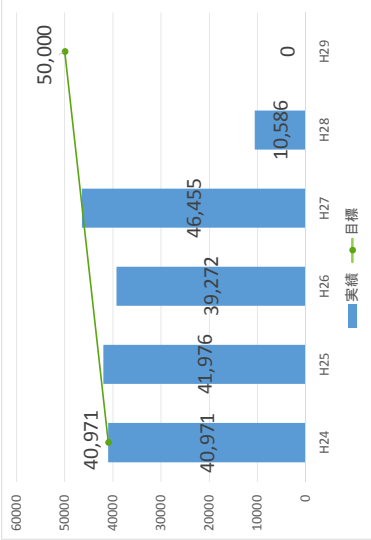
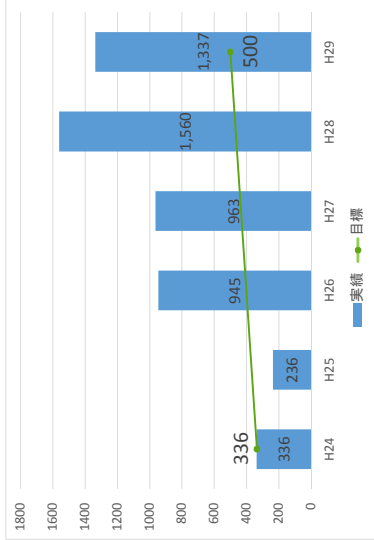


第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		所管課	主要社会体育施設の利用者数（年間） (6－4)							評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値
	めざす姿	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など										
89	「市民ひとり1スポーツ」の実現のため、市民だれもが気軽にスポーツに親しみ、継続できる環境をつくります。	スポーツ振興課	主要社会体育施設の利用者数（年間） (6－4)	433,083 人	441,730 人	518,227 人	513,324 人	598,090 人	480,000 人	A	「施設利用者数(社会体育施設)(年間)」 H28: 1,143,600人 ⇒ H33: 1,339,600人 ※後期基本計画は主要社会体育施設の利用者としていたが、すべての社会体育施設を対象に変更した。	
				■総評・主たる成果 総合スポーツセンターは指定管理者制度導入後、自主事業の各種教室を開催するなど、施設利用者数は毎年増加している。 その他の社会体育施設については、施設改修や整備工事などの実施により、施設の安全性や利便性の向上が図られ、大幅な利用者数の増加に繋がったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 市民が利用しやすい施設とするため、横井運動場公園内のサッカー場を人工芝に整備したほか、島田球場の耐震化やスタンドベンチ取替工事等を実施した。 金谷体育センターにおいては、卓球室への空調設備の導入や卓球台の更新を実施した。川根体育館においては、耐震補強工事を実施している。 大井川緑地については、ソフトボール場等のバックネット改修工事を継続して実施している。								
	島田市民文化祭出展者数（年間） (6－5)	文化課	島田市民文化祭出展者数（年間） (6－5)	754 人	741 人	706 人	667 人	622 人	800 人	D	「市民文化祭出展者、出演者、観客数計(年間)」 H28: 9,100人 ⇒ H33: 10,000人	
				■総評・主たる成果 出展者・発表者の固定化により、年々実績値が減少している。 参加者増に向けた取組として、平成28年度には3回の文化祭検討委員会準備会を設置し、開催会場や開催方法について検討した。 また、文化祭ポスターを町内会に配布するとともに、開会式を実施し、出展者・発表者以外の市民に対しても文化祭の開催を周知したが、目標達成には至らなかった。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 募集要項を改正し、出品者の対象年齢を引き下げ、中学生から作品応募できるようにした。また、展示会場でワークショップを実施するなど、来場者の確保に努めた。								



第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標	実績値				目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
		基準値 (計画策定時)	H24	H26	H27	H28	H29		
	めざす姿	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など	a				b		グラフ
91	お茶の郷入館者数 (6－5)	市民が文化的で心豊かな生活が実感できるよう、文化・芸術に親しむ機会を充実します。	農林課	40,971 人	39,272 人	46,455 人	10,586 人	50,000 人	引継指標なし
				■総評・主たる成果 平成28年6月に、当施設を静岡県に移管した。移管前までは、団体旅行者やインバウンド誘客に向けたPRに力をいれるなど、観光交流客数の増加に向けた取組により、入館者数は目標値に近づいていた。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 「ふじのくに茶の都構想」の拠点施設として県が運営することとなった。 今後も県と共に、旧釜谷中学校跡地に展開される官民連携事業と連携を図りながら、国内外への情報発信や誘客に力を入れていく。					
92	お茶の入れ方セミナー参加者数 (年間) (6－5)	市民が文化的で心豊かな生活が実感できるよう、文化・芸術に親しむ機会を充実します。	農林課	336 人	945 人	963 人	1,560 人	1,337 人	引継指標なし(第2次総合計画には引き継がなかったが、取組自体は茶業振興協会各支部やJA大井川が中心となり継続していく。)
				■総評・主たる成果 茶業の振興を図るため、JA大井川や島田市茶業振興協会に所属する各茶業青年団が、市内の小学校などを中心に積極的に研修を開催することで、目標を大幅に達成することができた。 また、研修を通じてお茶の効能や楽しみ方などを学ぶことにより、「茶」への関心を高めることができた。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 島田市新規採用職員や島田信用金庫新人職員、市内小学生や中学生、高校生を対象とした研修を実施することで、地元の特産品である茶への関心を高めることができた。 今後も、小学生・中学生を中心に、若い世代に特産品である茶への関心を高める機会が必要と考える。					

第6章 人を育て、歴史を大切に新しい文化を創造するまち

No.	めざそう値 指標		所管課		後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など						評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値														
	めざす姿		博物館・博物館分館入場者数（年間）		（6－6）																					
93	地域住民との連携のもと、文化遺産・文化財の保護・保全に努めるとともに、その利活用を進め、後世に歴史資源を引き継ぎます。			■総評・主たる成果 入場者数の多寡は、企画展の魅力に負うところが大きいと考えられるが、平成28年度の「島田の刀鍛冶と天下三名槍」においては、空前の刀剣ブームという追い風と、天下三名槍集結という全国初のトピックが重なることにより、県内外から桁違いの入場者を呼び込むことができた。平成29年度の刀剣展第2弾において、刀剣ブームの火付け役といわれるオンラインゲーム「刀剣乱舞」に登場する名刀の写しを目玉として集客を図ったことが、前年ほどのインパクトはなく、ブームの沈黙化や、年度跨ぎで約1か月という短期間の展示であったことと、前年同様街中のにぎわい創出イベントを実施したほか、新たにタクシー業界とのコラボレーションを行うなど、博物館展示を中心としたにぎわい創出の取組として一定の成果は得られたと考える。 一方で、地域の歴史・文化・芸術に親しむ機会を創出するため、地元出身の画家や書家、芸術家の作品に焦点を当てる展示を行ったことは、地域に根差した公立博物館として果たすべき役割を担ったものと自負しているが、集客面では苦戦する要因ともなっており、今後の課題と考えている。			42,383 人			30,533 人			42,810 人			57,395 人			41,745 人			45,000 人			D	施策の柱5-1 「島田市博物館入場者数（分館含む）（年間）」 H28: 57,395人 ⇒ H33: 50,000人

実績値		目標値 (めざそう値)		評価		
H24 a	H26	H27	H28		H29 b	H29 c

42,383	30,533	42,810	57,395	41,745	45,000
D					

42,383	42,383	41,579	30,533	42,810	57,395	41,745	45,000
H24	H25	H26	H27	H28	H29	目標	実績



第7章 市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち ～まちづくりの進め方～

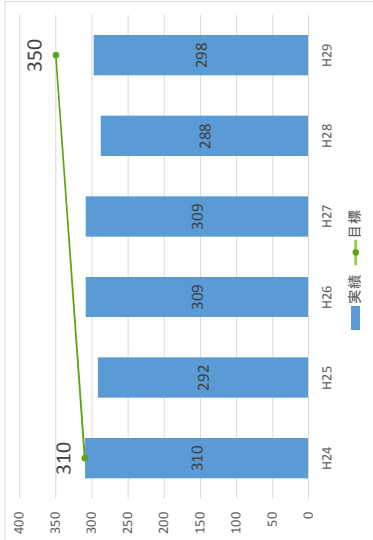
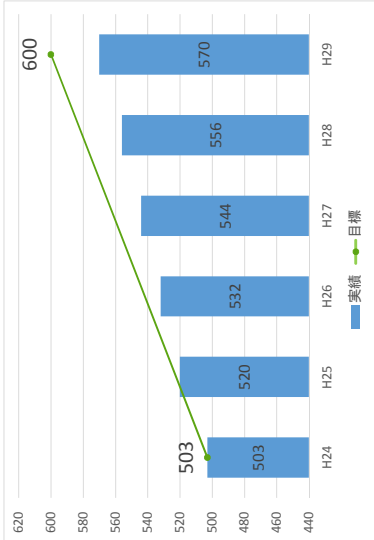
No.	めざそう値 指標		実績値					目標値 (めざそう値)		評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿	所管課	H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c				
	めざす姿	所管課	後期基本計画期間における総評・主たる成果、目標達成のために工夫したこと、注力したこと など									グラフ
94	市民ファシリテーターの養成人数 【やりがい協働プロジェクト】 (7ー1)		0 人	21 人	24 人	28 人	24 人	30 人	A			引継指標なし
	市民参加による協働のまちづくりを進めるため、地域で活動するだれもがまちづくりの担い手である意識を大切にします。	協働推進課	■総評・主たる成果 平成29年度についても、自治会・青年会議所・市内企業などに協力を仰ぎ、幅広い年代・立場の方に研修に参加していただいた。 応募者は32人であったが、7回の研修のうち継続的に参加していただいたのは24人であった。 人数としては当初の目標には達しなかったが、自治会活動や市民活動など受講生それぞれの活動の場において、本研修で得たスキルが活用されていると報告を受けており、内容としては一定の成果があったと考え ■目標達成のための取組で特記すべき事項 市のフェイスブックや、ツイッター等のSNSを活用することで、多くの市民に参加していただくことができた。 平成29年度については、平成28年度までの研修修了生の協力のもと、5回の行政主催のワークショップと1回の市民主催の地域ワークショップを実施した。また、平成29年度ファシリテーター養成講座の受講生によって新たな市民ファシリテーター団体結成され、計2回のワークショップが運営された。 上記のとおり、本研修を受講した市民ファシリテーターによって、着実にワークショップが運営されており、協働のまちづくりを担う人材の育成が着実に進んでいる。									
	「男は仕事、女は家庭」という男女の役割を固定的に考える意識にとられない市民の割合 (7ー2)		46.6 % (H25)	— %	— %	— %	62.2 %	65.0 %	A			施策の柱4-4 「女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識」 H28: 81.2% ⇒ H33: 85.0% H28: 88.5% ⇒ H33: 90.7%(←全体の回答のうち、「無回答」を除いた割合)
95	市民一人ひとりが互いに人権を尊重しあい、性別、年齢、国籍などにかかわらず、だれもが安心して豊かに暮らせるまちづくりを目指します。	協働推進課	■総評・主たる成果 平成27年9月に施行された「女性活躍推進法」など法整備が進み、女性の登用やワーク・ライフ・バランスを推進する施策が増えている。固定的な役割分担意識は全体では減少しているが、男女間や世代間での意識の違いはある。少子高齢化、人口減少が進む中、持続可能で活力ある社会の構築のためには、男性は仕事、女性は家事・育児とすることや慣習にとらわれない意識改革や、男女が個性や能力を発揮し、自らの意思であらゆる分野に参画できる環境整備を進めていくことが必要である。 上記めざそう値の項目については、市民意識調査の設問を平成26年度から「女性の社会進出を後押しする動きが広がることについて、基準値と同一基準で比較可能な数値は把握していない。なお、女性の社会進出を後押しすることについては、平成26年度は79.4%、平成27年度は81.2%、平成28年度は81.2%、平成29年度は78.2%の人が「推進すべき」と回答した。 【参考】 固定的役割分担意識に反対する人の割合 内閣府 平成28年度 男性58.5% 女性49.4% 静岡県 平成29年度 男性55.4% 女性66.2%									

第7章 市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち ～まちづくりの進め方～

No.	めざそう値 指標		所管課	実績値							評価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	基準値 (計画策定時) H24 a		H26	H27	H28	H29	目標値 (めざそう値) H29 o	など			
96	人権教育啓発講習会の受講者数 (7-2)	0 人	0 人	650 人	461 人	491 人	150 人	A	施策の柱4-4 「人権教育啓発事業への参加者数(年間)」 H28: 461人 ⇒ H33: 500人	グラフ		
	市民一人ひとりが互いに人権を尊重しあい、性別、年齢、国籍などに問わず、だれもが安心して豊かに暮らせるまちづくりを目指します。 生活安心課	■総評・主たる成果 市民一人ひとりが個人として尊重され、誰もが平等に活躍できる社会の実現を目指して、学校や地域等において人権教育や啓発活動に取り組んだ。その一環として人権教育啓発講座を開講している。平成29年度は市内5つの小中学校及び認定こども園において計6回開催し、児童・生徒など491人が受講している。今後も継続して実施し、さらなる拡充を図りたい。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 受講者数は目標を達成した。上記にも記載しているが、今後も引き続き小中学校、幼稚園・保育園のほか福祉施設など対象範囲を広げて実施していきたい。										
97	普通財産（法定外公共物を含む） 譲渡件数 【やりがい協働プロジェクト】 (7-3)	211 件	304 件	326 件	364 件	413 件	386 件	A	施策の柱7-4 「公的不動産の管理・活用に向け公民連携手法の導入を検討した案件の数」 H28: 1件 ⇒ H33: 10件			
	公共施設について、利用等の実態や財政状況を考慮しながら、効果的な更新や配置の方針を検討し、整備を行います。 資産活用課	■総評・主たる成果 法定外公共物の譲渡（いわゆる官地の私下げ）については、宅地開発等に伴い開発予定地内に介在する法定外公共物を譲渡するケースが多かったことにより、当初の想定件数を上回った。 利用の見込みのない市有地について、公売を促進した。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 法定外公共物の譲渡は宅地開発等による土地需要の動向に左右される側面が大きく、公売についても未利用となった市有地の発生状況に応じて実施するものであることから、これらに関し何らかの具体的な取組を通して目標値の達成を目指すことは困難であった。										

第7章 市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち ～まちづくりの進め方～

No.	めざそう値 指標		基 準 値 (計 画 策 定 時) H24 a	実 績 値				目 標 値 (め ざ そ う 値) H29 b		評 価	第2次島田市総合計画に引継いだめざそう値
	めざす姿	所管課		H26	H27	H28	H29	c			
98	島田市・リッチモンド市友好親善使節参加者総数 (7-4)	地域づくり課	503 人	532 人	544 人	556 人	570 人	600 人	B	施策の柱5-3 「市民意識調査『国際交流や都市間交流の推進』における市民満足度」 H28: 27.2% ⇒ H33: 30.0% H28: 49.3% ⇒ H33: 52.4% (「わからない」や無回答を除いた数値)	グラフ
	国内外の地域との連携・交流により、他地域の文化や多彩な感覚を理解するまちをつくりまします。		■総評・主たる成果 学生相互派遣については、次世代を担う若者の国際感覚を養い、国際的な視野を広めることを目的に、毎年島田市国際交流協会が実施している。平成29年度は、リッチモンド市からの5人（学生4人・引率1人）を受け入れ、リッチモンド市へ9人（学生8人・引率1人）を派遣した。 当事業は、受入側の費用負担やホストファミリーの確保などを考えると、毎年の派遣可能人数に限られてくるため、目標値の達成には至らなかったが、参加者数の増加を継続している。派遣事業参加者は、帰国後、帰国報告会や協会事業にも積極的に参加するなど、市民の国際交流への関心を高める一役を担っており、取組の成果はあったと考える。今後継続実施していくことで、参加者の増加を見込んでいる。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 リッチモンド市とは、リッチモンド友好委員会（島田市国際交流協会）の活動を中心に、市民レベルでの交流が続いている。今後の協会事業継続のためには、若年層の会員増加及び育成が必要であり、当事業はその一端を担っている。 市では、協会に対し学生親善使節補助金を交付し、参加者の負担を減らすことで、継続した事業の実施を推進してきた。								
99	市ホームページ総ページビュー数 （※再掲） 【やりがい協働プロジェクト】 (7-5)	広報情報課	310 件	309 件	309 件	288 件	298 件	350 件	D	施策の柱5-2 「島田市公式ホームページの総ページビュー数」 H28: 2,884,538件 ⇒ H33: 3,000,000件	
	多様化する市民ニーズに対応した効果的かつ効果的な行政経営により、行政サービスの向上を目指します。		■総評・主たる成果 島田市公式ホームページを通して、市の行政情報を市民に広く迅速にわかりやすく伝え市民サービスの向上・市の振興等に資するとともに、全国に向けて事業情報等を発信する取り組みを進めてきた結果、目標値の達成には至らなかったが、閲覧者ニーズの多様化やシステムが老朽化していく中で大きく数値を下げることなく推移することができた。 YouTubeの活用や公式ホームページとリンクしたTwitter(ツイッター)やFacebook(フェイスブック)などのSNSについては順調にフォロワー数やページへの「いいね」件数が増加していることから一定の効果はあったと考える。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 これまでもSNSの活用による公式ホームページへの誘導や連携を図ってきたが、平成29年度新たにInstagram(インスタグラム)や新たなコンテンツとして、島田市緑茶化計画専用サイトの運用を開始することで、公式ホームページへの誘導や連携を強化し、市の行政情報を市民に広く迅速にわかりやすく伝え市民サービスの向上に資する取組を推進した。								



第7章 市民と行政がともに創る、活力に満ちたまち ～まちづくりの進め方～

No.	めざそう値 指標		所管課	実績値						目標値 (めざそう値)	評価	第2次島田市総合計画に引継しためざそう値	
	めざす姿			H24 a	H26	H27	H28	H29 b	H29 c				
経常収支比率				引継指標なし								グラフ	
【やりがい協働プロジェクト】 (7－5)				89.8 %	91.6 %	88.5 %	89.9 %	90.1 %	90.0 % 以下	－			
多様化する市民ニーズに対応した効率的かつ効果的な行政経営により、行政サービスの向上を目指します。				■総評・主たる成果 平成29年度は、地方税、地方消費税交付金といった比率を下げる要因となる経常一般財源等が、前年度に比べ5,318万4千円増加している。 一方、経常経費充当一般財源は、物件費及び扶助費の伸びにより、前年度に比べ9,532万8千円増加した。 そして、比率を押し上げる要因となる経常経費充当一般財源が増えたことで、平成29年度の経常収支比率は90.1%（前年度比0.2ポイント上昇）を示した。 なお、所定の計算式に基づく達成率の算出が難しいこと、さらに、経常収支比率に対応するAからDまでの段階評価の設定が困難であることから、目標達成の成否を基準に、評価としては未達成と判断した。 参考に、政令市を除く県内33市町の経常収支比率を見ると、当市の状況は、川根本町、裾野市、袋井市に次いで4番目の数値となっている。 ■目標達成のための取組で特記すべき事項 目標達成への取組としては、市債の借入れ抑制による後年度の公債費軽減、予算査定時における物件費の精査などにより経常収支比率の上昇を抑えることに努めている。								